

HP Client Automation

アウトバンド管理

Windows® オペレーティング システム用

ソフトウェア バージョン: 8.10

ユーザー ガイド

ドキュメントのリリース日: 2012 年 2 月
ソフトウェアのリリース日: 2012 年 2 月



ご注意

保証

HP の製品およびサービスで保証されるのは、製品およびサービスに添付される明確な保証文で説明されているものだけです。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的誤り、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ ソフトウェアです。所有、使用、または複製を行う場合には、HP からの正規のライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従い、商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメンテーション、および市販品の技術データは、各販売業者の標準営業許可のもとに米国政府にライセンスされています。

著作権について

© Copyright 2003-2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

Intel® は米国内およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Java は Oracle Corporation またはその関連会社、あるいはその両方の登録商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows® XP および Windows Vista® は、Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

謝辞

この製品は、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) (英語サイト) で開発されたソフトウェアを含みます。

この製品には、Eric Young (eay@cryptsoft.com) が開発した暗号ソフトウェアが含まれています。

この製品には、OpenSSL ツールキットで使用するための、OpenSSL Project が開発したソフトウェアが含まれています。OpenSSL については、<http://www.openssl.org> (英語サイト) を参照してください。

この製品には、Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com) が開発したソフトウェアが含まれています。

ドキュメントの更新

本書のタイトル ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェア バージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントのリリース日。ドキュメントが更新されるごとに変わります。
- ソフトウェアのリリース日。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日を示します。

最近の更新がないか確認したり、最新版ドキュメントを使用していることを確認したりするには、次の URL に移動してください。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを使用するには HP Passport に登録してサインインする必要があります。HP Passport ID を登録するには、次の URL を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport サインインのページの [New user registration] のリンクをクリックしてください。

適切な製品サポート サービスを購読している場合にも、更新版や新版を受け取ることができます。詳細は、HP 営業担当者までご連絡ください。

サポート

次の HP Software のサポート オンライン Web サイトを参照してください。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

この Web サイトには、HP Software の製品、サービス、サポートに関するお問い合わせ先情報が掲載されています。

HP Software オンライン サポートでは、お客様自身が問題を解決するのに有益な情報を提供します。ビジネスを管理するために必要な対話型技術サポート ツールに素早く効率的にアクセスする方法を提供しています。サポートを受けるお客様は、サポート Web サイトを使って以下のことができます。

- 関心がある知識ドキュメントの検索
- サポート事例および機能強化リクエストの提出とサポート状況の追跡
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの問い合わせ先の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- 他のソフトウェア顧客とのディスカッションへの参加
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

サポート領域のほとんどでは HP Passport ユーザーとして登録しサインインする必要があります。また多くの場合サポート契約も必要です。HP Passport ID を登録するには、次の URL を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセス レベルに関する詳細については、次を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

1	はじめに	9
	概要	9
	略語と変数	10
	OOBM ワークフロー	10
	HPCA 内の OOBM 構造	11
	OOBM 管理操作	12
	OOBM のメリット	14
2	vPro デバイスおよび DASH デバイスのセットアップ	15
	vPro デバイスのセットアップ	16
	vPro デバイスの SCS プロビジョニング	16
	異なるシステム上の HPCA と SCS	16
	TLS モードのセットアップ	16
	SCS Server のセットアップ	22
	Setup and Configuration Service のインストール	22
	SCS Console へのログイン	22
	SCS サービスの設定	22
	プロファイルの作成と設定	22
	vPro デバイスのプロビジョニング	23
	MEBx を使用した vPro デバイスの設定	24
	リモート設定を使用した vPro デバイスの設定	24
	vPro デバイスの表示	29
	認証モードの変更	29
	DASH デバイスのセットアップ	30
	DASH 設定	30
	DASH 設定ユーティリティ	31
3	OOBM 設定	33
	設定パラメータについての情報	33
	SCS パスの再設定	33
	Client Automation Web サービスの再設定	33
	IDE-R ドライブの設定	33
	SOL ポートの設定	34
	SNMP ポートの設定	34
	IDE-R および SOL タイムアウト値の設定	34
	Web サービスのタイムアウト値の設定	34
	DASH デバイスのキャッシュ サイズの設定	35
	セキュリティ パラメータの設定	35
	ウォッチドッグの設定	36
	デバッグに使用する設定	36

設定パラメータ	36
OOBM Service と SCS 間の安全なアクセスの設定	45
OOBM Service と SCS 間の安全なアクセスの無効化	45
Java キー ストアへのルート証明書のインポート	46
PEM 形式への証明書の変換	47
4 管理タスク	49
有効化	49
設定	49
操作	50
管理	50
Client Automation Enterprise	50
Client Automation Standard	51
デバイス タイプの選択	52
デバイス タイプの選択によって決まる設定および操作オプション	53
vPro システム保護の設定	53
システム防御フィルタの管理	54
システム防御ポリシーの管理	57
ヒューリスティック情報の管理	61
ウォッチドッグの管理	64
プロビジョニング タスクの実行	69
5 デバイス管理	73
複数のデバイスの管理	73
デバイス探索	74
複数のデバイスの選択	76
DASH デバイス管理の認証情報	76
デバイス情報のリフレッシュ	77
電源管理	78
警告メッセージ予約の管理	78
共通ユーティリティの管理	78
システム防御ポリシーの配布	79
ヒューリスティックの配布	80
ウォッチドッグの配布	80
エージェント ソフトウェア リストとシステム メッセージの配布	81
デバイスの削除	81
個々のデバイスの管理	82
電源状態の表示	82
vPro イベント ログの表示	87
vPro イベント フィルタの表示	87
vPro 一般資産情報の表示	88
ハードウェア資産の表示	88
ソフトウェア資産の表示	89
電源状態の変更	90
システムの再起動	94
IDE-R による vPro システムの再起動	95
vPro システムの再起動による BIOS 設定画面の表示	97

システムの再起動による起動前実行環境への移行	99
起動して DASH のみでサポートされている電源状態に移行	100
vPro デバイスでの KVM リダイレクション	101
vPro デバイスのシステム防御フィルタの管理	102
vPro デバイスに対するシステム防御ポリシーの管理	103
vPro デバイスのヒューリスティックの管理	105
vPro デバイスのウォッチドッグの管理	106
vPro デバイスのフロント パネル設定の設定	107
vPro デバイスのフラッシュ メモリ書き換え回数制限のリセット	107
DASH デバイスの起動設定の設定	108
6 グループ管理	111
複数の vPro デバイス グループの管理	111
複数グループの選択	112
グループ リストと Client Automation リポジトリの同期	112
電源管理	113
警告メッセージ予約の管理	113
OOBM エージェント ソフトウェア リストの配布	113
プロビジョニング	114
システム防御ポリシーの配布	114
ウォッチドッグの配布	115
ヒューリスティックの配布	116
個別の vPro デバイスの管理	117
[全般] タブ	117
[プロパティ] タブ	117
[デバイス] タブ	117
7 警告の通知	119
vPro デバイスで発生した警告の表示	119
8 使用ケース シナリオ	121
ハードウェアの障害と置換	121
概要	121
使用ケースで実行する手順	122
オペレーティング システムの障害と再起動	122
概要	123
使用ケースで実行する手順	123
ウイルス感染の検出と検疫	123
概要	124
使用ケースで実行する手順	124
デバイスの検疫と修復	126
概要	126
使用ケースで実行する手順	126
基幹ソフトウェアの監視	128
概要	128
使用ケースで実行する手順	129
ワームの感染と封じ込め	134
概要	134

使用ケースで実行する手順.....	134
9 トラブルシューティング	137
一般的な問題.....	137
全般.....	138
プロビジョニング.....	143
探索.....	144
リモート操作.....	147
電源状態.....	153
再起動.....	154
システム防御およびエージェント存在.....	157
無線.....	162
移行の問題.....	163
OOBM データのバックアップ.....	164
設定ファイル.....	164
データ ファイル.....	165
データベース.....	165
ポート情報の要約.....	165
質問チェックリスト.....	166
A OOBM 機能	167
探索.....	167
ハードウェア資産.....	167
ソフトウェア資産.....	167
修復.....	168
リモート操作.....	168
イベント管理.....	169
保護.....	170
システム防御.....	170
エージェント存在.....	172
ネットワーク アウトブレイク封じ込めヒューリスティック.....	174
B vPro デバイスの遅延リモート設定	177
セットアップ モードへの移行.....	177
リモート設定 プロビジョニング プロセス.....	178
HPCA コンソールからの遅延リモート設定.....	179
C 信頼された証明書	181
信頼された証明書.....	181
TLS サーバー認証.....	181
TLS 相互認証.....	182

1 はじめに

概要

HP Client Automation (HPCA) サーバーを使用すると、システムの電源やオペレーティング システムに関係なく、アウトバンド管理 (OOBM) 機能を使用してアウトバンド操作を実行できます。

インバンド管理は、コンピュータの電源がオンでオペレーティング システムが稼働しているときに実行される操作を指します。

アウトバンド管理は、コンピュータが次のいずれかの状態のときに実行される操作を指します。

- コンピュータは電源に接続されているが稼働していない (オフ、スタンバイ、休止)
- オペレーティング システムに読み込まれていない (ソフトウェア障害またはブートの失敗)
- ソフトウェア ベースの管理エージェントが使用できない

HPCA サーバーでは、Intel の vPro デバイスおよび DASH 対応デバイスのアウトバンド管理がサポートされます。

Intel Active Management Technology (AMT) ファームウェアでは、不揮発性メモリに vPro デバイスの情報が格納されており、またリモート管理コンソールから起動できる一連の管理操作が提供されるため、電源がオフの状態でも Intel vPro デバイスの探索および管理は可能です。DASH は、いくつかの DMTF (Distributed Management Task Force) 管理構想の 1 つです。マシンの状態、オペレーティング システム、またはベンダーとは関係なく、コンピュータ システムを管理するために必要な構文と語義の総合的なフレームワークを提供します。

どちらのテクノロジーでも、ハードウェア ベースのリモート ブートおよびテキスト コンソール リダイレクションを含む、リモート診断機能および修復機能が提供されます。

Intel vPro デバイスおよび DASH デバイスの詳細については、第 2 章、「vPro デバイスおよび DASH デバイスのセットアップ」を参照してください。

OOBM 機能によって、HPCA 環境のデバイスの探索、修復、および保護などを行うプロセスを使用できるようになります。

- **探索**
OOBM を使用すると、環境内のハードウェア資産およびソフトウェア資産を識別できます。このことは、デバイス上のハードウェアの仕様、デバイス上のアプリケーションの識別、互換性の問題などを特定するために有用です。
- **修復**
OOBM では、ソフトウェア、オペレーティング システム、およびハードウェアに関するあらゆる障害の識別、診断、および修復を支援するために、リモート操作やイベント管理などの操作を使用します。イベント管理は vPro デバイスのみに関連した機能です。
- **保護**
OOBM は、悪意のあるソフトウェアおよびワームのまん延から vPro デバイスを保護することにも役立ちます。OOBM は、デバイスで実行されているエージェントを監視して、その結果ネットワーク内のワームに感染したデバイスを検疫できます。

探索、修復、および保護の詳細については、付録 A、「OOBM 機能」を参照してください。

略語と変数

このマニュアルでは、以下の表に定義されている略語と変数を使用しています。

表 1 このガイドで使われている略語

略語	定義
HPCA	HP Client Automation
Core と Satellite	1 つの Core Server と 1 つ以上の Satellite Server で構成される HPCA Enterprise 環境。すべての機能が Core Server または Satellite Server の一部としてインストールされます。
CSDB	Configuration Server Database
Portal	HPCA Portal

表 2 このガイドで使われている変数

変数	説明	デフォルト値
<i>InstallDir</i>	HPCA Server がインストールされる場所	32 ビット OS: C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA 64 ビット OS: C:\Program Files (x86)\Hewlett-Packard\HPCA
<i>SystemDrive</i>	HPCA Server のインストール先のドライブのドライブ ラベル	C:

OOBM ワークフロー

このセクションでは、HPCA 環境に OOBM を正常に実装するために実行する必要がある手順について説明します。

1 デバイスを識別してセットアップします。

これは、OOBM を使用するための前提条件です。OOBM での作業を開始する前に、Intel vPro デバイスおよび DASH 対応デバイスを識別してセットアップする必要があります。vPro デバイスと通信するための SCS Server も設定する必要があります。SCS Server、Intel vPro デバイス、および DASH 対応デバイスのセットアップと設定の細細については、第 2 章、「vPro デバイスおよび DASH デバイスのセットアップ」を参照してください。

2 HPCA 環境での OOBM の有効化

これには、HPCA Server を使用します。HPCA Server で OOBM を有効にして、Intel vPro デバイスおよび DASH 対応デバイスを管理します。詳細については、第 4 章、「管理タスク」を参照してください。

3 OOBM の設定 (オプション)

これはオプションのタスクです。OOBM 内のデフォルト設定を変更する場合は、設定パラメータを使用して、HPCA 環境内の OOBM を設定します。OOBM の設定の詳細については、第 3 章、「OOBM 設定」を参照してください。

4 管理タスクの実行

OOBM の有効化を終えれば、デバイス タイプの選択、vPro システム保護の設定、vPro デバイスのプロビジョニングなどの管理タスクを実行できます。詳細については、第 4 章、「管理タスク」を参照してください。

5 デバイスの管理

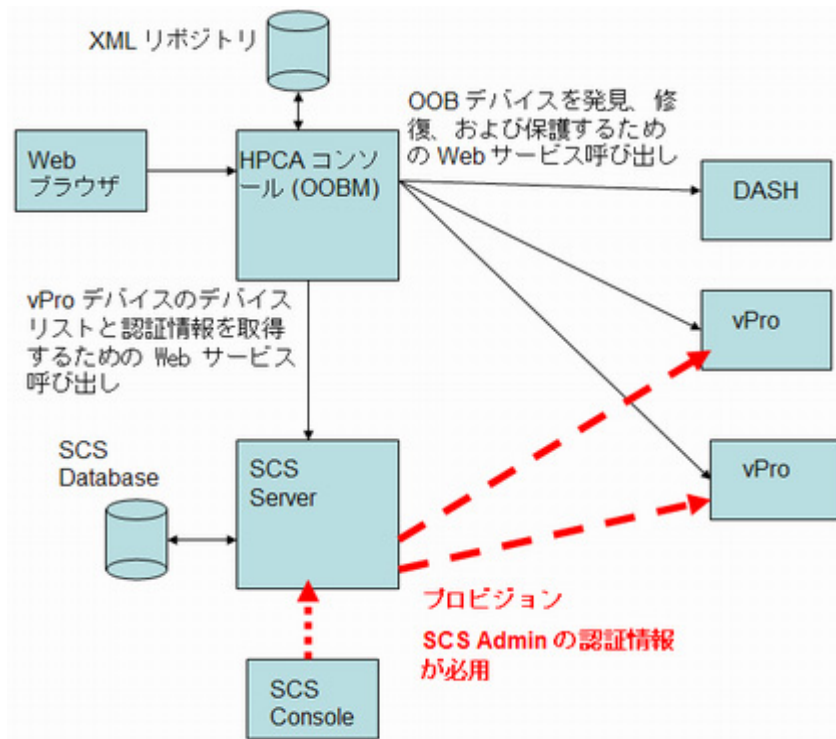
管理者またはオペレータのいずれかとして HPCA Server の [操作] タブで次のタスクを実行して、デバイスの管理を開始できます。

- **デバイスの管理:** [デバイス管理] オプションでは、複数の OOB デバイスおよび個々の OOB デバイスを管理できます。データのリフレッシュ、デバイス情報のリロード、デバイスの探索、デバイスの電源オン/オフおよび再起動、vPro 警告メッセージの予約および予約解除、vPro デバイスに関する共通ユーティリティの管理などのタスクが含まれます。詳細については、第 5 章、「デバイス管理」を参照してください。
- **グループの管理:** [グループ管理] オプションでは、Client Automation ソフトウェアで定義された vPro デバイスのグループを管理できます。vPro デバイスを含む Client Automation グループに対して OOB 操作を実行できます。vPro デバイスのグループを管理することにより、さまざまな検出、自己回復、および保護タスクを実行できます。これには、電源管理、警告メッセージの予約のほか、システム防御ポリシー、ウォッチドッグ、OOBM エージェント ソフトウェア リスト、およびヒューリスティックの配布が含まれます。詳細については、第 6 章、「グループ管理」を参照してください。
- **警告の表示:** vPro デバイスの場合、デバイスに警告のサブスクリプションを割り当てていれば、プロビジョニング済みの vPro デバイスによって生成された警告を表示できます。警告の通知を監視すると、ネットワーク上のデバイスの状態についての適切な情報が得られます。詳細については、第 7 章、「警告の通知」を参照してください。

HPCA 内の OOBM 構造

次の図に、OOBM 内の構造および通信インターフェイスを示します。

図 1 アウトバンド管理の構造



OOBM 管理操作

次の表では、管理する OOB デバイスのタイプに応じて実行できる管理操作の概要について説明します。

表 3 アウトバンドデバイスの管理操作

管理操作	vPro	DASH	参照先
プロビジョニング設定 *	X		69 ページプロビジョニング タスクの実行
デバイスの探索 **	X	X	74 ページデバイス探索
複数のデバイスの管理	X	X	73 ページ複数のデバイスの管理
全般的な資産の探索	X		88 ページ vPro 一般資産情報の表示
ハードウェア資産の探索	X	X	88 ページハードウェア資産の表示
ソフトウェア資産の探索 ***	X	X	89 ページソフトウェア資産の表示
電源管理 ****	X	X	90 ページ電源状態の変更
再起動 *****	X	X	94 ページシステムの再起動

表 3 アウトバンド デバイスの管理操作 (続く)

管理操作	vPro	DASH	参照先
IDE-R による再起動 ****	X		95 ページ IDE-R による vPro システムの再起動
BIOS への再起動 ****	X		97 ページ vPro システムの再起動による BIOS 設定画面の表示
LAN (PXE) への再起動 ****	X	X	99 ページシステム再起動による起動前実行環境への移行
より個別なスリープ状態への再起動または電源投入 ****		X	100 ページ起動して DASH のみでサポートされている電源状態に移行
テキスト コンソール リダイレクション	X	X	168 ページリモート操作を参照してください。
デバイス グループ管理	X		111 ページグループ管理
イベント管理	X		87 ページ vPro イベント ログの表示, 87 ページ vPro イベント フィルタの表示, 119 ページ警告の通知
システム防御	X		54 ページシステム防御フィルタの管理, 57 ページシステム防御ポリシーの管理
エージェント存在	X		64 ページウォッチドッグの管理
ヒューリスティック ワーム封じ込め	X		61 ページヒューリスティック情報の管理
フロント パネル設定の設定	X		107 ページ vPro デバイスのフロントパネル設定の設定
フラッシュ制限リセット	X		107 ページ vPro デバイスのフラッシュ メモリ書き換え回数制限のリセット
起動設定の設定		X	108 ページ DASH デバイスの起動設定の設定
デバイスを削除	X	X	81 ページデバイスの削除

*プロビジョニング設定: vPro デバイスは複数の方法でプロビジョニングできます。HPCA Server では、遅延リモート設定で実行する方法のうち 1 つのみを実行できます。マシンのマニュアルにあるとおり、DASH デバイスはすでにプロビジョニングされているものと想定されます。

**デバイスの探索: vPro デバイスは、SCS デバイス リポジトリを使用して探索されます。DASH デバイスは、IP アドレスの指定によってか、または Active Directory (AD) を使用することによって探索されます。

***ソフトウェア資産の探索: vPro デバイスのソフトウェア資産は、サードパーティ データ ストアにある情報によって探索されます。DASH デバイスの場合は、ネットワーク コントローラの NVRAM にある情報によって探索されます。

****電源および再起動オペレーション: 84 ページの表 13を参照してください。

OOBM のメリット

HPCA Server 内の OOBM には複数の利点があります。次にこれらの利点を示します。

- vPro テクノロジーを搭載した PC や DASH 標準が実装された PC のハードウェア ベースの管理機能を利用することにより、電源がオフの状態、オペレーティング システムが動作していない状態、または管理エージェントが存在しない状態でもこれらの PC にアクセスできるようになります。
- 初期導入時からリース契約終了時まで、ハードウェアおよびソフトウェアのインベントリの正確性および完全性が改善されます。
- PC はリモートで電源オン、再起動および再イメージ化が可能のため、デスクサイドに出向く必要性が削減されます。
- vPro デバイスにシステム防御機能が提供されます。これにより、HPCA Server で作成したポリシーおよびフィルタに基づいた、イーサネットおよび IP プロトコル パケット フローの選択的なネットワーク分離が可能になります。
- HPCA Server から作成したウォッチドッグにより、vPro システム上で動作している OOBM エージェントの監視を可能にするエージェント存在機能が提供されます。監視されているエージェントが停止した場合、エージェント存在ポリシーが有効化されます。イベントがログに記録される場合もあります。
- vPro デバイスのための、オペレーティング システムに依存しない、改ざん防止対策機能のあるワーム封じ込めシステムを提供します。ワームが検出されると、ホストが隔離され、HPCA Server に通知が送信されます。
- 管理対象 vPro デバイスのオペレーティング システム層より下層で実行される HTTP 認証と TLS (Transport Layer Security) によりセキュアで常に利用可能な通信チャネルが提供されます。

2 vPro デバイスおよび DASH デバイスのセットアップ

Intel vPro デバイスは、Intel Active Management Technology (AMT) によって有効化されています。AMT は vPro テクノロジーの一部に過ぎません。Intel チップセットおよび Intel 製のネットワーク インターフェイス カード (NIC) も、vPro テクノロジーソリューションの一部です。Intel AMT ファームウェアでは、不揮発性メモリに vPro デバイスの情報が格納されており、またリモート管理コンソールから起動できる一連の管理操作が提供されるため、Intel vPro デバイスは、電源がオフの状態でも探索および管理が可能です。

同様に、DASH 対応デバイスもアウトバンド管理を利用できます。DASH は、デスクトップおよびモバイル システムのセキュアなアウトバンド管理およびリモート管理の次世代標準を提供するように設計されています。DASH は、いくつかの DMTF (Distributed Management Task Force) 管理構想の 1 つです。マシンの状態、オペレーティング システム、またはベンダーとは関係なく、コンピュータ システムを管理するために必要な構文と意味体系の総合的なフレームワークを提供します。

両方のテクノロジーでは、ハードウェア ベースのリモート ブートおよびテキスト コンソール リダイレクションを含む、リモート診断機能および修復機能が提供されます。vPro デバイスでは、IDE-R (Integrated Drive Electronics Redirect) を使用したリモート ブート機能が提供されます。また、SOL (Serial Over LAN) テクノロジーを使用したテキスト コンソール リダイレクションも使用可能です。

Intel vPro テクノロジーでは、リモートの vPro デバイスを自動的にプロビジョニングすることも可能です。さらに、このテクノロジーはシステム防御およびエージェント存在機能を提供します。これらの機能は、vPro デバイスをマルウェア攻撃から保護し、システムを保護する OOBM エージェントの削除を防止します。また、トラフィックの計測、分析、および対処によってワームのまん延を検出および防止するメカニズムである、ネットワーク攻撃の封じ込め (NOC、Network Outbreak Containment) ヒューリスティックを提供します。

すべての vPro OOBM 機能は、TLS (Transport Layer Security) および Digest 認証によって保護されています。現在、DASH 対応デバイスに対しては、Digest 認証を使用したメカニズムのみがサポートされています。

- ▶ HPCA Server は Kerberos 認証をサポートしていません。
- ▶ OOB デバイスを探索および管理するための唯一の必要条件は、デバイスが物理的にネットワークに接続され、電源に接続されていることです。

vPro デバイスのセットアップ

SCS Server (Setup and Configuration Server と呼ばれる) は、vPro デバイスを動作させるために必要なすべての手順を実行します。SCS Server は、Intel Setup and Configuration Service (SCS) を実行するシステムであり、vPro デバイスのみに関連します。

SCS Server と vPro デバイスが相互に通信するには、以下の各セクションで説明されているとおり、両サイドで複数のセットアップ手順および設定手順を実行する必要があります。

▶ Media\OoBm\win32\AMT Config Server ディレクトリにある HPCA Core 配布メディアにバンドルされているバージョンの SCS ソフトウェアを使用してください。また、前リリースから移行する場合は、SCS ソフトウェアも、現在のリリースの配布メディアに組み込まれているものに移行してください。そうしないと、エラーが発生することがあります。

vPro デバイスの SCS プロビジョニング

SCS Server と vPro デバイス間の通信はセキュアです。SCS Server は vPro デバイスの初期パラメータ値およびセキュリティに関連する設定情報を生成して送信します。セットアップおよび設定の一環として、プロファイルに組み込まれるかまたは自動的に生成されるパラメータを設定します。

vPro セキュリティに関連する設定情報の詳細については、HPCA Core 配布メディアの Media\oobm\win32\AMT Config Server ディレクトリにある『Intel Setup and Configuration Service Console User Guide Version 5.4』の「Introduction to Intel SCS」セクションを参照してください。

セットアップパラメータおよび設定パラメータの詳細については、『Intel Setup and Configuration Service Console User Guide Version 5.4』の「Setup and Configuration Operational Overview」セクションを参照してください。

異なるシステム上の HPCA と SCS

SCS と HPCA でサポートされるオペレーティング システム プラットフォームが異なるため、SCS ソフトウェアと HPCA ソフトウェアを別のシステムにインストールする場合があります。

TLS モードのセットアップ

TLS を必要としない場合は、22 ページ SCS Server のセットアップに進みます。

セキュリティは、多くの vPro 機能、とりわけリダイレクションには重要です。SOL (Serial Over LAN) および IDE-R (Integrated Drive Electronics Redirect) の使用モデルとして、リモートからの診断、ブート、および OS のインストールを可能にするリモート トラブルシューティングがあります。通常、これらの手順には、リダイレクション セッションの一部として認証手順が伴います。この認証手順には、LAN を介して送信するユーザー名およびパスワードが必要です。vPro デバイスが TLS をサポートする場合、HPCA Server は SOL または IDE-R セッションを開始する前に vPro デバイスとの TLS セッションを確立します。これにより、すべての関連するネットワーク通信がセキュアになります。

vPro デバイスには相互認証を使用する必要があります、SCS Server にはサーバー認証を使用する必要があります。

▶ HPCA Server で TLS 認証をセットアップすると、TLS を使用するように設定されている vPro デバイスのみが管理されます。反対に、HPCA Server に TLS 認証をセットアップしていない場合は、TLS を使用するように設定されていない vPro デバイスのみが管理されます。

TLS モードをセットアップするには、以下のタスクを実行します。

タスク 1: Microsoft Certification Authority のインストール

Microsoft Certification Authority を使用すると、クライアント証明書を作成し、信頼されたルート証明書とともにこのクライアント証明書をエクスポートして、TLS 認証に使用できます。

Windows Server 2003 に Microsoft CA をインストールするには、次の手順を実行します。



Microsoft CA のインストール手順は、プラットフォームによって異なります。

- 1 Windows の **[スタート]** ボタンをクリックして、**[コントロールパネル]** を選択します。
- 2 **[プログラムの追加と削除]** をダブルクリックします。
- 3 左側のパネルにある **[Windows コンポーネントの追加と削除]** をクリックします。
- 4 **[証明書サービス]** チェック ボックスをオンにします。証明書サーバーとして動作している間はコンピュータ名またはコンピュータのドメイン メンバーシップを変更できないという旨の警告メッセージが表示されます。**[はい]** をクリックしてメッセージ ウィンドウを閉じます。
- 5 **[詳細]** をクリックします。
- 6 **[証明書サービス CA]** チェック ボックスと **[証明書サービス Web 登録のサポート]** チェック ボックスをオンにして、証明書サービスのサブコンポーネントを指定します。**[OK]** をクリックします。
- 7 **[Windows コンポーネント]** ウィンドウで、**[次へ]** をクリックします。**[CA の種類]** ウィンドウが表示されます。
- 8 設定する証明書の種類として **[エンタープライズのルート CA]** を選択します。**[次へ]** をクリックします。**[CA 識別情報]** ダイアログが表示されます。
- 9 **[CA 識別情報]** ダイアログで、次の項目を指定します。
 - この CA の共通名: Microsoft CA の共通名には、Microsoft CA をインストールするコンピュータの名前と同じ名前を指定する必要があります。
 - 識別名のサフィックス: 例: DC=AMT,DC=HP,DC=COM
- 10 Windows コンポーネントの設定ウィザードの残りの手順を完了します。すべての手順を完了したら **[完了]** をクリックします。

これで Microsoft CA ソフトウェアがインストールされます。Microsoft CA を使用すると、クライアント証明書の作成 (次のセクションを参照)、および認証プロセスでの署名に使用する信頼されたルート証明書のエクスポートを実行できます。エクスポートの手順については、20 ページ **ルート証明書のエクスポート** で説明します。

タスク 2: SCS Server での Internet Information Services サーバー証明書の作成

SCS Server と SCS コンソール間で安全な通信を行うには、サーバー証明書が必要です。

詳細手順については、HPCA 配布メディアの Media\%obm%\win32\AMT Config Server ディレクトリにある『Intel Setup and Configuration Service Installation Guide Version 5.4』の「Installing Microsoft's Certification Authority」の章の「Securing the Connection to IIS Using SSL」セクションを参照してください。

タスク 3: クライアント証明書テンプレートの作成

HPCA Server にインストールされる、TLS 相互認証用のクライアント証明書を作成する必要があります。

クライアント証明書テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 Windows の **[スタート]** ボタンをクリックして、**[ファイル名を指定して実行]** を選択します。
- 2 MMC と入力して **[OK]** をクリックします。[コンソール 1] が表示されます。
- 3 [ファイル] メニューで、**[スナップインの追加と削除]** を選択します。
- 4 **[追加]** をクリックします。[スタンドアロン スナップインの追加] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 **[証明書テンプレート]** を選択し、**[追加]** をクリックして、**[閉じる]** をクリックします。
- 6 [スナップインの追加と削除] ウィンドウで **[OK]** をクリックします。
- 7 左側のペインで、**[証明書テンプレート]** をクリックします。既存のすべてのテンプレートがコンソールの右側のペインに表示されます。
- 8 Web サーバー テンプレートを右クリックして、**[テンプレートの複製]** を選択します。
- 9 **[全般]** タブで、次の各項目を指定します。
 - **テンプレート表示名:** テンプレートを表示するときに使用するテンプレートの名前です。たとえば、ClientAuthTmp1 と指定します。
 - **テンプレート名:** テンプレートの名前。表示名と同じ名前でもかまいません。
 - **[Active Directory の証明書を発行する]** チェック ボックスをオンにします。
- 10 **[要求処理]** タブで、**[秘密キーのエクスポートを許可する]** チェック ボックスをオンにします。
- 11 **[拡張]** タブで **[アプリケーション ポリシー]** を選択し、**[編集]** をクリックします。[アプリケーション ポリシーの拡張の編集] ウィンドウが表示されます。デフォルトで、[サーバー認証] ポリシーが表示されます。
- 12 **[サーバー認証]** ポリシーを選択し、**[削除]** をクリックします。アプリケーション ポリシーの一覧が空になります。
- 13 **[追加]** をクリックします。[アプリケーションのポリシーの追加] ウィンドウが表示されます。
- 14 [アプリケーションのポリシーの追加] ウィンドウで、**[クライアント認証]** ポリシーを選択して、**[OK]** をクリックします。[アプリケーションのポリシーの追加] ウィンドウが閉じ、[アプリケーション ポリシーの拡張の編集] ウィンドウが表示されます。アプリケーション ポリシーの一覧に [クライアント認証] ポリシーが表示されます。
- 15 [アプリケーション ポリシーの拡張の編集] ウィンドウで、**[追加]** をクリックします。[アプリケーションの追加] ウィンドウが表示されます。
- 16 **[新規]** をクリックします。[新しいアプリケーションのポリシー] ウィンドウが表示されます。
- 17 アプリケーション ポリシーの名前 (例: AMTRemote) とオブジェクト識別子 (例: 2.16.840.1.113741.1.2.1) を入力します。このポリシーは、サーバー証明書の秘密キーのエクスポートを許可します。
- 18 **[OK]** を 3 回クリックします。アプリケーション ポリシーを追加すると、[アプリケーション ポリシー] の説明一覧に、クライアント認証ポリシーと AMTRemote ポリシーが表示されます。
- 19 発行ポリシーの編集で **[追加]** をクリックします。**[すべての発行ポリシー]** を選択し、**[OK]** を 2 回クリックします。すべての発行ポリシー オプションが [発行ポリシーの説明] 一覧に表示されます。
- 20 **[セキュリティ]** タブで、**[Domain Admins]** を選択し、読み取り、書き込み、登録、自動登録の各アクセス許可を設定します。**[Enterprise Admins]** を選択し、読み取り、書き込み、登録、自動登録の各アクセス許可を設定します。**[Authenticated users]** を選択し、読み取りアクセス許可を設定します。
- 21 その他のタブ ([発行の要件]、[優先するテンプレート]、および [サブジェクト名]) は一切変更する必要はありません。

- 22 **[適用]**、**[OK]** の順にクリックします。新規のクライアント認証用テンプレートが、**[証明書テンプレート]** の右側のペインに表示されます。

タスク 4: クライアント証明書テンプレートの発行

証明書をインストールするには、まず、証明書をテンプレートにすることができる証明書テンプレートを発行する必要があります。

クライアント証明書テンプレートを発行するには、次の手順を実行します。

- 1 Windows の **[スタート]** ボタンをクリックして、**[管理ツール]**、**[証明機関]** の順に選択します。
- 2 インストールされている **Microsoft CA** を展開します。証明書テンプレートを右クリックして、**[新規作成]**、**[証明書テンプレートの発行]** の順にクリックします。**[証明書テンプレートの有効化]** ウィンドウが表示されます。
- 3 17 ページ **クライアント証明書テンプレートの作成** で作成したクライアント認証テンプレートを選択します。例では、**ClientAuthTpl** テンプレートを選択しています。
- 4 **[OK]** をクリックします。発行済みの証明書テンプレートが、**[証明書テンプレート]** ウィンドウの右側のペインに表示されます。

タスク 5: クライアント証明書のインストール

- 1 SCS Server 上および HPCA Server をインストールしたシステム上にクライアント証明書をインストールする必要があります。
 - SCS Server または HPCA Server にクライアント証明書をインストールするには、次の URL を使用します。

```
http://<FQDN_CAServer>/certsrv
```

ここで、**<FQDN_CAServer>** は、**Certification Authority Server** の完全修飾ドメイン名です。

コンピュータの完全修飾ドメイン名 (FQDN) は、そのコンピュータの **Windows** デスクトップで確認できます。

- a **[マイ コンピュータ]** を右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。**[システムのプロパティ]** ウィンドウが開きます。
- b **[コンピューター名]** タブを選択します。マシンの FQDN は、このウィンドウに表示されます。

上記の URL が、ブラウザの信頼済みサイト一覧に追加されていることを確認します。上記のサイトを追加するには、次の手順を実行します。

- a ブラウザで、**[ツール]**、**[インターネット オプション]**、**[セキュリティ]**、**[信頼済みサイト]** の順に選択します。
 - b **[サイト]** をクリックします。**[信頼済みサイト]** ウィンドウが表示されます。
 - c **[次の Web サイトをゾーンに追加する]** フィールドに URL を入力します。
 - d **[このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https :) を必要とする]** チェック ボックスをオフにします。
 - e **[追加]** をクリックします。
 - f **[閉じる]** をクリックします。
- 2 **[証明書の要求]** > **[証明書の要求の詳細設定]** > **[この CA への要求を作成し送信する]** をクリックします。
 - 3 **[証明書テンプレート]** プルダウン リストでクライアント証明書テンプレートを選択します。例では、**[ClientAuthTpl]** を選択しています。
 - 4 **[オフライン テンプレート用の識別情報]** の **[名前:]** フィールドには、クライアント証明書がインストールされるマシンの完全修飾名を入力する必要があります。
 - 5 **[エクスポート可能なキーとしてマークする]** チェック ボックスを選択します。
 - 6 **[送信]** をクリックします。続くウィンドウで **[はい]** を選択して、証明書をインストールします。

タスク 6: クライアント証明書のエクスポート

HPCA Server および SCS Server の両方用にクライアント証明書をエクスポートする必要があります。

クライアント証明書テンプレートをエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 サーバー上で、Windows の **[スタート]** ボタンをクリックし、**[ファイル名を指定して実行]** を選択します。
- 2 「**MMC**」と入力して **[OK]** をクリックします。**[コンソール 1]** が表示されます。
- 3 **[ファイル]** メニューで、**[スナップインの追加と削除]** を選択します。
- 4 **[追加]** をクリックします。
- 5 **[証明書]** を選択し、**[追加]** をクリックします。
- 6 **[マイ アカウント]** を選択し、**[完了]** をクリックします。
- 7 **[閉じる]**、**[OK]** の順にクリックします。
- 8 **[コンソール 1]** の左側のパネルで、**[証明書-現在のユーザー]** ノードを展開します。
- 9 **[個人]** ノードを展開します。
- 10 **[証明書]** を選択します。
- 11 右側のパネルで、クライアント証明書を右クリックします。ポップアップ メニューが表示されます。**[目的]** タブに、インストール済みのクライアント証明書が表示されています。
- 12 **[開く]** を選択します。**[証明書情報]** ウィンドウが表示されます。
- 13 **[詳細]** タブを選択します。
- 14 **[ファイルにコピー]** をクリックします。証明書エクスポート ウィザードの **[ようこそ]** ウィンドウが表示されます。
- 15 **[次へ]** をクリックします。**[秘密キーのエクスポート]** ウィンドウが表示されます。
- 16 **[はい、秘密キーをエクスポートします]** >**[次へ]** を選択します。**[エクスポート ファイルの形式]** ウィンドウが表示されます。**[次へ]** をクリックします。
- 17 秘密キーを保護するパスワードを入力し、確認用にもう一度入力します。このパスワードは、証明書をインポートするとき必要になります。**[次へ]** をクリックします。
- 18 エクスポートするファイルの完全なパスおよび名前を入力します。ファイルの種類を示すファイルのサフィックス (.pfx) は自動的に生成されます。このフルパスは後の手順で使用するためメモしておきます。
- 19 **[次へ]**、**[完了]** の順にクリックします。
- 20 **[OK]** をクリックして **[証明書情報]** ウィンドウを閉じます。

タスク 7: ルート証明書のエクスポート

ルート証明書は、サーバー証明書とクライアント証明書に付いているデジタル署名を確認するために、vPro デバイスと HPCA Server の両方で必要になります。

- vPro デバイスでは、SCS Server によってルート証明書がプロビジョニングされ、vPro デバイスのプロファイルが設定されます。ルート証明書は、HPCA Server がクライアント証明書を vPro デバイスに送信するときに、HPCA Server クライアントの ID を認証するために vPro デバイス上で使用されます。
- HPCA Server では、ルート証明書は、vPro デバイスが HPCA Server に証明書を送信するときに、そのデバイスの ID を認証するために使用されます。ルート証明書は、ハードウェアとソフトウェアのクエリやリモート制御機能を認証するために、vPro デバイスに署名するときに使用されます。

Microsoft CA サーバーにルート証明書をエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 Windows の **[スタート]** ボタンをクリックして、**[管理ツール]** > **[証明機関]** を選択します。証明機関管理コンソールが表示されます。
- 2 左側のウィンドウで、インストール済みの **Microsoft CA** を右クリックします。ショートカットメニューの **[プロパティ]** をクリックします。**[CA プロパティ]** ウィンドウが開きます。
- 3 **[全般]** タブを選択します。
- 4 証明書を選択し、**[証明書の表示]** をクリックします。
- 5 **[詳細]** タブを選択します。
- 6 **[ファイルにコピー]** をクリックします。証明書エクスポート ウィザードが表示されます。
- 7 **[次へ]** をクリックします。
- 8 **[エクスポート ファイルの形式]** として **[DER encoded binary X.509 (.CER)]** (デフォルト選択) を選択します。
- 9 **[次へ]** をクリックします。
- 10 エクスポートするファイルの完全なパスおよび名前を入力します。ファイルの種類を示すファイルのサフィックス (.cer) は自動的に生成されます。このフルパスは後の手順で使用するためメモしておきます。
- 11 **[次へ]** をクリックして設定を確認します。続行するために、**[完了]** をクリックします。エクスポートに成功したことを示すメッセージが表示されます。
- 12 **[OK]** をクリックします。**[証明書]** ウィンドウの **[詳細]** タブに戻ります。
- 13 **[OK]** をクリックして **[証明書]** ウィンドウを閉じます。
- 14 **[OK]** をクリックして証明機関管理コンソールに戻ります。コンソールを閉じます。
- 15 **SCS Server** 上および **HPCA Server** 上の場所に証明書ファイルをコピーします。

タスク 8: PEM 形式へのルート証明書の変換

HPCA Server 上のルート証明書は、**TLS** 相互認証が有効になった場合に **IDE-R/SOL** 操作の保護のために使用できるように、**PEM** 形式に変換されます。この変換の詳細は、[47 ページルート証明書を PEM 形式に変換するには](#)で説明しています。

タスク 9: PEM 形式へのクライアント証明書の変換

クライアント証明書は、**HPCA Server** にインストールされた後、**TLS** 相互認証が有効になった場合に **IDE-R/SOL** 操作の保護のために使用できるよう、**PEM** 形式に変換されます。この変換の詳細は、[47 ページクライアント証明書を PEM 形式に変換するには](#)で説明しています。

タスク 10: JRE へのルート証明書のインポート

HPCA Server では、ルート証明書を **Java** キー ストアに追加して、**vPro** デバイスから **HPCA Server** にサーバー証明書が送信されてきたときに、**vPro** デバイスの **ID** の認証のために使用できるようにします。この変換の詳細は、[46 ページルート証明書を Java キー ストアにインポートするには](#)で説明しています。

タスク 11: セキュリティ パラメータの設定

[35 ページセキュリティ パラメータの設定](#)で説明されている方法で、**PEM** クライアント証明書および **PFX** クライアント証明書のパスワードを指定し、**TLS** 認証の設定パラメータを設定する必要があります。

タスク 12:Tomcat Service を再起動します。

HPCA Tomcat Server サービスを再開します。

SCS Server のセットアップ

vPro デバイスとのすべての通信が安全に行われるように、Setup and Configuration Service を設定する必要があります。SCS は、SCS Server 上にインストールされます。

Setup and Configuration Service のインストール

Setup and Configuration Service のコンポーネントをインストールするには、『Intel Setup and Configuration Service Installation Guide Version 5.4』の「*Installation*」の章を参照してください。

SCS Console へのログイン

SCS Console にログインするには

- 1 SCS Server 上で、Windows の **[スタート]** ボタンをクリックし、**[Intel AMT Configuration] A [Intel AMT SCS Console]** を選択します。ログイン ウィンドウが表示されます。
- 2 **[Service Name]** フィールドに、SCS Web サービスの URL パス (仮想ディレクトリを含む) を入力します。サービス名の形式は次のとおりです。 <http|https>://<Provision Server の完全修飾ドメイン名><SCS Web サービスの仮想ディレクトリ>
SCS Console が表示されます。

SCS サービスの設定

[SCS サービスの設定] ウィンドウでは、**[Active Directory 統合]** で **[なし]** を選択する必要があります。

SCS サービス設定の詳細については、『Intel Setup and Configuration Service Console User Guide Version 5.4』の「*Viewing and Configuring SCS Services*」の章を参照してください。

プロファイルの作成と設定

このプロファイルは、24 ページ新規 vPro システムの追加で説明するとおり、vPro デバイスに関連付けられます。プロファイルは、プロビジョニング プロセスで、vPro デバイスに初期値を与えるために使用されます。

プロファイルを設定するには

[Optional Settings] ウィンドウでは、次の各オプションを有効にします。

- **ACL**
- **プラットフォームに対する操作に TLS で保護された通信を使用** (TLS による通信を使用する場合のみ必須)
- **WiFi ネットワークに対する接続を許可** (無線 NIC を使用して管理する場合のみ必須)

[ACL Details] ウィンドウでは、次の各項目を指定します。

- ユーザー タイプ: **[Digest User]** を選択します。
- ユーザー/グループ名: このタイプのアカウントのユーザー名を入力します。
- パスワード: このアカウントのパスワードを入力し、**[Mask]** を有効にします。

- アクセスタイプ: プルダウンリストから **[Both]** を選択します。
- 領域: 一覧表示された適切な領域を選択します。領域によって、HPCA コンソールで vPro デバイスを管理するとき、このユーザー アカウントが実行できる操作のタイプが決まります。最初に作成するアカウントでは、**[Security Audit Log Realm]** を除くすべての領域を選択することを推奨します。

TLS ウィンドウで、次の内容を指定します (TLS 通信を使用する場合のみ必要)。

- TLS 基本設定: **[TLS Server Certification Authority]** で、リストから **[Certificate Authority]** を選択します。 **[Server Certificate Template]** で、リストから **[WebServer]** を選択します。
- 高度な TLS 設定: **[Use mutual authentication]** チェック ボックスをオンにします。リストで、使用する信頼された TLS ルート証明書を選択します。
- **[Add]** をクリックします。 **[Add Trusted Root Certificate]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、 **[From File]** を選択し、エクスポートしたルート証明書を参照します。ルート証明書の内容は表示することができます。 **[OK]** をクリックして、作業を完了します。

ルータの無線アクセス ポイントを介して WPA-TKIP プロファイルを設定するには、**[WWiFi Profile]** ウィンドウで次のように値を設定する必要があります。

- プロファイル名: 全般プロファイルの名前とは異なるプロファイルの固有名を入力します (例: **PSGWirelessProfile**)。
- SSID: ルータの無線アクセス ポイントで WPA-TKIP プロファイルを設定するときに使用した SSID 値を入力します。無線ルータのドキュメントを参照してください。
- キー管理プロトコル: プルダウンリストから **[WiFi Protected Access (WPA)]** を選択します。
- 暗号化アルゴリズム: プルダウンリストから **[Temporal Key Integrity Protocol (TKIP)]** を選択します。
- パスフレーズ: **[Passphrase]** ラジオ ボタンを選択します。ルータの無線アクセス ポイントで WPA-TKIP プロファイルを設定するときに使用したパスフレーズを入力します。無線ルータのドキュメントを参照してください。

- ▶ 無線インターフェイスを搭載した vPro デバイスのプロファイルを設定する場合は、まず、無線ルータの無線アクセス ポイントに WPA-TKIP プロファイルを設定する必要があります。無線ルータ付属のドキュメントを参照する必要があります。

プロファイルの作成と設定の詳細については、『Intel Setup and Configuration Service Console User Guide Version 5.4』の「*Creating and Changing Profiles*」の章を参照してください。

vPro デバイスのプロビジョニング

Intel vPro デバイスは、デフォルトでは、未設定状態 (工場出荷時モード) で出荷されます。管理アプリケーションで vPro デバイスにアクセスできるようにするためには、そのデバイスに、安全な通信に必要なユーザー名、パスワード、ネットワーク パラメータ、TLS 証明書、PID-PPS キーなどの設定情報を入力する必要があります。

vPro デバイスを設定するには、各デバイスの Management Engine BIOS Extension (MEBx) を入力し、必須情報を手動で入力します。手動でデバイスをプロビジョニングする場合は、事前共有キー (PSK) モードを使用して、SCS Server と vPro デバイス間の通信を保護します。詳細については、24 ページ **MEBx を使用した vPro デバイスの設定** を参照してください。

また、**Intel Remote Configuration** プロセスを利用してデバイスを設定することもできます。その場合、デバイスは自動的にプロビジョニングされます。デバイスを自動的にプロビジョニングする場合は、公開キー インフラストラクチャ (PKI) を使用して、通信を保護します。詳細については、24 ページのリモート設定を使用した **vPro デバイスの設定** を参照してください。

MEBx を使用した vPro デバイスの設定

タスク 1: セキュリティ キーの設定

セキュリティ キーの設定の詳細については、『*Intel Setup and Configuration Service Console User Guide Version 5.4*』の「*Using USB Drives for TLS-PSK Keys*」の章の「*Configuring Pre-Setup and Configuration Security Keys*」セクションを参照してください。

 **[Create TLS-PSK keys]** ウィンドウで **[Fixed Password]** を選択して、新規のパスワードを設定することを推奨します。

タスク 2: MEBx を使用した vPro デバイスの設定

ベンダーのドキュメントを参照して、正しい手順を確認してください。MEBx を使用して vPro デバイスを設定するには、次のパラメータをセットアップする必要があります。

- vPro デバイスのホスト名を入力します。
- TCP/IP を有効にします。
- DHCP を有効にします。
- **[Provisioning Server]** を選択します。Intel SCS を実行するとき使用するコンピュータの IP アドレスを入力します。
- リスポートは **9971** に設定します。
- PID と PPS に、セキュリティ キーを設定したときに指定した値を設定します。

タスク 3: 新規 vPro システムの追加

新規 vPro システムの追加については、『*Intel Setup and Configuration Service Console User Guide Version 5.4*』の「*Preparing and Managing Platforms*」の章の「*Adding a Platform Definition*」セクションを参照してください。

リモート設定を使用した vPro デバイスの設定

リモート設定とは、各デバイスに手動で PID/PPS のペアをインストールしてセットアップを有効にする必要がない vPro メカニズムです。リモート設定を活用するには、次を実行する必要があります。

タスク 1: 信用できる証明機関 (CA) からセキュリティ証明書を購入します。

CA ベンダーは、ルート証明書のハッシュ値が vPro ファームウェアに組み込まれているいずれかのベンダーと一致する必要があります。SSL 証明書を購入するベンダーの Web サイトに移動します。各サイトには、SSL 証明書の要求、登録、インストール、移動に必要な手順が説明されています。SCS Server がインストールされているシステム上のシステム証明書ストアに証明書をインストールする必要があります。詳細については、『*Intel Setup and Configuration Service Console User Guide Version 5.4*』の付録「*Remote Configuration*」の「*Remote Configuration Flow*」を参照してください。

タスク 2: vPro デバイスのリモート設定

リモート設定で vPro デバイスをプロビジョニングする方法は 2 つあります。この 2 つの方法は次のとおりです。

- vPro デバイスのベア メタル リモート設定 (25 ページ [vPro デバイスのベア メタル リモート設定](#)を参照)。
- OOBM エージェントからの遅延リモート設定プロビジョニング (25 ページ [vPro デバイスの遅延リモート設定プロビジョニング](#)を参照)。

vPro デバイスのベア メタル リモート設定

通常、デバイスをネットワークに接続すると、vPro デバイスの即時セットアップが実行されます (リモート設定要件を正しく実行した場合)。これを **ベア メタル設定**とといいます。デバイスによって、セットアップ モードに遷移したことを示す **SCS Server** への「Hello」メッセージの送信が開始されます。ネットワーク インターフェイスが開かれているネットワーク アクセスの制限時間間隔内にデバイスが正常にプロビジョニングされた場合は、さらにプロビジョニング タスクを実行する必要はありません。



HP デスクトップの場合、ネットワーク アクセスの制限の時間間隔は 255 時間です。時間間隔が経過すると、セットアップと設定時間が SCS からのネットワーク コマンドによって延長されなかった場合、インターフェイスは終了します。

vPro デバイスのベア メタル設定を実行するには

- 1 SCS Server を備えたネットワークに vPro デバイスを接続します。vPro デバイスは、SCS がインストールされているドメインに接続する必要があります。
- 2 vPro デバイスの電源を入れます。
vPro デバイスは「Hello」パケットを自動的に送信します。vPro デバイスが SCS Server からメッセージを受信した後でプロビジョニング プロセスが始まり、vPro デバイスを有効にするために必要となるすべての設定とデータを SCS Server が読み込みます。
- 3 vPro デバイスが設定された後で、オペレーティング システムをインストールします。IT が指定するオペレーティング システムをネットワークから vPro デバイ스에インストールすると、vPro システムの完全な「ノー タッチ」設定が可能になります。

ベア メタル リモート設定の失敗

ベア メタルのプロビジョニング プロセスは、vPro デバイスをネットワークと AC 電源に接続するとすぐに始まりますが、ネットワーク アクセスの制限時間枠内にデバイスのプロビジョニングが完了しないことがあります。失敗には次のような理由があります。

- SCS Server で OTP が有効になっている
- ネットワーク トラフィックが多い
- vPro デバイスで証明書がルート ハッシュと一致しない

vPro デバイスの遅延リモート設定プロビジョニング

ベア メタル設定が失敗した場合、遅延リモート設定を使用してデバイスをプロビジョニングできます。セットアップ モードへの移行と遅延リモート設定でのプロビジョニング プロセスについては、[付録 B](#)、「[vPro デバイスの遅延リモート設定](#)」を参照してください。

ワークフローのこの時点で OOBM エージェントをインストールすることをお勧めします。ベア メタル設定の制限時間枠内に vPro デバイスが正常にプロビジョニングされなかった場合、OOBM エージェントはプロビジョニング解除済みデバイスのインストール プロセスの一部として遅延設定を実行します。

OOBM エージェントのインストール

vPro デバイスに OOBM エージェントをインストールする方法は 2 つあります。1 つは、各 vPro デバイスで OOBM エージェントを手動でインストールする方法です。もう 1 つは、HP Client Automation Standard または Enterprise ソフトウェアにより、複数の vPro デバイスに OOBM エージェントを自動的にインストールする方法です。

両方の方法について次のセクションで説明します。

設定クライアント ロール

OOBM エージェントで vPro デバイスをプロビジョニングできるようにするには、選択したインストール方法に関係なく、次のことを実行する必要があります。

- 設定クライアントのロールがあるユーザーを **SCS Console** で作成して追加する必要があります。たとえば **SCS Console** で作成して追加したユーザーに **SCSUser** という名前を付けることができます。
- このユーザーは、**SCSUser@vlan1.hp.com** などのドメイン **VLAN1** で作成する必要があります。

設定クライアント ロールがあるユーザーの認証情報は、OOBM エージェントのインストール中に指定する必要があります。**SCS** 設定クライアントのユーザー認証情報は正しく指定する必要があります。正しく指定しないと、OOBM エージェントは遅延セットアップでデバイスのプロビジョニングを開始しません。

▶ OOBM エージェントのインストール時には、遅延設定を使用してデバイスをプロビジョニングしない場合でも、「ダミー」ユーザー名とパスワードを指定する必要があります。ユーザー名とパスワードを指定しないと、インストールはエラー コード **1920** で失敗します。

▶ 場合によっては、OOBM エージェントのインストールまたはサービスの再起動の結果、イベントログにエラー コード **1063** のエラー メッセージが出力されることがあります。このメッセージは無害であるため、無視してかまいません。

個々の vPro デバイスへの OOBM エージェントの手動インストール

OOBM エージェントを vPro デバイスに手動でインストールするには

- 1 **HPCA Core** 配布メディアの %Media%\client\default\win32\oobm\LocalAgent ディレクトリにある oobmlocalagent.msi ファイルを vPro デバイスにコピーします。oobmlocalagent.msi ファイルをダブルクリックします。または、配布メディアの上記と同じディレクトリにある setup.cmd ファイルを vPro デバイスにコピーします。setup.cmd ファイルをダブルクリックするか、またはコマンドラインに「setup.cmd」と入力します。setup.cmd ファイルによって、oobmlocalagent.msi ファイルが呼び出されます。
- 2 **[Next]** をクリックして、ライセンス契約に同意します。
- 3 **[Next]** をクリックします。**[Remote Configuration Parameters]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **SCS 設定クライアント ユーザー名:** ユーザーのユーザー名と設定クライアントのロールを入力します。ユーザー名の形式は、SCS ユーザー名@ドメイン名です。
 - **SCS 設定クライアント パスワード:** ユーザーのパスワードと設定クライアントのロールを入力します。
 - **SCS プロファイル ID:** vPro デバイスのプロファイル ID を入力します。この情報は、**SCS Console** の [プロファイル] 領域に表示されます。
 - **SCS リモート設定 URL:** Intel SCS (Setup and Configuration Service) リモート設定サービスの仮想ディレクトリを含めた URL パスを入力します。たとえば、**https://provisionserver.yourenterprise.com/amtscs_rcfg** のように入力します。

ここで、**provisionserver.yourenterprise.com** は、IIS ホスト コンピュータの完全修飾ドメイン名 (FQDN)、**amtscs_rcfg** は、同ホスト コンピュータ上の SCS リモート設定サービス仮想ディレクトリです。

- 4 **[Next]** をクリックします。**[User Information]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、SCS プロファイル ID (前の手順で参照) に定義したユーザーの vPro ダイジェスト ユーザー認証情報を入力できます。このウィンドウ内で次を指定します。
 - ユーザー名: SCS プロファイルに定義したダイジェスト ユーザーの vPro ユーザー名を入力します。
 - パスワード: SCS プロファイルに定義したダイジェスト ユーザーの vPro パスワードを入力します。
 - vPro デバイスが TLS モードでプロビジョニングされた場合は、**[TLS Mode]** チェックボックスをオンにします。
- 5 **[Next]** をクリックして、インストール ウィザードの残りの手順を実行します。
OOBM エージェントは NT サービスであり、インストールが完了次第、開始されます。

Client Automation による複数の vPro デバイスへの自動インストール

前述のとおり、OOBM エージェントは、HP Client Automation ソフトウェアの Standard/Enterprise エディションを介して、複数のデバイス上に自動的にインストールできます。



ただし、HP Client Automation ソフトウェアの Starter エディションでは、この方法で OOBM エージェントをインストールすることはできません。


自動インストール手順には 2 つの部分があります。この 2 つの方法は次のとおりです。

- HP Client Automation Administrator Publisher を使用して OOBM エージェント ソフトウェアを HP Client Automation Configuration Server データベースにパブリッシュする必要があります。
- HPCA コンソールを使用して、OOBM エージェントを vPro ターゲット デバイスに配布する必要があります。

OOBM エージェントを Client Automation データベースにパブリッシュするには

- 1 **[スタート]** > **[プログラム]** > **[HP Client Automation Administrator]** > **[Client Automation Administrator Publisher]** をクリックし、HP Client Automation Administrator Publisher を呼び出します。**[ログオン]** ウィンドウが表示されます。
- 2 HP Client Automation ユーザー名およびパスワードを使用して、HP Client Automation Administrator Publisher にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は admin、パスワードは secret です。**[パブリッシュ オプション]** ダイアログ ウィンドウが表示されます。
- 3 リストから **[Windows インストーラ]** を選択します。
- 4 **[OK]** をクリックします。選択ウィザードが開きます。
- 5 パブリッシュする Windows インストーラ ファイルとして、左側のナビゲーション メニューで OOBM エージェントのインストーラ ファイル (oobmcllocalagent.msi) を選択します。
- 6 **[次へ]** をクリックします。編集ウィザードが開きます。
- 7 **[プロパティ]** リンクをクリックします。インストーラ ファイルのプロパティが右に表示されます。**AMT** で始まるプロパティがすべて正しく設定されていることを確認します。これらのプロパティには、次が含まれます。
 - **AMTUSERNAME:** 管理者の vPro ユーザー名を入力します (ダイジェスト ユーザー名)。
 - **AMTPASSWORD:** 管理者の vPro パスワードを入力します (ユーザーのダイジェスト パスワード)。
 - **AMTTLSMODE:** vPro デバイスが TLS モードでプロビジョニングされている場合は「1」を、それ以外は「0」を入力します。
 - **AMTPROVSERVERADD:** Intel SCS (Setup and Configuration Service) リモート設定サービスの仮想ディレクトリを含めた URL パスを入力します。

- **AMTPROFILEID:** vPro デバイスのプロファイル ID を入力します。この情報は、SCS Console の [プロファイル] 領域に表示されます。
- 8 また、プロパティ ページで、次のプロパティが正しく設定されていることも確認します。
 - **SCSUSERNAME:** ユーザーのユーザー名と設定クライアントのロールを入力します。
 - **SCSUSERPASS:** ユーザーのパスワードと設定クライアントのロールを入力します。
 - 9 **[次へ]** をクリックします。設定ウィザードが開きます。
 - 10 [設定] ウィンドウで、次を指定します (一覧表示されないフィールドはオプションです)。
 - **サービス ID:** サービスを識別するテキスト文字列 (**HP_CA_OOB_LOCAL_AGENT** など) を入力します。
 - **説明:** ソフトウェアの説明 (**HP CA OOB Local Agent** など) を入力します。
 - **ソフトウェア カタログ:** リストから **[ユーザー アプリケーション]** を選択します。
 - **パッケージを適用する対象システム:** いずれのオペレーティング システムも選択しないと、オペレーティング システムにかかわらずすべての vPro デバイスにソフトウェアが配布されます。

 フィールドは、HPCA ライセンスによって異なります。
 - 11 **[次へ]** をクリックします。パブリッシュ ウィザードが開きます。要約および進捗情報が表示されます。
 - 12 **[パブリッシュ]** をクリックします。OOBM エージェントのアプリケーションが HP Client Automation Configuration Server データベースにパブリッシュされます。
 - 13 **[完了]** をクリックします。
 - 14 ポップアップ ウィンドウの **[はい]** をクリックし、HP Client Automation Administrator Publisher を終了します。

OOBM エージェントを複数の vPro デバイスに自動的に配布するには

次の手順の詳細については、Standard Edition または Enterprise Edition の『HP Client Automation Core and Satellite User Guide』を参照してください。

- 1 HPCA への vPro デバイスのインポート
- 2 ターゲット vPro デバイスへの OOBM エージェントの配布
- 3 スタティック グループの作成およびグループへのターゲット vPro デバイスの追加
- 4 OOBM エージェントを vPro デバイス グループに配布します。

vPro デバイスの OOBM エージェントのバージョン チェック

OOBM エージェントのバージョンをチェックするには

- 1 インストール ディレクトリである、vPro デバイス上の `<InstallDir>\OOBM Agent` に移動します。
- 2 OOBMCLocalAgent.exe ファイルを右クリックし、コンテキスト メニューから **[プロパティ]** を選択します。
- 3 **[バージョン]** タブを選択します。このウィンドウにバージョン情報が表示されます。

64 ビット プラットフォーム上の OOBM エージェント

64 ビット プラットフォーム上に OOBM エージェントをインストールする場合は、vPro デバイスに 32 ビットと 64 ビットの両方のプラットフォーム用の Intel 固有のドライバがインストールされていることを確認する必要があります。これらのドライバは www.HP.com/support にあります。デスクトップの場合、ドライバは [Software – System Management] セクションにあります。ドライバ名は Intel Local Management Service (LMS) および Serial-over-LAN (SOL) Support です。ノートブックの場合、通常、ドライバは Windows インストール ディレクトリの SWSetup¥AppInst ディレクトリにあります。ない場合は、これらのドライバは上記の HP サポート サイトからダウンロードすることもできます。ドライバをインストールしたら、システムを再起動する必要があります。

vPro デバイスの表示

vPro デバイスをプロビジョニングすると、vPro SCS Console に表示できます。



デバイスがコンソールに表示されるまでしばらく待機する必要があります。

vPro デバイスを表示するには

- 1 vPro SCS Console を開きます。
- 2 [プラットフォーム コレクション] ブランチを展開します。
- 3 **[すべてのプラットフォーム]** をダブルクリックして、vPro デバイスを表示します。vPro デバイスが、そのプロビジョニング ステータスとともに表示されます。

認証モードの変更



このセクションは、TLS 認証をセットアップした場合のみ関連します。TLS をセットアップしていない場合は、[OOBM 設定](#)の章に進みます。

vPro デバイスをプロビジョニングした後、vPro SCS Console を使用してデバイスの認証モードを変更できます。

TLS サーバー認証モードで vPro デバイスを設定するには

- 1 vPro SCS Console を開きます。
- 2 [Configuration Service Settings] ブランチを展開し、[Profiles] を選択します。さまざまな vPro デバイス用に作成されているプロファイルの一覧が表示されます。
- 3 vPro デバイスに適切なプロファイルを選択し、[Edit] をクリックします。
- 4 **[Network]** タブを選択し、次のオプションを選択します。
 - [Use TLS]
 - [Local Interface] と [Network Interface] の両方で [TLS Server Authentication]
- 5 **[Apply]**、**[OK]** の順にクリックします。メインの SCS Console に戻ります。
- 6 [Intel® AMT Systems] ブランチを展開し、[Global Operations] を選択します。[Global Operations] ウィンドウが表示されます。
- 7 このウィンドウの [Provisioning] ペインで **[Re-Provision]** をクリックします。この再プロビジョニング要求に要求 ID が割り当てられます。この ID をメモしてください。アクション ステータス ログでログ情報を検索するときに使用できます。

- 8 **[OK]** をクリックします。
- 9 **[Logs]** ブランチを展開し、**[Actions Status]** を選択します。このログには、すべての要求のステータスが表示されます。前の手順で割り当てられた要求 ID を使用し、再プロビジョニング要求が正常に実行されたかどうかを確認できます。

TCP モードで vPro デバイスを設定するには

- 1 vPro SCS Console を開きます。
- 2 **[Configuration Service Settings]** ブランチを展開し、**[Profiles]** を選択します。さまざまな vPro デバイス用に作成されているプロファイルの一覧が表示されます。
- 3 vPro デバイスに適切なプロファイルを選択し、**[Edit]** をクリックします。
- 4 **[Network]** タブを選択し、**[Use TLS]** オプションをオフにします。
- 5 **[Apply]**、**[OK]** の順にクリックします。メインの SCS Console に戻ります。
- 6 **[Intel® AMT Systems]** ブランチを展開し、**[Global Operations]** を選択します。**[Global Operations]** ウィンドウが表示されます。
- 7 このウィンドウの **[Provisioning]** ペインで **[Re-Provision]** をクリックします。この再プロビジョニング要求に要求 ID が割り当てられます。この ID をメモしてください。アクション ステータス ログでログ情報を検索するときに使用できます。
- 8 **[OK]** をクリックします。
- 9 **[Logs]** ブランチを展開し、**[Actions Status]** を選択します。このログには、すべての要求のステータスが表示されます。前の手順で割り当てられた要求 ID を使用し、再プロビジョニング要求が正常に実行されたかどうかを確認できます。

DASH デバイスのセットアップ

DASH 設定

デバイスに付属しているドキュメントに従って DASH 対応デバイスをプロビジョニングします。

Hewlett-Packard 製 DASH 対応デバイスの場合、DASH 設定の情報は、「Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC」のホワイト ペーパーに記載されています。

このドキュメントにアクセスするには

- 1 <http://www8.hp.com/jp/ja/home.html> に移動します。
- 2 **[サポート & ドライバー]** > **[製品サポート保守情報]** を選択します。
- 3 この NIC をサポートする製品 (たとえば、dc7900) を入力します。
- 4 dc7900 モデルの 1 つを選択します。
- 5 **[マニュアル]** を選択します。
- 6 **[White papers]** セクションまでスクロールし、ホワイト ペーパー「**Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC**」を選択します。

DASH 設定ユーティリティ

DASH 設定ユーティリティ (BMCC アプリケーション) は、この NIC をサポートする各製品のドライバ セクションにある Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ドライバ Softpaq の一部です。

このユーティリティにアクセスするには

- 1 <http://www8.hp.com/jp/ja/home.html> に移動します。
- 2 [サポート & ドライバー] > [ドライバー & ソフトウェア] を選択します。
- 3 この NIC をサポートする製品 (たとえば、dc7900) を入力します。
- 4 dc7900 モデルの 1 つを選択します。
- 5 オペレーティング システムを選択します。
- 6 [ドライバー - ネットワーク] セクションまでスクロールし、[Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC Drivers] を選択してダウンロードします。

3 OOBM 設定

この章では、HPCA Installer でインストール後、アウトバンド管理 (OOBM) を設定する方法を説明します。システム要件およびインストール情報については、次の URL から入手できる『HP Client Automation Enterprise Edition Getting Started and Concepts Guide』および『HP Client Automation 8.10 Support Matrix』を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/sc/support_matrices.jsp。

この章で説明されている設定タスクはオプションです。OOBM 内のデフォルト設定を変更する場合は、次のタスクを実行できます。

設定パラメータについての情報

SCS パスの再設定

必要に応じて、HPCA コンソールによって現在設定されている SCS パスを変更できます。詳細については、36 ページの **設定パラメータ** を参照してください。

Client Automation Web サービスの再設定

必要に応じて、HPCA コンソールのゲートウェイ URL を変更できます。URL は、例えば、<http://CAhost:3466/ca> です。ここで、CAhost は Client Automation サーバーの完全修飾子名、ca は Client Automation サーバー上の Client Automation Web サービスの仮想ディレクトリです。詳細については、36 ページの **設定パラメータ** を参照してください。

IDE-R ドライブの設定

OOBM ソフトウェアは、IDE-R (Integrated Drive Electronics Redirect) を使用する際の CD とフロッピーのデフォルト設定でサーバー上にインストールされます。これらの設定は設定可能です。詳細については、36 ページの **設定パラメータ** を参照してください。デフォルト設定がサーバー上のドライブ仕様と一致しない場合は、サーバーと一致するようにデフォルト ドライブ設定を変更する必要があります。CD とフロッピー ドライブのパスは、実際のドライブまたはイメージを参照する必要があります。

- ▶ フロッピー ドライブの起動オプションを使用している場合でも、CD/DVD を正しく設定する（つまり、実際の CD/DVD ドライブを参照する）必要があります。CD/DVD ドライブの起動オプションを使用する場合も、フロッピー設定に対して同じことが言えます。HPCA Server に接続されたフロッピー ドライブがない場合、IDE-R 操作用のフロッピー ドライブではなくローカルの起動可能 ISO イメージを参照できます。

- ▶ CD またはフロッピー ドライブの設定を、物理 CD またはフロッピーではなく、それぞれ ISO または IMG ファイルを使用するように変更する場合、ISO または IMG ファイルへのドライブパスが Tomcat を実行中のサーバーに可視的である必要があります。したがって、必要な ISO と IMG ファイルをすべて、Tomcat を実行中のサーバーのローカルドライブにコピーします。
また、ISO または IMG ファイルが共有ネットワーク リソースの場合は、汎用命名規則 (UNC) 構文を使用してネットワーク ファイルにアクセスする必要があります。UNC 構文は、次のとおりです。 `\\#hostname #sharefolder #file`
UNC 構文を使用する際は、IP アドレスではなくマシンの実際のホスト名を使用する必要があります。

SOL ポートの設定

- ▶ OOBM ソフトウェアは、Serial over LAN (SOL) 開始ポートと、vPro デバイス上で複数の同時 SOL セッションを一度に表示できる最大数の SOL ポートのデフォルト設定で HPCA server 上にインストールされます。これらの値は変更できます。詳細については、36 ページの [設定パラメータ](#) を参照してください。
- ▶ vPro デバイス上では、SOL セッションによってほとんどの Windows オペレーティングシステムにバンドルされている Windows HyperTerminal が起動されます。HPCA Server へのアクセスに使用する Web ブラウザ マシン上に HyperTerminal がインストールされているかどうかをチェックします。HyperTerminal がインストールされていない場合は、Microsoft のドキュメントを参照してインストール手順を確認してください。
HyperTerminal は、Windows Vista オペレーティングシステムにはバンドルされていません。この場合、SOL セッションでは Telnet が起動されます。

SNMP ポートの設定

これは、vPro デバイスからの警告メッセージの取得に使用する SNMP ポートです。このポートは設定可能です。詳細については、36 ページの [設定パラメータ](#) を参照してください。

IDE-R および SOL タイムアウト値の設定

これは、無線通信が遅延する傾向にあり、IDE-R セッションと SOL セッションのタイムアウト値を超えるため、vPro デバイス上で無線 NIC で実行するリモート操作は失敗することがあります。IDE-R と SOL のタイムアウト値とハートビート間隔値は設定可能です。詳細については、36 ページの [設定パラメータ](#) を参照してください。

Web サービスのタイムアウト値の設定

OOBM Service では、Web サービスをデバイスに接続することによって vPro デバイスと通信します。タイムアウト値はこの通信に対して指定されます。現在のネットワーク条件に適していない場合は、この値を再設定できます。詳細については、36 ページの [設定パラメータ](#) を参照してください。

DASH デバイスのキャッシュ サイズの設定

特定のユーザー セッションのメモリ内にキャッシュする DASH デバイス数を設定できます。詳細については、36 ページの[設定パラメータ](#)を参照してください。この値を変更すると、パフォーマンスに影響します。この値はメモリ リソースがどれだけ試用できるかによって異なります。

セキュリティ パラメータの設定



この手順は TLS を設定している場合にのみ必要です。



TLS AMT 認証が有効の場合、Java キー ストアにアクセスするための適切な権限を得られるように Tomcat Server はドメイン ユーザー アカウントで実行する必要があります。

TLS 認証に対して設定する必要がある多数の設定パラメータがあります。これらのパラメータによって OOBM は信頼できるルートとクライアント証明書を検索でき、関連付けられたパスワードおよび Certification Authority サーバーの FQDN がわかります。

次を設定する必要があります。

- ルート証明書への PEM 形式の完全パス名 (root_certificate)
- クライアント証明書への PEM 形式の完全パス名 (client_certificate_pem)
- クライアント証明書への PFX 形式の完全パス名 (client_certificate_pfx)
- クライアント証明書 CN (ca_server_commonname)

これらのパラメータの設定方法の詳細については、36 ページの[設定パラメータ](#)を参照してください。

PEM 形式の証明書の詳細については、47 ページの[PEM 形式への証明書の変換](#)を参照してください。

PEM および PFX クライアント証明書のパスワードも指定する必要があります。以下のプロシージャ内でコマンドを実行するときは、二重引用符なしでパスを指定してください。

PEM クライアント証明書のパスワードを指定するには

- 1 <InstallDir>/OOBM/bin ディレクトリから amtpem_chgpwd.bat ファイルを実行します。
- 2 入力を促されたら、HPCA インストール ディレクトリを入力します。
- 3 入力を促されたら、PEM クライアント証明書のパスワードを入力します。

PFX クライアント証明書のパスワードを指定するには

- 1 <InstallDir>/OOBM/bin ディレクトリから amtpfx_chgpwd.bat ファイルを実行します。
- 2 入力を促されたら、HPCA インストール ディレクトリを入力します。
- 3 入力を促されたら、PFX クライアント証明書のパスワードを入力します。

ウォッチドッグの設定

ウォッチドッグを作成する場合、ウォッチドッグの設定は、OOBM エージェントのハートビート間隔 (ウォッチドッグへ送信されるハートビートの間隔) と OOBM エージェントがウォッチドッグへハートビートを送信開始する前の開始時間の 2 つです。デフォルト値を変更してネットワーク要件に反映させることができます。詳細については、36 ページの [設定パラメータ](#) を参照してください。

デバッグに使用する設定

設定するとデバッグのパフォーマンス関連の問題に役立つパラメータが 2 つあります。cache_update_thread_size パラメータと blocking_timer_time パラメータです。

cache_update_thread_size パラメータは、キャッシュ レイヤーの更新に使用するスレッド数を変更できます。通常の状態ではこの値は変更する必要はありません。ただし、この値は blocking_timer_time パラメータに関連して変更し、パフォーマンスの問題を解決できます。

blocking_timer_time 設定により、vPro Web サービスに接続するときに HPCA Server 上にソケットの問題がある場合、タイムアウト値を変更できます。ソケット関連の問題がある場合は、タイムアウト値を上げることをお勧めします。

詳細については、36 ページの [設定パラメータ](#) を参照してください。

設定パラメータ

<HPCA_Install_DIR>%oobm%conf% ディレクトリにある 2 つのプロパティ ファイルを変更することで、設定パラメータを設定できます。

- ▶ このディレクトリにあるプロパティ ファイルの設定パラメータを変更する場合は、Tomcat サービスを再起動する必要があります。

次のパラメータが config.properties ファイルにあります。または新たに追加できます。既存の **key=value** ペアに新規値を入力するか、新規 **key=value** ペアを追加することにより、一覧表示されたパラメータの値を再設定してこのファイルを編集できます。

- ▶ config.properties でパスと完全修飾ファイル名を指定する場合は、「%」または「/」をディレクトリ間の区切り文字として使用する必要があります。そうしないと、名前が正しく読み込まれません。たとえば、C:%certs%cc.pem または C:/certs/cc.pem は正しいですが、C:%certs%cc.pem は正しくありません。

次の表は、このファイルに含まれるパラメータと、そのデフォルト設定と説明を一覧にしたものです。

表 4 config.properties ファイルの設定パラメータ

パラメータ (キー)	デフォルト値	説明
scsserver_url	デフォルト値なし	SCS Server の URL。現在設定されている SCS パスは変更できます。
radia_gateway	デフォルト値なし	HPCA コンソールの URL。

表 4 config.properties ファイルの設定パラメータ (続く)

パラメータ (キー)	デフォルト値	説明
default_cddrive_path	D:	デフォルト IDE-R CD ドライブ設定。CD パスは実際のドライブまたはイメージを参照する必要があります。
default_fddrive_path	A:	デフォルト IDE-R フロッピードライブ設定。フロッピードライブパスは実際のドライブまたはイメージを参照する必要があります。
sol_port_start	9999	開始 SOL ポート
sol_number_of_port	10	SOL ポートの最大数
snmp_trapd_port	162	SNMP ポート
vPro_webservice_timeout	15000 ミリ秒	Web サービスのタイムアウト値
devices_cachequeuesize	50	DASH デバイスのキャッシュサイズ。この値を変更すると、パフォーマンスに影響します。
root_certificate	デフォルト値なし	ルート証明書への PEM 形式の完全パス名
client_certificate_pem format	デフォルト値なし	クライアント証明書への PEM 形式の完全パス名
client_certificate_pfx	デフォルト値なし	クライアント証明書への PFX 形式の完全パス名
ca_server_commonname	デフォルト値なし	クライアント証明書 CN
apwatchdog_heartbeat_interval	60 秒	ウォッチドッグの OOBM エージェントのハートビート間隔
apwatchdog_startup_time	300 秒	ウォッチドッグの OOBM エージェントの起動時間間隔
device_synchronization_timeperiod	0	SCS リポジトリからデバイスリストをリロードする時間。この同期時間間隔のデフォルト値はゼロ (自動同期を行わない) です。自動的に同期させる場合は、ゼロ以外の値に設定します。単位は分です。

表 4 config.properties ファイルの設定パラメータ (続く)

パラメータ (キー)	デフォルト値	説明
group_synchronization_timeperiod	0	CA リポジトリからグループ デバイス リストをリロードする時間。この同期時間間隔のデフォルト値はゼロ (自動同期を行わない) です。自動的に同期させる場合は、ゼロ以外の値に設定します。単位は分です。
cache_update_thread_size	25	キャッシュ スレッド サイズ (デバッグ専用)
blocking_timer_time	100	タイムアウト値のブロック (デバッグ専用)
devices_cachequeuesize	100	電源管理、システム防御機能の配布など、操作の実行に使用する vPro 関連 Java オブジェクトの格納に使用するキャッシュのサイズ (デバッグ専用)。
scsserver_url	デフォルト値なし	SCS Server の URL。現在設定されている SCS パスを変更できます。
radia_gateway	デフォルト値なし	HPCA コンソールの URL。

追加設定パラメータは、同じく <HPCA_Install_DIR>%obm%conf% ディレクトリにある configuration.properties ファイルにあります。これらのパラメータのすべてにデフォルト値が割り当てられていますが、セットアップに応じて再設定が必要な場合があります。表 5 は、このファイルに備えられたパラメータと、そのデフォルト設定と説明を一覧にしたものです。



このファイル内のデータは、アウトバンド管理を正しく機能させるために重要なものです。表 5 の [説明] カラムで、「非エンドユーザー用」として一覧表示されているアイテムは変更も削除もしないでください。

表 5 configuration.properties ファイルの設定パラメータ

パラメータ	デフォルト値	説明
Active_Directory_FQDN_or_Hostname_property	名前	AD から返されたデバイス ID 情報。ホスト名 (名前) または FQDN (dNSHostName) を選択できます。サブドメイン DNS により FQDN が失敗する可能性があるため、デフォルト値 (名前) を使用の方が安全です。
BEV_BOOT_SOURCE_VALUES	BEV	Boot Entry Vector の起動元名
CACHE_SIZE	50	OOBM Web サービス システムのキャッシュ サイズ。たとえば、CACHE_SIZE=50 では、常時システムによって最大 50 のデバイスがキャッシュされることが指定されます。キャッシュがフルであるのに新規デバイスを追加する必要がある場合は、アクセスや使用が最も少ないデバイスを削除して新規デバイスに対応できるようにする必要があります。
CACHE_WAIT_DURATION	2000	ミリ秒単位のキャッシュ待機時間。たとえば、CACHE_WAIT_DURATION=2000 では、キャッシュ マネージャの応答を 2000 ミリ秒を超えて待機しないことが指定されます。キャッシュ マネージャが 2000 ミリ秒を超えて使用中の場合、システムは現在の操作にキャッシュを使用しません。
CDDVD_BOOT_SOURCE_VALUES	CD/ DVD,CD-ROM	CD の起動元名
DASH_PORTS	623	DASH ポートのコンマ区切りのリスト
DASH_TEXTREDIRECTION_TIME_DELAY	2	テキスト リダイレクション接続と電源操作呼び出し間の時間遅延 (秒単位)。
DISCOVERY_DELAY	100	探索遅延時間。この値を増やしてソケット接続時の消耗問題を克服できます。

表 5 configuration.properties ファイルの設定パラメータ (続く)

パラメータ	デフォルト値	説明
DISCOVERY_REQUEST	DASH 検知要求の実際の内容が含まれます。	DASH デバイスの探索に対する DASH 要求の内容。
DISCOVERY_SEQUENCE	dash、vpro	OOBM デバイスが探索される順序。たとえば、DISCOVERY_SEQUENCE="dash,vpro" では、最初にデバイスが DASH デバイスかどうかチェックされ、そうでない場合は、vPro デバイスかどうかチェックされます。
ENABLE_BLIND_DISCOVERY	true	OOBM デバイスのブラインド探索。有効化されていると、システムは現在探索されていない OOBM デバイスに対してまず自動探索してから、次に要求された操作を実行するという操作要求を使用します。無効化されている場合は、OOBM デバイスは OOBM システムで検索済みです。または、エラーが表示されます。
FLOPPY_BOOT_SOURCE_VALUES	フロッピー、フロッピー ディスク ドライブ	フロッピーの起動元名
HDD_BOOT_SOURCE_VALUES	ハード ドライブ、ハードディスク	ハード ドライブの起動元名
HTTP_CONNECT_TIMEOUT	3000	HTTP 接続タイムアウト (HTTP 接続が応答を待機できる最大ミリ秒)
HTTP_READ_TIMEOUT	200	HTTP 読込時間 (HTTP 接続が読込応答を待機できる最大ミリ秒)

表 5 configuration.properties ファイルの設定パラメータ (続く)

パラメータ	デフォルト値	説明
IDER_CLIENT_RX_TIMEOUT	10000	<p>ミリ秒単位のクライアントの受信タイムアウト値。クライアントが HPCA Server からメッセージを受信する前にタイムアウト値が経過すると、クライアントは IDE-R セッションをシャットダウンします。IDE-R セッションが開かれている間は、HPCA Server はメッセージを継続して送信してクライアントの受信タイムアウト値が経過しないようにします (HPCA Server のハートビート間隔はクライアントの受信タイムアウト設定に基づきます)。</p> <p>最小値 : 10000 最大値 : 65535 デフォルト値 : 10000</p>
IDER_CLIENT_COMMAND_TIMEOUT	0	<p>ミリ秒単位のクライアントのコマンド送信タイムアウト値。これは、クライアントが IDE コマンドを送信するときに待機する時間です。クライアントが指定時間内にコマンドに対する HPCA Server からの応答を受信しないと、クライアントは IDE-R セッションを終了します。値が 0 の場合はコマンド送信タイムアウトが使用されないことを示します。</p> <p>最小値 : 0 最大値 : 65535 デフォルト値 : 0</p>
IDER_CLIENT_HB_INTERVAL	5000	<p>ミリ秒単位のクライアントのハートビート間隔。これはクライアントがハートビートメッセージを HPCA Server に送信するまでの待機時間です。値が 0 の場合はハートビートメッセージが送信されないことを示します。この場合、HPCA Server はクライアントが有効であることを示すアクティビティがないと、定期的に IDE-R Keep-Alive Ping メッセージをクライアントに送信します。</p> <p>最小値 : 0 最大値 : 65535 デフォルト値 : 5000</p>

表 5 configuration.properties ファイルの設定パラメータ (続く)

パラメータ	デフォルト値	説明
NETWORK_BOOT_SOURCE_VALUES	ネットワーク、PXE	PXE の起動元名
NUMBER_OF_DISCOVER_WORKER_THREADS	5	探索に使用できる最大スレッド数
PCMCIA_BOOT_SOURCE_VALUES	PCMCIA	PCMCIA のブートソース名 (詳しくは、 http://ja.wikipedia.org/wiki/PC_Card を参照)
REVERTBACK_PREVIOUS_BOOT_ORDER	0	起動順リセットフラグ。特定の起動元でデバイスを起動する場合、無効 (0) または有効 (1) を選択して起動設定の前の起動順に戻すことができます。パフォーマンスに影響があるため、デフォルトでは前の状態に戻すことを無効にする設定です。
RevertBack_Previous_Boot_Order_Wait_Timer	10000	再起動操作を開始後、起動順を前の順序に戻すまでの待機時間 (ミリ秒単位)。デフォルト値が機能しない場合は、マシンのパフォーマンスに応じて値を増やします。
SOL_CLIENT_TX_BUFFERING_TIMEOUT	100	ミリ秒単位のクライアントの送信バッファリングのタイムアウト値。バッファ済み送信バイトを送信する前に送信バッファがフルになるまでクライアントが待機する時間。値が 0 の場合は、クライアントでバッファがフルになった場合のみデータを送信することを意味します。 最小値 : 0 最大値 : 65535 デフォルト値 : 100
SOL_CLIENT_TX_OVERFLOW_TIMEOUT	0	ミリ秒単位のクライアントの送信オーバーフローのタイムアウト値。送信バッファがフルになったときに送信バイトのドロップが開始されるまでのクライアントの待機時間。値が 0 の場合はタイムアウトがないことを意味します。 最小値 : 0 最大値 : 65535 デフォルト値 : 0

表 5 configuration.properties ファイルの設定パラメータ (続く)

パラメータ	デフォルト値	説明
SOL_CLIENT_HB_INTERVAL	5000	<p>ミリ秒単位のクライアントのハートビート間隔。HPCA Server ヘククライアントがアクティブであることを示すハートビートメッセージを送信してから次に送信するまでのクライアントの待機時間。値が 0 の場合はハートビートが送信されないことを意味します。この場合、HPCA Server ではクライアントがアクティブがどうかを判別するクライアントからの受信アクティビティは監視されません。</p> <p>最小値 : 0 最大値 : 65535 デフォルト値 : 5000</p>
SOL_CLIENT_RX_TIMEOUT	10000	<p>ミリ秒単位のクライアントの受信タイムアウト値。HPCA Server からメッセージを受信する前にこの時間が経過すると、クライアントは SOL セッションをシャットダウンします。SOL セッションが開かれていると、HPCA Server は定期的にハートビートメッセージを送信してクライアントの受信タイムアウトが切れないようにします (HPCA Server のハートビートメッセージの間隔はクライアントの受信タイムアウトに基づきます)。</p> <p>最小値 : 10000 最大値 : 65535 デフォルト値 : 10000</p>

表 5 configuration.properties ファイルの設定パラメータ (続く)

パラメータ	デフォルト値	説明
SOL_CLIENT_FIFO_RX_FLUSH_TIMEOUT	100	ミリ秒単位のクライアントの FIFO 受信フラッシュ タイムアウト値。クライアントの受信 FIFO バッファがフルになったときに受信データがフラッシュされるまでのクライアントの待機時間。値が 0 の場合は、受信データがオペレーティング システムによって読み取られていないときはクライアントはフラッシュしないことを意味します。 最小値 : 0 最大値 : 65535 デフォルト値 : 100 (デフォルトでは、HPCA Server 内部での間隔は 0 です。100 未満の値の使用は推奨しません。値が 0 になると、クライアントは受信データをフラッシュしなくなります。その結果、バッファがオーバーフローすると、クライアントはセッションをキャンセルします。)
SOL_THREADS_SLEEP_TIME	500	SOL スレッドのスリープ時間
USB_BOOT_SOURCE_VALUES	USB	USB の起動元名
WSMAN_MAX_ENUMERATION_RECORDS	5	単一 WSMAN Enumeration または Pull 呼び出しで取得できる最大要素数
WSMAN_TIMEOUT	30000	WSMAN 呼び出しのタイムアウト (WSMAN 呼び出しが応答を待機できる最大ミリ秒)
DEVICE_DELETED_IN_SINGLE_QUERY	30	複数デバイス上で削除操作を実行するために使用される単一の SQL クエリです。

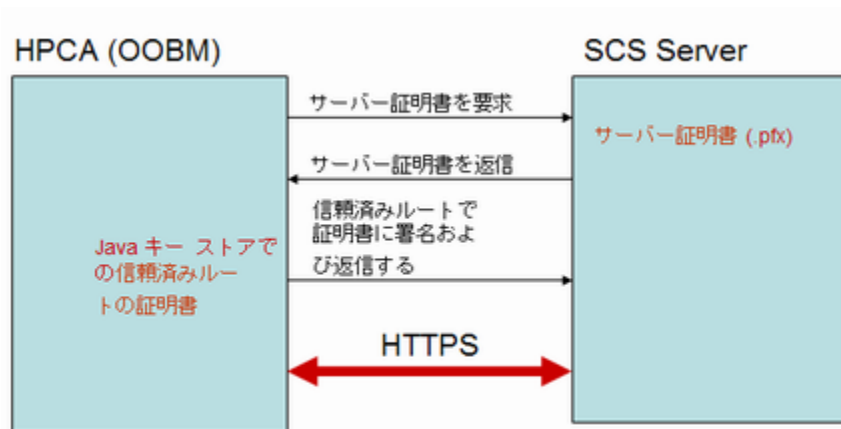


*BOOT_SOURCE_VALUES パラメータに指定する値は HPCA Server GUI で使用されるもので、これらの起動デバイスで使いやすい名前にします。これらのパラメータに値を指定しないと、これらの起動デバイスの名前としてわかりにくいテキスト文字列が表示されます。指定する文字列値は、DASH デバイスの起動元出力に基づいている必要があります。たとえば、起動元出力が BRCM:CD/DVD:3 の場合は、起動元を **cd/dvd** (CD ではない) と指定して GUI に **CD/DVD** を表示する必要があります。

OOBM Service と SCS 間の安全なアクセスの設定

この同じサーバー証明書で SCS Server と、HPCA Serve 上で実行する OOBM Service 間に保護された通信を確立できます。これらの 2 つのコンポーネント間の通信を保護するには、SCS Server 上の Microsoft CA の信頼できるルート証明書をエクスポートし、HPCA Server 上の Java キーストアにインポートし、HPCA Server がサーバー証明書に署名して SCS Server を認証できるようにする必要があります。

図 2 OOBM と SCS 間の安全なアクセス



▶ 20 ページのルート証明書のエクスポートで説明しているように TLS 相互認証セットアップの一部としてルート証明書をすでにエクスポートしている場合は、このタスクを再度実行する必要はありません。

ルート証明書をエクスポートするには、20 ページのルート証明書のエクスポートの手順に従います。

ルート証明書を Java キーストアにインポートするには、46 ページの Java キーストアへのルート証明書のインポートの手順に従います。

OOBM Service と SCS 間の安全なアクセスの無効化

OOBM をインストールして設定すると、Out of Band Management Service と SCS Server 間の安全なハイパーテキスト転送プロトコル (HTTPS) が有効化されます。HTTPS は、次の理由で有効化されます。

- OOBM デバイス タイプ設定の一部として HTTPS を使用する SCS パスを設定した、または config.properties ファイルで SCS パスを指定した。
- 信頼できるルート証明書をエクスポートし、HPCA Server 上の Java キーストアにインポートした。詳細については、45 ページの OOBM Service と SCS 間の安全なアクセスの設定を参照してください。

安全な転送プロトコルの代わりに HTTP を使用する場合は、IIS Manager で HTTPS を無効化できます。

▶ この方法は推奨しません。HTTPS を無効化すると、ユーザー資格情報は暗号化されなくなり、クリアテキストで送信されます。

HTTPS を無効化するには

- 1 SCS マシン上で IIS Manager を開きます。
- 2 ウィンドウ左側のナビゲーション パネルで、**[Web サイト] > [デフォルト Web サイト] > [AMTSCS]** に移動します。AMTSCS は SCS URL の仮想ディレクトリです。
- 3 **[AMTSCS]** を右クリックし、コンテキスト メニューから **[プロパティ]** を選択します。[AMTSCS プロパティ] ウィンドウが表示されます。
- 4 **[ディレクトリ セキュリティ]** タブを選択します。
- 5 ウィンドウ下部の **[セキュリティで保護された通信]** セクションで、**[編集]** をクリックします。[セキュリティで保護された通信] ウィンドウが表示されます。
- 6 ウィンドウ上部の **[セキュリティで保護されたチャネル(SSL)を要求する]** チェック ボックスをオフにします。
- 7 **[OK]** を 2 回クリックして、IIS Manager を終了します。
config.properties ファイルで、scsserver_url パラメータの値を URL で HTTP プロトコルを指定する値に変更します。
- 8 Tomcat Service を再起動します。

Java キー ストアへのルート証明書のインポート

TLS 認証の場合は、信頼できるルート証明書を HPCA Server の Java キー ストアにインポートする必要があります。これは OOBM で vPro デバイスを認証する際に使用されます。このルート証明書は、20 ページの **ルート証明書のエクスポート** で .cer ファイルとしてエクスポートしました。



45 ページの **OOBM Service と SCS 間の安全なアクセスの設定** で説明したように、OOBM と SCS 間の安全な通信のために HPCA Server の Java キー ストアにルート証明書をインポート済みの場合は、この手順を再度実行する必要はありません。

ルート証明書を Java キー ストアにインポートするには

- 1 HPCA Server で、既存の信頼できる証明書ファイルをバックアップします。これは、cacerts ファイルであり、通常は <InstallDir>%jre%lib%security にあります。
- 2 JRE ディレクトリから次のコマンドを実行します。デフォルトの JRE ディレクトリは C:%Program Files%Hewlett Packard%HPCA%jre%bin です。

```
keytool -import -noprompt -alias customcacert -keystore  
..%lib%security%cacerts -storepass <store-password> -file  
<ca_file.cer>
```

- <store-password> は証明書ストアのパスワードです。デフォルトでは、このパスワードは **changeit** です。
- <ca_file.cer> は、20 ページの **ルート証明書のエクスポート** でエクスポートし、HPCA Server にコピーした (SCS Server マシンと異なる場合) ルート証明書の完全パス名です。

このコマンドにより、ルート証明書が cacerts ストアにインポートされます。

- 3 確認するために、新規 cacerts ファイルとバックアップ バージョンのサイズを比較します。新規ファイルが 1 または 2 KB 大きくなります。

▶ アプリケーションがデフォルト以外の場所にインストールされた場合は、cacerts ファイルと JRE bin ディレクトリの場所は異なります。HPCA Server のデフォルトインストールディレクトリは、C:\Program Files\Hewlett Packard\HPCA です。

- 4 Tomcat サービスを停止します。
- 5 Tomcat の bin ディレクトリから次のコマンドを実行します。デフォルトの Tomcat bin ディレクトリは <InstallDir>\tomcat\bin です。
 - a **tomcat.exe //US//HPCA-Tomcat ++JvmOptions**
"-Djavax.net.ssl.keyStore= <PFX 形式のクライアント証明書パス>"
 - b **tomcat.exe //US//HPCA-Tomcat ++JvmOptions**
"-Djavax.net.ssl.keyStoreType=pkcs12"
 - c **tomcat.exe //US//HPCA-Tomcat ++JvmOptions**
"-Djavax.net.ssl.keyStorePassword=<PFX クライアント証明書のパスワード>"
- ▶ **PFX 形式のクライアント証明書パスおよび PFX クライアント証明書のパスワード** は、35 ページの**セキュリティパラメータの設定**で指定したものと同じです。
- 6 Tomcat Service を開始します。

PEM 形式への証明書の変換

▶ この手順は TLS を設定している場合にのみ必要です。

TLS がオンのときに IDE-R と SOL セッションを安全なものにするには、HPCA Server で PEM 形式の証明書を使用できるようにする必要があります。20 ページの**ルート証明書のエクスポート**で説明したように、ルート証明書は .cer ファイルとしてエクスポートされました。20 ページの**クライアント証明書のエクスポート**で説明したように、クライアント証明書は .pfx ファイルとしてエクスポートされました。このマシンが証明書がエクスポートされた SCS Server マシンと異なる場合は、これらのファイルは HPCA Server にコピーされています。

ルート証明書を PEM 形式に変換するには

OpenSSL ディレクトリから次のコマンドを実行します。デフォルトの OpenSSL ディレクトリは <InstallDir>\Media\oobm\win32\sca\CertGenerator\OpenSSL\HPCA\Media\oobm\win32\sca\CertGenerator\OpenSSL です。

```
openssl x509 -inform DER -outform PEM -in <root.cer> -out <root.pem>
```

ここで、<root.cer> は .cer 形式の Microsoft CA サーバー ルート証明書、<root.pem> は .pem 形式の Microsoft CA server ルート証明書です。

例:

```
openssl x509 -inform DER -outform PEM -in C:\SCS\RootCA.cer -out  
C:\SCS\RootCA.pem
```

クライアント証明書を PEM 形式に変換するには

OpenSSL ディレクトリから次のコマンドを実行します。デフォルトの OpenSSL ディレクトリは <InstallDir>\Media\oobm\win32\sca\CertGenerator\OpenSSL\HPCA\Media\oobm\win32\sca\CertGenerator\OpenSSL です。

```
openssl pkcs12 -in <client.pfx> -out <client.pem>
```

ここで、*<client.pfx>* は .pfx 形式で **HPCA Server** にエクスポートされたクライアント証明書、*<client.pem>* は .pfx 形式から .pem 形式に変換されて **HPCA Server** にエクスポートされたクライアント証明書です。

例:

```
Openssl pkcs12 -in C:¥SCS¥ClientAuth.pfx -out C:¥SCS¥ClientAuth.pem
```


4 管理タスク

この章では、Administrator ロールで実行して OOB デバイスの管理を準備する設定タスクについて説明します。これらのタスクはすべて、HPCA コンソールの **[設定]** タブで利用可能です。タスクには次が含まれます。

- 有効化
- デバイス タイプの選択
- vPro システム保護の設定
- プロビジョニング タスクの実行

▶ HPCA コンソールで結果を最大限に表示するには、ディスプレイ コンソールの画面解像度を 1280x1024 に設定してください。

有効化

OOBM タスクを実行するには、HPCA コンソールにログインしたとき、アウトバンド管理がまだ有効になっていない場合は、まずそれを有効にします。

OOBM が無効な場合、**[有効化]** 以外のオプションは HPCA コンソールの **[設定]** タブおよび **[操作]** タブ内に表示されません。また、HPCA コンソールの **[管理]** タブからはアウトバンド デバイス コンソールにアクセスできません。

OOBM を有効化するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** の下で、**[有効化]** をクリックします。**[有効化]** ウィンドウが表示されます。
- 3 **[有効]** の横にあるボックスをオンにして、**[保存]** をクリックします。アウトバンド管理が有効になります。自動的にログオフします。
- 4 HPCA コンソールにログインします。

HPCA 管理コンソールに再度ログインすると、後続のセクション**設定**、**操作**、および**管理**で説明する OOBM オプションが追加表示されています。

設定

[有効化] に加え、**[設定]** タブの **[アウトバンド管理]** の下に **[デバイス タイプの選択]** が表示されます。

デバイス タイプの選択 によっては、別のオプションが表示される場合もあります。詳細については、53 ページの**vPro システム保護の設定**を参照してください。

操作

[アウトバンド管理] が、[操作] タブの左側のナビゲーション ペインに表示されます。

デバイス タイプの選択によって、[アウトバンド管理] の下に表示されるオプションが決まります。

管理

HPCA コンソールの [管理] タブから [アウトバンド デバイスの詳細] に直接アクセスできるようになります。

第 5 章、「デバイス管理」 および第 6 章、「グループ管理」 で説明している [操作] タブからの通常のアクセス方法のほかに、この方法が追加されます。



Client Automation Enterprise

CAE の [管理] タブから [アウトバンド デバイスの詳細] へアクセスするには多くの方法があります。





デバイスのプルダウン メニューを使用してデバイスを特定する

- 1 [ディレクトリ] の下で、[Zone] を展開して [Devices] をクリックします。[ディレクトリ オブジェクト] ウィンドウが表示されます。
- 2 デバイス名の横にあるプルダウン メニューから、[アウトバンド デバイスの詳細] を選択します。デバイスが OOBM をサポートしている場合、[アウトバンド デバイスの詳細] ウィンドウが表示されます。サポートしていない場合は、エラー メッセージが表示されます。

アウトバンド デバイスの詳細アイコンを使用してデバイスを特定する

- 1 [ディレクトリ] の下で、[Zone] を展開して [Devices] をクリックします。[ディレクトリ オブジェクト] ウィンドウが表示されます。
- 2 デバイス名のリンクをクリックします。情報セクションの上のツールバーに、 アウトバンド デバイスの詳細アイコンが表示されます。
- 3 デバイス テーブルでデバイスを選択して、 をクリックします。デバイスが OOBM をサポートしている場合、[アウトバンド デバイスの詳細] ウィンドウが表示されます。サポートしていない場合は、エラー メッセージが表示されます。

プロパティの表示/編集アイコンを使用してデバイスを特定する

- 1 [ディレクトリ] の下で、[Zone] を展開して [Devices] をクリックします。[ディレクトリ オブジェクト] ウィンドウが表示されます。
- 2 デバイス名のリンクをクリックします。情報セクションの上のツールバーに、 プロパティの表示/編集アイコンが表示されます。
- 3  をクリックします。特定のデバイス用に開いた [ディレクトリ オブジェクト] ウィンドウに、 アウトバンド デバイスの詳細アイコンが表示されます。
- 4  をクリックします。デバイスが OOBM をサポートしている場合、[アウトバンド デバイスの詳細] ウィンドウが表示されます。サポートしていない場合は、エラー メッセージが表示されます。

グループからデバイスを特定する

- 1 [ディレクトリ] の下で、[Zone] を展開して [グループ] をクリックします。[ディレクトリ オブジェクト] ウィンドウが表示されます。



- 2 デバイスが入っている任意のグループを選択します。[ディレクトリ オブジェクト] ウィンドウが開き、選択したグループ内のデバイスが表示されます。

上で説明したデバイス特定手順、デバイスのプルダウン メニューを使用してデバイスを特定する、アウトバンド デバイスの詳細アイコンを使用してデバイスを特定する、プロパティの表示/編集アイコンを使用してデバイスを特定するのいずれかを使用して、[アウトバンド デバイスの詳細] ウィンドウにアクセスできます。

Client Automation Standard

CAS の **[管理]** タブから [アウトバンド デバイスの詳細] へアクセスするには多くの方法があります。


[デバイス管理] からアウトバンド デバイスの詳細アイコンを使用する

- 1 **[管理]** タブの左側のナビゲーション ペインから **[デバイス管理]** をクリックします。[デバイス管理] ウィンドウが表示されます。
- 2 **[デバイス]** タブを選択します。デバイス テーブルのツールバーに、 アウトバンド デバイスの詳細アイコンが表示されます。
- 3 デバイス テーブルでデバイスを選択して、 をクリックします。デバイスが **OOBM** をサポートしている場合、[アウトバンド デバイスの詳細] ウィンドウが表示されます。サポートしていない場合は、エラー メッセージが表示されます。

[デバイス管理] からデバイス名のリンクを使用する

- 1 **[管理]** タブの左側のナビゲーション ペインから **[デバイス管理]** をクリックします。[デバイス管理] ウィンドウが表示されます。
- 2 **[デバイス]** タブを選択します。
- 3 デバイス テーブルで、デバイス名のリンクをクリックします。[デバイスの詳細] ウィンドウが表示されます。
- 4 **[全般]** タブを選択します。
- 5 [共通のタスク] > [タスク] の下で、**[アウトバンド]** をクリックします。デバイスが **OOBM** をサポートしている場合、[アウトバンド デバイスの詳細] ウィンドウが表示されます。サポートしていない場合は、エラー メッセージが表示されます。

[グループ管理] からアウトバンド デバイスの詳細アイコンを使用する

- 1 **[管理]** タブの左側のナビゲーション ペインから **[グループ管理]** をクリックします。[グループ管理] ウィンドウが表示されます。
- 2 **[グループ]** タブを選択します。
- 3 グループ テーブルでグループ名のリンクをクリックします。[グループの詳細] ウィンドウが表示されます。
- 4 **[デバイス]** タブを選択します。デバイス テーブルのツールバーに、 アウトバンド デバイスの詳細を表示アイコンが表示されます。[デバイス管理] からアウトバンド デバイスの詳細アイコンを使用すると同じ手順を実行します。

[ソフトウェア管理] からアウトバンド デバイスの詳細アイコンを使用する

- 1 **[管理]** タブの左側のナビゲーション ペインから **[ソフトウェア管理]** をクリックします。[ソフトウェア管理] ウィンドウが表示されます。
- 2 一般的に[グループ管理] からアウトバンド デバイスの詳細アイコンを使用すると同じ手順に従います。手順 2 では **[ソフトウェア]** タブを選択します。

[パッチ管理] からアウトバンド デバイスの詳細アイコンを使用する

- 1 **[管理]** タブの左側のナビゲーション ペインから **[パッチ管理]** をクリックします。[パッチ管理] ウィンドウが表示されます。
- 2 全般的に51 ページの**[グループ管理]** からアウトバンド デバイスの詳細アイコンを使用すると同じ手順に従います。手順 2 では **[パッチ]** タブを選択します。

[OS 管理] からアウトバンド デバイスの詳細アイコンを使用する

- 1 **[管理]** タブの左側のナビゲーション ペインから **[OS 管理]** をクリックします。[OS 管理] ウィンドウが表示されます。
- 2 全般的に51 ページの**[グループ管理]** からアウトバンド デバイスの詳細アイコンを使用すると同じ手順に従います。手順 2 では **[オペレーティング システム]** タブを選択します。

デバイス タイプの選択

次に実行する設定タスクは、管理する OOB デバイスのタイプを選択することです。

デバイス タイプを選択するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス タイプの選択]** をクリックします。[デバイス タイプの選択] ウィンドウが表示されます。

DASH デバイス、vPro デバイス、両方のデバイス という 3 つのデバイス タイプのうち 1 つを選択できます。

— DASH デバイス

DASH デバイスを管理するには、**[DASH デバイスの管理]** チェック ボックスをオンにします。DASH 管理者がすべてのデバイスに同じ認証情報を設定している場合は、DASH デバイスに共通の認証情報を指定できます。

- **[すべての DASH デバイスに対して共通の認証情報を使用]** に対して **[はい]** を選択します。**[DASH デバイスの認証情報]** フィールドが表示されます。
- すべての DASH デバイスの **[ユーザー名]** と **[パスワード]** を入力します。

— vPro デバイス

vPro デバイスを管理するには、**[vPro デバイスの管理]** チェック ボックスをオンにします。**[SCS のプロパティ]** フィールドが表示されます。SCS ログイン認証情報、および SCS サービスの URL を入力する必要があります。

- **[SCS サービスの URL]** を入力します(例:
http(s)://provisionserver.yourenterprise.com/amtscs)。
- SCS 管理者の SCS **[ユーザー名]** と **[パスワード]** を入力します。

— 両方のデバイス

DASH デバイスと vPro デバイスの両方を管理するには、DASH デバイス用に **[DASH デバイスの管理]** チェック ボックスをオンにして、**[vPro デバイスの管理]** チェック ボックスをオンにします。

両方のタイプのデバイスを選択した場合、DASH デバイスに共通の認証情報を入力することができます。また、vPro デバイスにアクセスするために必要な SCS ログイン認証情報、および SCS サービスの URL を入力する必要があります。

- 3 **[保存]** をクリックします。認証情報が保存されます。
共通認証情報または **SCS** 認証情報を誤って入力した場合や、**DASH** または **SCS** の管理者がこれらの情報を変更した場合は、もう一度 [デバイス タイプの選択] ウィンドウへアクセスして、これらの情報を再入力できます。
- 4 **HPCA** コンソールをログアウトして再度ログインし、**[設定]** および **[操作]** タブに表示されているアウトバンド管理オプションに、選択したデバイス タイプが反映されていることを確認します。

デバイス タイプの選択によって決まる設定および操作オプション

デバイス タイプを選択したら、**[設定]** タブと **[操作]** タブに選択内容を反映したオプションが表示されます。次の表に、オプションの要約を示します。

表 6 設定とオペレーションのオプション

	DASH	vPro
設定	追加オプションなし	vPro システム保護の設定
オペレーション	デバイス管理	プロビジョニング タスクの実行 , デバイス管理 , グループ管理 , 警告の通知

- ▶ デバイス タイプを選択したり、選択内容を変更したりしたときに、**[設定]** タブと **[操作]** タブのナビゲーション パネルにデバイス タイプ関連のオプションを表示するには、**HPCA** コンソールからログアウトし、再度ログインする必要があります。

vPro システム保護の設定

vPro デバイスおよびデバイス グループの管理を開始する前に、vPro システム保護の設定を定義します。

- ▶ この設定オプションは、vPro デバイス タイプを選択した場合にのみ表示されます。システム防御設定は、DASH デバイスには適用されません。

[設定] タブの **[アウトバンド管理]** の下で、**[vPro システム保護の設定]** をクリックします。[vPro システム保護の設定] ウィンドウが表示されます。

vPro デバイスを管理するときは、ネットワーク全般のポリシー、フィルタ、ヒューリスティック、ウォッチドッグを作成できます。

次のオプションがあります。




- システム防御フィルタの管理
- システム防御ポリシーの管理
- ヒューリスティック情報の管理
- ウォッチドッグの管理

システム防御フィルタの管理


HPCA コンソールを使用して、システム防御フィルタ リポジトリ内の vPro デバイスのシステム防御フィルタの表示、作成、更新、および削除が可能です。システム防御フィルタにより、ネットワーク上のパケットの流れが監視され、フィルタ条件が一致するとパケットのドロップやパケット レートの制限が可能になります。システム防御フィルタは、システム防御ポリシーに割り当てられ、ポリシーを有効化してネットワークを保護することができます。これらのフィルタは、対応するポリシーがアクティブ ポリシーになった場合にアクティブになります。

システム防御フィルタ リストのツールバー上のアイコンを使用してフィルタを管理できます。


表 7 システム防御フィルタ リストのツールバー

アイコン	機能
	リストに表示されているシステム防御フィルタをリフレッシュします。
	リポジトリにシステム防御フィルタを追加します。
	リポジトリからシステム防御フィルタを削除します。

システム防御フィルタのビューをリフレッシュするには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[フィルタ]** をクリックします。[フィルタ] ウィンドウが表示されます。[フィルタ] ウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したシステム防御フィルタが表示されます。
- 3 ツールバーの  リフレッシュ アイコンをクリックします。

システム防御フィルタを追加するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[フィルタ]** をクリックします。[フィルタ] ウィンドウが表示されます。[フィルタ] ウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したシステム防御フィルタが表示されます。
- 3 ツールバーの  追加アイコンをクリックします。ネットワーク フィルタ ウィザードが表示されます。
- 4 **[次へ]** をクリックして続行します。[フィルタの詳細] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **フィルタ名:** フィルタの名前を入力します。
 - **フィルタ タイプ:** 作成するフィルタのタイプを選択します。各タイプについては、このページで説明されています。
 - **パケット数/秒:** このフィールドは、フィルタ タイプに [レート制限フィルタ] を選択した場合のみ有効になります。フィルタのパケット レートの限界値を入力します。毎秒単位のパケット レートを指定します。
 - **フィルタ一致時にイベントを作成:** イベントを作成する場合は、**[はい]** を選択します。イベントを作成すると、vPro ログにイベントが書き込まれます。または、Event Manager がイベント フィルタで検出したエントリに基づいてイベント警告が HPCA コンソールに送信されます。または、この両方が行われます。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[パラメータ] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内で次を指定します。

- **パケットタイプ:** プルダウンメニューからパケットのタイプを選択します。[TCP パケット (IPv4)]、[UDP パケット (IPv4)]、[IP パケット (IPv4)]、または [イーサネット フレーム] から選択します。このフィールドで指定したパケットのタイプにより、フィルタが適用されるパケットヘッダーが決定されます。
- **次のプロトコル:** このパラメータは IP パケットのフィルタリングのみに適用されるため、このフィールドは [パケットタイプ] フィールドで IP パケットを選択したときのみ表示されます。1 つ上位のパケットプロトコルをプルダウンメニューから選択します。1 つ上位のプロトコルは、TCP、UDP、および ICMP です。これらのプロトコルは、TCP/IP 抽象モデルのインターネット層内の上位レベルにあるプロトコルです。
- **その他のプロトコル:** このフィールドは、[パケットタイプ] フィールドで IP パケットを選択した場合のみに表示され、[次のプロトコル] で [-その他-] を選択した場合のみ有効になります。その他の IP プロトコルは、<http://www.iana.org/assignments/protocol-numbers> (英語サイト) に記載されています。
- **TCP フラグ:** このパラメータは TCP パケットのフィルタリングのみに適用されるため、フラグのタイプは [パケットタイプ] フィールドで TCP パケットを選択したときのみ表示されます。必要なフラグタイプをオンにします。必要なタイプはすべてオンにできます。これらのフラグはオプションです。フラグを指定しないで TCP フィルタを作成した場合、すべてのタイプの TCP パケットが一致します。
- **イーサネットフレームタイプ:** このフィールドはイーサネットパケットのフィルタリングのみに適用されるため、このフィールドは [パケットタイプ] フィールドで [イーサネットフレーム] パケットを選択したときのみ表示されます。プルダウンメニューからフレームのタイプを選択します。[IPv4] または [IPv6] から選択します。
- **その他のイーサネットフレームタイプ:** このフィールドは、[パケットタイプ] フィールドで [イーサネットフレーム] パケットを選択した場合のみに表示され、[イーサネットのフレームタイプ] で [-その他-] を選択した場合のみ有効になります。その他のイーサネットフレームタイプを入力します。さまざまなイーサネットフレームのタイプが <http://www.iana.org/assignments/ethernet-numbers> (英語サイト) に記載されています。
- **フィルタモードまたは方向:** フィルタモードを選択します。このオプションは、パケットが vPro デバイスによって受信される ([受信]) のか、vPro デバイスから送信される ([送信]) のかを指定します。
- **ネットワークアドレス:** このパラメータは IP、TCP および UDP パケットのフィルタリングのみに適用されるため、このセクションは [パケットタイプ] フィールドで IP、TCP、または UDP パケットを選択したときのみ表示されます。次のいずれかのオプションを選択できます。

デバイスからのパケットをフィルタ/デバイスへのパケットをフィルタ: このオプションは、単一デバイスのパケットをフィルタリングできます。リモートデバイスの IP アドレスを入力します。フィルタモードで [受信] を選択した場合、フィルタはこの IP アドレスから vPro デバイスに送信されるパケットに適用されます。フィルタモードで [送信] を選択した場合、フィルタは vPro デバイスからこの IP アドレスに送信されるパケットに適用されます。

サブネットからのパケットをフィルタ/サブネットへのパケットをフィルタ: このオプションは、サブネットアドレス範囲のパケットをフィルタリングできます。IP アドレスとサブネットマスクを入力します。IP アドレスとサブネットマスクの組み合わせで、フィルタを適用するサブネットアドレス範囲を指定します。フィルタモードで [受信] を選択した場合、フィルタはこのサブネットアドレス範囲のリモートデバイスから vPro デバイスに送信されるパケットに適用されます。フィルタモードで [送信] を選択した場合、フィルタは vPro デバイスからこのサブネットアドレス範囲のリモートデバイスに送信されるパケットに適用されます。

ネットワークからのパケットをフィルタ/ネットワークへのパケットをフィルタ: このオプションは、ネットワーク全体のパケットをフィルタリングできます。フィルタモードで [受信] を選択した場合、フィルタはすべてのリモートデバイスから vPro デバイスに送信されるパケットに適用されます。フィルタモードで [送信] を選択した場合、フィルタは vPro デバイスからすべてのリモートデバイスに送信されるパケットに適用されます。

- **ポートタイプ:** この設定は TCP パケットおよび UDP パケットのフィルタリングのみに適用されるため、このセクションは [パケットタイプ] フィールドで TCP パケットまたは UDP パケットを選択したときのみ表示されます。次のいずれかのオプションを選択できます。

ソースポートの範囲: このオプションでは、フィルタを適用するソースポートの範囲 (最小および最大のポート値) を指定できます。このソースポート範囲からすべての送信先ポートへ送信されるパケットにフィルタが適用されます。詳細については、表 8 を参照してください。

接続先ポートの範囲: このオプションでは、フィルタを適用する接続先ポートの範囲 (最小および最大のポート値) を指定できます。すべてのポートからこの送信先ポート範囲へ送信されるパケットにフィルタが適用されます。詳細については、表 8 を参照してください。

表 8 ポートの決定


		フィルタモード	
		vPro デバイスから送信されるパケット	vPro デバイスが受信するパケット
IP ポートの方向	ソースポート範囲	vPro デバイス上のポートを参照します。vPro デバイス上のこのソースポート範囲から送信先リモートデバイス上のすべてのポートに送信されるパケットがフィルタリングされます。	リモートデバイス上のポートを参照します。送信元リモートデバイス上のこのソースポート範囲から vPro デバイス上のすべてのポートに送信されるパケットがフィルタリングされます。
	接続先ポート範囲	リモートデバイス上のポートを参照します。vPro デバイス上のすべてのポートから送信先リモートデバイス上のこのポート範囲に送信されるパケットがフィルタリングされます。	vPro デバイス上のポートを参照します。送信元リモートデバイス上のすべてのポートから vPro デバイス上のこの送信先ポート範囲に送信されるパケットがフィルタリングされます。

- 6 [次へ] をクリックします。確認メッセージが表示されます。
- 7 [閉じる] をクリックします。フィルタリポジトリのシステム防御フィルタテーブルに新しいフィルタが表示されます。

システム防御フィルタを更新するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、[設定] タブを選択します。
- 2 [アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定] の下で、[フィルタ] をクリックします。[フィルタ] ウィンドウが表示されます。[フィルタ] ウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したシステム防御フィルタが表示されます。
- 3 フィルタテーブルの [フィルタ名] カラムで、変更するフィルタのフィルタ名のリンクをクリックします。ネットワークフィルタウィザードが表示されます。
- 4 [次へ] をクリックして続行します。[フィルタの詳細] および [パラメータ] ページで、必要に応じてフィールドを編集します。
- 5 [次へ] をクリックします。確認メッセージが表示されます。
- 6 [閉じる] をクリックします。更新内容がフィルタリポジトリに適用されます。

システム防御フィルタを削除するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[フィルタ]** をクリックします。[フィルタ] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したシステム防御フィルタが表示されます。
- 3 フィルタ リポジトリから削除するすべてのフィルタの横にあるボックスをオンにします。
- 4  削除アイコンをクリックします。選択したフィルタが、フィルタ リポジトリのシステム防御フィルタ テーブルから削除されます。

システム防御フィルタのインターフェイスを使用して、次の作業を実行できます。







- ポリシーに適用可能な既存のフィルタ セットを表示する。
- ネットワークをウイルス感染から分離するフィルタを定義する。
- ネットワーク トラフィックを迂回させてさまざまな自己修復シナリオを実行するフィルタを定義する。
- 能動的にパケットを監視してシステム防御を行うフィルタを定義する。
- 今後必要とされないフィルタを削除する。

システム防御ポリシーの管理


HPCA コンソールを使用して、システム防御ポリシー リポジトリ内のシステム防御ポリシーの表示、作成、および削除が可能です。これらのポリシーはネットワーク上の複数の vPro デバイスに配布することができます。ポリシーがアクティブ ポリシーになると、このポリシーに関連付けられているフィルタがアクティブになります。システム防御ポリシーによって、ネットワークを選択的に分離し、vPro デバイスをマルウェア攻撃から保護することができます。

システム防御ポリシー リストのツールバーにあるアイコンを使用してポリシーを管理できます。


表 9 システム防御ポリシー リストのツールバー

アイコン	機能
	リストに表示されているシステム防御ポリシーをリフレッシュします。
	リポジトリにシステム防御ポリシーを追加します。
	システム防御ポリシーを vPro デバイスに配布します。
	システム防御ポリシーを vPro デバイスから回収します。
	システム防御ポリシーおよびエージェント存在ポリシーを有線および無線インターフェイスに割り当てます。
	リポジトリからシステム防御ポリシーを削除します。

システム防御ポリシーのビューをリフレッシュするには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[ポリシー]** をクリックします。[ポリシー] ウィンドウが表示されます。[ポリシー] ウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したシステム防御ポリシーが表示されます。
- 3 ツールバーの  リフレッシュ アイコンをクリックします。

システム防御ポリシーを追加するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ポリシー]** をクリックします。[ポリシー] ウィンドウが表示されます。[ポリシー] ウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したシステム防御ポリシーが表示されます。
- 3  追加アイコンをクリックして、新しいポリシーを作成します。ネットワーク ポリシー ウィザードが表示されます。
- 4 **[次へ]** をクリックして続行します。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **ポリシー名:** ポリシーの名前を入力します。
 - **優先度:** ポリシーの優先度を入力します。数字が大きいほど、優先度は高くなります。優先度は、システム防御ポリシーとエージェント存在ポリシーが両方とも有効である場合に、どちらのポリシーがアクティブになるかを決定するために使用されます。
 - **偽装対策フィルタの有効化:** [はい] または [いいえ] を選択します。偽装防止には、転送フィルタを使用します。このフィルタが有効な場合、割り当てられた IP アドレスとは異なる送信元 IP アドレスをもつ IP パケットを送信してホストが身元を偽ることを防止します。
 - **デフォルトの受信 (Rx) フィルタ タイプ:** [パス] または [ドロップ] を選択します。デフォルト受信フィルタは、他のすべてのポリシー受信フィルタに一致しないすべての受信パケットを扱います。受信フィルタのタイプはパスまたはドロップのいずれかです。
 - **デフォルトの転送 (Tx) フィルタ タイプ:** [パス] または [ドロップ] を選択します。デフォルト送信フィルタは、他のすべてのポリシー送信フィルタに一致しないすべての送信パケットを扱います。送信フィルタのタイプはパスまたはドロップのいずれかです。
- 5 **[次へ]** をクリックします。ウィザードの [フィルタ] ページが表示されます。
- 6 ポリシーと関連付けるフィルタを **[使用可能フィルタ]** リストから **[ポリシーに割り当てるフィルタ]** リストにドラッグします。
- 7 **[ポリシーの追加]** をクリックします。確認メッセージが表示されます。
- 8 **[閉じる]** をクリックします。ポリシー リポジトリのシステム防御ポリシー テーブルに新しいポリシーが表示されます。

システム防御ポリシーを更新するには


- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ポリシー]** をクリックします。[ポリシー] ウィンドウが表示されます。[ポリシー] ウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したシステム防御ポリシーが表示されます。
- 3 ポリシー テーブルの [ポリシー名] カラムで、変更するポリシーのポリシー名のリンクをクリックします。ネットワーク ポリシー ウィザードが表示されます。
- 4 **[次へ]** をクリックします。必要に応じて各フィールドを編集します。
- 5 **[次へ]** をクリックして、現在ポリシーに関連付けられているフィルタを確認します。
- 6 リスト間でフィルタをドラッグアンドドロップして、選択したポリシーに対するフィルタの関連付けを変更します。
- 7 **[ポリシーの更新]** をクリックします。確認メッセージが表示されます。

8 **[閉じる]** をクリックします。更新内容がポリシー リポジトリに適用されます。




ポリシーが既に vPro デバイスに配布されている場合、更新されるのはリポジトリ内のポリシーのみで、デバイス上のポリシーは更新されません。

システム防御ポリシーを配布するには


- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[ポリシー]** をクリックします。[ポリシー] ウィンドウが表示されます。[ポリシー] ウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したシステム防御ポリシーが表示されます。
- 3 配布する各ポリシーの横にあるボックスをオンにします。
- 4 ツールバーの  配布アイコンをクリックします。ポリシー配布ウィザードが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックして続行します。[デバイスの選択] ウィンドウが表示されます。
- 6 ポリシーを配布する各デバイスの横にあるボックスをオンにします。
- 7 **[次へ]** をクリックします。[ポリシーの設定] ウィンドウが表示されます。このウィンドウを使用して、選択したデバイス グループの有線および無線 NIC に割り当てるデフォルトのシステム防御ポリシーまたはエージェント存在ポリシーまたはこの両方を選択できます。同じポリシーは、[システム防御] および [エージェント存在] の各フィールドの横にあるプルダウンメニューからも選択できます。デバイスに存在しない NIC (有線または無線) にポリシーを指定すると、[結果] ウィンドウに例外が表示されますが、これは配布プロセスには影響しません。
- 8 **[次へ]** をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 9 **[次へ]** をクリックして配布プロセスを続行します。[結果] ウィンドウが開いて、配布プロセスの結果が表示されます。
- 10 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

システム防御ポリシーを回収するには


- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[ポリシー]** をクリックします。[ポリシー] ウィンドウが表示されます。[ポリシー] ウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したシステム防御ポリシーが表示されます。
- 3 回収する各ポリシーの横にあるボックスをオンにします。
- 4 ツールバーの  回収アイコンをクリックします。ポリシー回収ウィザードが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[デバイスの選択] ウィンドウが表示されます。
- 6 ポリシーを回収する各デバイスの横にあるボックスをオンにします。
- 7 **[次へ]** をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 8 **[次へ]** をクリックして回収プロセスを続行します。[結果] ウィンドウが開いて、回収プロセスの結果が表示されます。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

エージェント存在ポリシーを設定するには


- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。

- 2 **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ポリシー]** をクリックします。**[ポリシー]** ウィンドウが表示されます。**[ポリシー]** ウィンドウには、**HPCA** コンソールを使用して作成したシステム防御ポリシーが表示されます。
- 3 エージェント存在ポリシーとして設定するポリシーの横にあるボックスをオンにします。
- 4  ポリシー管理アイコン上のプルダウン メニューから、**[エージェント存在ポリシーの設定 (有線 NIC)]** を選択します。エージェント存在ポリシー設定ウィザードが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックして続行します。**[デバイスの選択]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、有線 **NIC** を装備した選択可能な **vPro** デバイスのみが表示されます。
- 6 選択したエージェント存在ポリシーを設定する各デバイスの横にあるボックスをオンにします。
- 7 **[次へ]** をクリックします。**[要約の確認]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 8 **[次へ]** をクリックしてポリシー設定プロセスを続行します。**[結果]** ウィンドウが開いて、プロセスの結果が表示されます。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。
- 10 無線 **NIC** にエージェント存在ポリシーを設定するには、ポリシーの設定アイコンのプルダウン メニューから **[エージェント存在ポリシーの設定 (無線 NIC)]** オプションを選択します。この場合、**[デバイスの選択]** ウィンドウには、無線 **NIC** を装備した選択可能な **vPro** デバイスのみが表示されます。有線 **NIC** の場合と同じ手順で、エージェント存在ポリシーを設定します。

システム防御ポリシーを有効化するには

- 1 **HPCA** コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ポリシー]** をクリックします。**[ポリシー]** ウィンドウが表示されます。**[ポリシー]** ウィンドウには、**HPCA** コンソールを使用して作成したシステム防御ポリシーが表示されます。
- 3 システム防御ポリシーとして有効化するポリシーの横にあるボックスをオンにします。
- 4  ポリシー管理アイコン上のプルダウン メニューから、**[システム防御ポリシーの有効化 (有線 NIC)]** を選択します。システム防御ポリシーの有効化ウィザードが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックして続行します。**[デバイスの選択]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、有線 **NIC** を装備した選択可能な **vPro** デバイスのみが表示されます。
- 6 選択したシステム防御ポリシーを有効化する各デバイスの横にあるボックスをオンにします。
- 7 **[次へ]** をクリックします。**[要約の確認]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 8 **[次へ]** をクリックしてポリシーの有効化プロセスを続行します。**[結果]** ウィンドウが開いて、プロセスの結果が表示されます。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。
- 10 無線 **NIC** に対してシステム防御ポリシーを有効化するには、ポリシーの設定アイコンのプルダウン メニューから **[システム防御ポリシーの有効化 (無線 NIC)]** オプションを選択します。この場合、**[デバイスの選択]** ウィンドウには、無線 **NIC** を装備した選択可能な **vPro** デバイスのみが表示されます。有線 **NIC** の場合と同じ手順で、システム防御ポリシーを有効化します。

システム防御ポリシーを削除するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[ポリシー]** をクリックします。[ポリシー] ウィンドウが表示されます。[ポリシー] ウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したシステム防御ポリシーが表示されます。
- 3 削除する各ポリシーの横にあるボックスをオンにします。
- 4 ツールバーの  削除アイコンをクリックします。このアクションによって選択したポリシーがリポジトリから削除され、また、すべてのプロビジョニング済みの vPro デバイスからこのポリシーが回収されるという警告メッセージが表示されます。
- 5 **[OK]** をクリックして続行します。ポリシーはリポジトリから削除され、システム防御ポリシーテーブルに内容が反映されます。また、プロビジョニング済みの vPro デバイスからも回収されます。

システム防御ポリシーのインターフェイスを使用して、次の作業を実行できます。






- 必要に応じて、新しいシステム防御ポリシーを定義する。
- ポリシーに関連付けられているフィルタの追加または削除を行い、より詳細にポリシーを微調整し、ネットワーク防御のニーズに適合させる。
- イベント警告またはログまたはこの両方に基づいて、ポリシーを有効化してアクティブ ポリシーにする。
- なりすましフィルタを有効化して、割り当てられた IP アドレスとは異なる送信元 IP アドレスを含む IP パケットを送信してホストが身元を偽ることを防止する。
- 不要になったポリシーを削除する。
- 複数の vPro デバイスに対してポリシーを配布 (および回収) する。

ヒューリスティック情報の管理

HPCA コンソールを使用して、ヒューリスティック情報の表示、作成、削除、およびそれへのアクションの追加が可能です。これらのヒューリスティックは複数の vPro デバイスに配布できます。これらのヒューリスティックにより、ワームの侵入を示す状況が検出され、他のデバイスが感染しないようにそのデバイスが制御されることで、ネットワーク上のデバイスが保護されます。


ヒューリスティック リストのツールバーにあるアイコンを使用してヒューリスティック仕様を管理できます。

表 10 ヒューリスティック リスト ツールバー


アイコン	機能
	リストに表示されているヒューリスティックをリフレッシュします。
	リポジトリにヒューリスティック情報を追加します。
	選択された vPro デバイスへヒューリスティック情報を配布します。
	選択された vPro デバイスからヒューリスティック情報を回収します。
	リポジトリからヒューリスティック情報を削除します。

ヒューリスティック ビューをリフレッシュするには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。

- 2 [アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定] の下で、[ヒューリスティック] をクリックします。
[ヒューリスティック] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したヒューリスティックが表示されます。
- 3 ツールバーの  リフレッシュ アイコンをクリックします。

ヒューリスティックを追加するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、[設定] タブを選択します。
- 2 [アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定] の下で、[ヒューリスティック] をクリックします。
[ヒューリスティック] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したヒューリスティックが表示されます。
- 3  追加アイコンをクリックして、新しいヒューリスティック情報を作成します。ヒューリスティック ウィザードが表示されます。
- 4 [次へ] をクリックして続行します。[ヒューリスティックの詳細] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **設定タイプ:** [高速パケットの総数]、[高速期間の総数]、[低速パケットの総数]、および [低速期間の総数] の各パラメータのデフォルト値を使用する場合は、[デフォルト] を選択します。これらの値は Intel の推奨値です。これらの値を変更する場合は、[カスタム] を選択します。これらの値を変更すると、深刻なネットワーク問題につながる恐れがある点に注意してください。
 - **パラメータ**
 - **名前:** ヒューリスティック仕様に固有の名前を入力します。
 - **高速パケットの総数:** デフォルトの設定タイプを選択しなかった場合、高速ワーム侵入のしきい値を入力します。しきい値 (パケット数) は、限界値を表します。カウンタがこの値を超過する場合、異常イベントであることを示します。設定可能なしきい値の範囲は 8 ~ 64 です。デフォルト値の 8 が推奨されます。
 - **高速期間の総数:** デフォルトの設定タイプを選択しなかった場合、高速ワーム侵入のしきい値を入力します。時間枠サイズ (時間数) は、ヒューリスティックがそのカウンタをリセットする期間です。設定可能な時間枠の範囲は 10 ミリ秒 ~ 1 秒 (1000 ミリ秒) です。デフォルト値の 10 ミリ秒が推奨されます。
 - **低速パケットの総数:** デフォルトの設定タイプを選択しなかった場合、低速ワーム侵入のしきい値を入力します。しきい値 (パケット数) は、限界値を表します。カウンタがこの値を超過する場合、異常イベントであることを示します。設定可能なしきい値の範囲は 8 ~ 64 です。デフォルト値の 64 が推奨されます。
 - **低速期間の総数:** デフォルトの設定タイプを選択しなかった場合、低速ワーム侵入のしきい値を入力します。時間枠サイズ (時間数) は、ヒューリスティックがそのカウンタをリセットする期間です。設定可能な時間枠の範囲は 1 秒 (1000 ミリ秒) ~ 50 秒 (50000 ミリ秒) です。デフォルト値の 50 秒が推奨されます。
 - **タイムアウト発生:** 異常イベントの発生後に封じ込めアクションを vPro デバイスに適用する期間を指定する値を入力します。20 以上の値が推奨されます。封じ込めアクションを永久に適用する場合は、値 0 を入力します。

詳細については、175 ページのウィンドウ サイズとしきい値および176 ページの封じ込めアクションとタイムアウト値を参照してください。
 - **アクション**

- **TX トラフィックのブロック:** プルダウン リストから **[すべての TX トラフィック]** または **[攻撃ポートのみ]** を選択します。多くの場合、後者のオプション (ポート トラフィックのみ) が推奨されます。
- **ポリシー**
 - **ポリシー名:** ヒューリスティックの条件が一致した場合にシステム防御フィルタを有効化するには、プルダウン リストからポリシー名を選択します。ポリシーを選択すると、**[ポリシー情報の表示]** リンクが表示されます。このリンクをクリックすると、ポリシーの詳細を確認できます。ポリシーの詳細を表示するウィンドウを閉じるには、**[閉じる]** をクリックします。
- 5 **[次へ]** をクリックします。操作のステータスが表示されます。
- 6 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。ヒューリスティック テーブルに新しいヒューリスティック情報が表示されます。この情報はリポジトリに追加されます。


ヒューリスティックを更新するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[ヒューリスティック]** をクリックします。**[ヒューリスティック]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したヒューリスティックが表示されます。
- 3 ヒューリスティック テーブルの **[ヒューリスティック名]** カラムで、変更するヒューリスティック仕様のヒューリスティック名のリンクをクリックします。ヒューリスティック ウィザードが表示されます。
- 4 **[次へ]** をクリックして続行します。**[ヒューリスティックの詳細]** ウィンドウが表示されます。必要に応じて各フィールドを編集します。名前フィールド以外のすべてのフィールドを編集できます。
- 5 **[次へ]** をクリックします。操作のステータスが表示されます。
- 6 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。更新内容がヒューリスティック テーブルに表示され、リポジトリに適用されます。




ヒューリスティック情報が既に vPro デバイスに配布されている場合、更新されるのはリポジトリ内のヒューリスティックのみで、デバイス上のヒューリスティックは更新されません。

ヒューリスティックを配布するには


- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[ヒューリスティック]** をクリックします。**[ヒューリスティック]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したヒューリスティックが表示されます。
- 3 配布する各ヒューリスティックの横にあるボックスをオンにします。
- 4 ツールバーの  ヒューリスティック配布アイコンをクリックします。ヒューリスティック ウィザードが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックして続行します。**[デバイスの選択]** ウィンドウが表示されます。
- 6 ヒューリスティック情報の配布先の各デバイスの横にあるボックスをオンにします。
- 7 **[次へ]** をクリックします。**[ヒューリスティック設定]** ウィンドウが表示されます。
- 8 選択したデバイスの有線ネットワーク インターフェイスおよび無線ネットワーク インターフェイスに適用するヒューリスティックを選択します。両方のインターフェイスに同じヒューリスティック情報を設定できます。デバイスに存在しない NIC (有線または無線) にヒューリスティック情報を指定すると、**[結果]** ウィンドウに例外が表示されますが、配布プロセスには影響しません。
- 9 **[次へ]** をクリックします。**[要約の確認]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。

- 10 **[次へ]** をクリックして配布プロセスを続行します。[結果] ウィンドウに操作結果が表示されます。
- 11 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ヒューリスティックを回収するには

- 1 HPCA コンソールにログインし、[設定] タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ヒューリスティック]** をクリックします。[ヒューリスティック] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したヒューリスティックが表示されます。
- 3 回収する各ヒューリスティックの横にあるボックスをオンにします。
- 4 ツールバーの  ヒューリスティック回収アイコンをクリックします。ヒューリスティック回収ウィザードが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[デバイスの選択] ウィンドウが表示されます。
- 6 ヒューリスティックを回収する各デバイスの横にあるボックスをオンにします。
- 7 **[次へ]** をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 8 **[次へ]** をクリックして回収プロセスを続行します。[結果] ウィンドウが開いて、回収プロセスの結果が表示されます。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ヒューリスティックを削除するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ヒューリスティック]** をクリックします。[ヒューリスティック] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、HPCA コンソールを使用して作成したヒューリスティックが表示されます。
- 3 削除する各ヒューリスティックの横にあるボックスをオンにします。
- 4 ツールバーの  削除アイコンをクリックします。このアクションにより選択したヒューリスティックがリポジトリから削除され、また、すべてのプロビジョニング済みの vPro デバイスから回収されるという警告が表示されます。
- 5 **[OK]** をクリックして続行します。ヒューリスティックはリポジトリから削除されてヒューリスティック テーブルに反映され、プロビジョニング済み vPro デバイスから回収されます。

ヒューリスティック インターフェイスを使用して次の作業が実行できます。

- 時間枠のサイズ (タイム数) およびしきい値 (パケット数) を設定し、ワームが vPro デバイスに侵入したかどうかをヒューリスティックに判断する。
- ヒューリスティックの条件が適合した場合に実行してワームを封じ込めるアクションを指定する。
- 不要になったヒューリスティック情報を削除する。
- 複数の vPro デバイスに対してヒューリスティックを配布 (および回収) する。








ウォッチドッグの管理

HPCA コンソールを使用し、ウォッチドッグ リポジトリのウォッチドッグの表示、作成、更新、削除、およびそれへのアクションの追加が可能です。これらのウォッチドッグはネットワーク上の複数の vPro デバイスに配布することができます。ウォッチドッグは、vPro デバイス上の OOBM エージェントが存在しているかどうかを監視します。OOBM エージェントの状態に変更


があった場合にウォッチドッグが取るアクションを指定できます。エージェント存在ポリシーがアクティブになった場合にコンソールに表示されるようにカスタマイズしたシステム メッセージ、および OOBM エージェントで監視するアプリケーションのソフトウェア リストを作成することもできます。

ウォッチドッグ リストのツールバーのアイコンにより、ウォッチドッグを管理できます。


表 11 ウォッチドッグ リスト ツールバー

アイコン	機能
	リストに表示されているウォッチドッグをリフレッシュします。
	リポジトリにウォッチドッグを追加します。
	選択したウォッチドッグを vPro デバイスに配布します。
	選択したウォッチドッグを vPro デバイスから回収します。
	リポジトリからウォッチドッグを削除します。
	OOBM エージェント システム メッセージおよびソフトウェア リストを設定します。
	OOBM エージェント システム メッセージおよびソフトウェア リストを配布します。

エージェント存在の表示をリフレッシュするには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[ウォッチドッグ]** をクリックします。**[ウォッチドッグ]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、HPCA コンソールで作成されたウォッチドッグが表示されます。
- 3 ツールバーの  リフレッシュ アイコンをクリックします。

ウォッチドッグを追加するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[ウォッチドッグ]** をクリックします。**[ウォッチドッグ]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、HPCA コンソールで作成されたウォッチドッグが表示されます。
- 3 ウォッチドッグを作成するには、 追加アイコンをクリックします。ウォッチドッグ ウィザードが開きます。
- 4 **[次へ]** をクリックして続行します。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **エージェント タイプ:** OOBM エージェントまたはサード パーティ製ベンダー エージェントを選択し、vPro デバイスにインストールしてあるエージェントを指定します。デフォルトでは、OOBM エージェントが選択されています。
 - **名前:** ウォッチドッグの固有の名前を入力します。
 - **エージェント GUID:** サード パーティ製ベンダー エージェントの GUID を入力します。OOBM エージェントの GUID はわかっているため、**[OOBM エージェント]** を選択した場合、このフィールドはグレー表示になります。
 - **ハート ビート間隔:** エージェントからウォッチドッグへのハートビートの時間間隔を入力します。デフォルト値が指定されています。
 - **起動間隔:** システムの起動後、エージェントが最初のハートビートをエージェント ウォッチドッグに送信する時間を入力します。デフォルト値が指定されています。

- 5 **[次へ]** をクリックします。ウィザードの [ウォッチドッグ アクション] ページが表示されます。このウィンドウ内で次を指定します。

— **遷移状態:**

初期状態: アクションを起動するエージェントの初期状態を選択します。

最終状態: アクションを起動するエージェントの最終状態を選択します。


— **アクション:**

[エージェント存在ポリシー] では [有効] または [無効] を選択して、エージェントが指定した状態から移行した場合、およびその状態に移行した場合に、エージェント存在ポリシーを有効にするか無効にするかを指定します。ポリシーが有効である場合は、有効になっているシステム防御ポリシーより優先度が高いと、そのポリシーがアクティブ ポリシーになります。

[イベント作成] では [有効] または [無効] を選択し、指定したエージェントの移行が発生した場合にイベントを作成するかどうかを指定します。イベント作成が有効である場合は、デバイスの vPro ログへのイベントの記録が行われるか、またはイベントフィルタ処理および警告メッセージ予約に応じた HPCA コンソールへのイベント警告の送信 (またはこの両方) が行われます。


- 6 **[アクションの追加]** をクリックします。ウィンドウ下部のアクション テーブルにアクションが追加されます。アクションは、さまざまな有効な移行状態によって定義されるため、いくつでもウォッチドッグに追加できます。
- 7 **[保存]** をクリックします。確認メッセージが画面に表示されます。
- 8 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。新しいウォッチドッグが、適切に設定されているアクションの数とともにウォッチドッグ テーブルに表示されます。ウォッチドッグおよびアクションがリポジトリに適用されます。

ウォッチドッグを更新するには


- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ウォッチドッグ]** をクリックします。[ウォッチドッグ] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、HPCA コンソールで作成されたウォッチドッグが表示されます。
- 3 ウォッチドッグ テーブルの [ウォッチドッグ名] カラムで、変更するウォッチドッグのウォッチドッグ名のリンクをクリックします。ウォッチドッグ ウィザードが開きます。
- 4 **[次へ]** をクリックして続行します。必要に応じて各フィールドを編集します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。ウィザードの [ウォッチドッグ アクション] ページが表示されます。このウィンドウでは、アクションを新たに追加したり、既存のアクションを削除したりすることができます。
 - 65 ページの **ウォッチドッグを追加するにはの手順 5**に従い、アクションを追加します。
 - ウィンドウ下部で削除する各ウォッチドッグ アクションの横にあるチェック ボックスをオフにして、 削除アイコンをクリックし、アクションを削除します。
- 6 **[保存]** をクリックします。確認メッセージが画面に表示されます。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。更新内容がウォッチドッグ テーブルに表示され、ウォッチドッグ リポジトリに適用されます。
 - ▶ ウォッチドッグが既に vPro デバイ스에 配布されている場合、更新されるのはリポジトリ内のウォッチドッグのみで、デバイス上のウォッチドッグは更新されません。

ウォッチドッグを配布するには


- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。

- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[ウォッチドッグ]** をクリックします。**[ウォッチドッグ]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、HPCA コンソールで作成されたウォッチドッグが表示されます。
- 3 配布する各ウォッチドッグの横にあるチェック ボックスをオンにします。OOBM エージェント ウォッチドッグは 1 つしか配布できません。サードパーティ製のエージェント ウォッチドッグは、vPro デバイス上で動作しているサードパーティ製エージェントごとに 1 つ配布でき、したがって複数配布できます。
- 4 ツールバーの  ウォッチドッグ配布アイコンをクリックします。ウォッチドッグ配布ウィザードが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックして続行します。**[デバイスの選択]** ウィンドウが表示されます。
- 6 ウォッチドッグを配布する各デバイスの横にあるボックスをオンにします。
- 7 **[次へ]** をクリックします。**[要約の確認]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 8 **[次へ]** をクリックして配布プロセスを続行します。**[結果]** ウィンドウに操作結果が表示されます。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。


ウォッチドッグを展開解除するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[ウォッチドッグ]** をクリックします。**[ウォッチドッグ]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、HPCA コンソールで作成されたウォッチドッグが表示されます。
- 3 展開解除する各ウォッチドッグの横にあるチェック ボックスをオンにします。
- 4 ツールバーの  ウォッチドッグ回収アイコンをクリックします。ウォッチドッグ回収ウィザードが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックします。**[デバイスの選択]** ウィンドウが表示されます。
- 6 ウォッチドッグを回収する各デバイスの横にあるチェック ボックスをオンにします。
- 7 **[次へ]** をクリックします。**[要約の確認]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 8 **[次へ]** をクリックして回収プロセスを続行します。**[結果]** ウィンドウが開いて、回収プロセスの結果が表示されます。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。


ウォッチドッグを削除するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[ウォッチドッグ]** をクリックします。**[ウォッチドッグ]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、HPCA コンソールで作成されたウォッチドッグが表示されます。
- 3 削除する各ウォッチドッグの横にあるチェック ボックスをオンにします。
- 4 ツールバーの  削除アイコンをクリックします。このアクションによって、選択したウォッチドッグがリポジトリから削除され、また、すべてのプロビジョニング済みの vPro デバイスからこのウォッチドッグが回収されるという警告メッセージが表示されます。
- 5 **[OK]** をクリックして続行します。ウォッチドッグはリポジトリから削除され、ウォッチドッグ テーブルに内容が反映されます。また、プロビジョニング済みの vPro デバイスからも回収されます。

システム メッセージおよびソフトウェア リストを設定するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[ウォッチドッグ]** をクリックします。**[ウォッチドッグ]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、HPCA コンソールで作成されたウォッチドッグが表示されます。
- 3  **OOBM** エージェント設定アイコンをクリックします。**[ソフトウェア リスト]** ダイアログが表示されます。
- 4 **[システム メッセージ]** テキスト ボックスに、エージェント存在ポリシーがアクティブ化されたときに **vPro** デバイス上のコンソールに表示するシステム メッセージを入力します。デフォルトのメッセージが既に入力されており、これを編集できます。
- 5 **[ソフトウェア名]** ボックスに、ローカル エージェントに監視させる、**vPro** デバイスで動作しているセキュリティ アプリケーションの名前を入力します。例えば、**symantec.exe** と入力します。
 - ▶ 拡張子が **.exe** のアプリケーションのみを監視できます。この製品では、その他のタイプの実行ファイルの監視はサポートされていません。
- 6 **[追加]** をクリックします。このプロセスを繰り返して、**OOBM** エージェントに監視させるソフトウェア アプリケーションのリストを作成できます。
- 7 **[保存]** をクリックします。情報メッセージが画面に表示されます。
- 8 **[閉じる]** をクリックして、ダイアログを終了します。システム メッセージおよびエージェントソフトウェア リストは **XML** リポジトリに格納されます。

システム メッセージとソフトウェア リストを配布するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[設定]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[ウォッチドッグ]** をクリックします。**[ウォッチドッグ]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、HPCA コンソールで作成されたウォッチドッグが表示されます。
- 3 ツールバーの  ソフトウェア リストとシステム メッセージの配布アイコンをクリックします。これで、ソフトウェア配布ウィザード開始されます。
- 4 **[次へ]** をクリックします。**[ソフトウェア タイトル]** ウィンドウが表示されます。
- 5 **OOBM** エージェントに監視させるソフトウェア アプリケーションを選択します。
- 6 **[次へ]** をクリックします。**[デバイス]** ウィンドウが表示されます。
- 7 リストとメッセージを配布するデバイスを選択します。
- 8 **[次へ]** をクリックします。**[要約の確認]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 9 **[次へ]** をクリックして続行します。**[結果]** ウィンドウに操作結果が表示されます。
- 10 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。システム メッセージとアプリケーションソフトウェア リストは、ターゲットの **vPro** デバイスのサードパーティ データ ストア (3PDS) に書き込まれます。特定の **vPro** デバイス用のこの情報を表示するには、**[デバイス管理]** ウィンドウ内のデバイスのホスト名をクリックして、次に、**[診断]** セクションの下で、**[デバイス アセット]** > **[ソフトウェア情報]** > **[登録済みアプリケーション]** > **[HPCA]** > **[HPCABlock]** の順に移動します。

▶ ソフトウェア アプリケーション リストは、**vPro** デバイス上の **3PDS** に書き込まれ、**OOBM** エージェントは **3PDS** からリストを読み取るため、変更したリストを再配布する場合は、このデバイス上の **OOBM** エージェントを停止して再起動する必要があります。

ウォッチドッグ インターフェイスを使用して次の作業を実行できます。

- ウォッチドッグを定義して、vPro デバイス上の OOBM エージェントを監視する。
- ウォッチドッグによって監視されている OOBM エージェントのハートビート送信間隔とスタートアップ間隔を設定する。
- 不要になったウォッチドッグを削除する。
- 複数の vPro デバイスに対してウォッチドッグを配布 (および展開解除) する。
- エージェント存在ポリシーがアクティブ化されている場合に vPro デバイスのコンソールに表示されるシステム メッセージをカスタマイズおよび配布する。また、ターゲット vPro デバイス上で OOBM エージェントに監視させるアプリケーションのリストの選択元となるカスタム ソフトウェア アプリケーションのマスター リストをカスタマイズおよび配布する。

HPCA コンソールで OOB デバイスを管理できるようにするために **[設定]** タブで実行する管理タスクはこれで終わりです。

Operator または Administrator ロールのユーザーは、**[操作]** タブに移動して、ネットワークの OOB デバイスの管理を始めることができます。

プロビジョニング タスクの実行

HPCA コンソールの **[操作]** タブのアウトバンド管理オプションの中に、**[vPro プロビジョニング]** があります。



このオプションは、vPro デバイスの管理を選択した場合のみ HPCA コンソールに表示されます。

このオプションにより、vPro デバイスでいくつかのプロビジョニング タスクを実行できます。これらのタスクには、プロビジョニング、再プロビジョニング、部分的プロビジョニング解除、完全プロビジョニング解除が含まれます。ネットワークの管理中には、特定の vPro デバイスの再プロビジョニングやプロビジョニング解除をする必要が生じる場合があります。この作業を行うのには、次のような理由があります。


- **再提供:** vPro デバイスを完全に再提供します。vPro デバイ스에서複数のパラメータが変わった場合に、このオプションを使用します。
- **部分的に提供解除:** PID および PPS のみを vPro デバイスから削除します。SCS Server の情報 (IP アドレスとホスト名) は変えずに、キーのみを変更する必要がある場合にこのオプションを使用します。
- **完全に提供解除:** すべてのプロビジョニング情報を vPro デバイスから削除します。SCS Server の IP アドレスと名前が変わった場合にこのオプションを使用します。このオプションにより、すべてをクリアして新しいプロビジョニングを進めることができます。

いずれかのプロビジョニング タスクを実行するには、最初に次のことを行う必要があります。

- OOBM エージェントを vPro デバイスにまだインストールしていない場合はインストールします。詳細については、26 ページの **OOBM エージェントのインストール** を参照してください。
- ネットワーク セキュリティ ポリシーの一部としてセキュリティを強化する必要がある場合は、SCS セットアップに戻ってワンタイム パスワード (OTP) を有効にします。詳細については、22 ページの **プロファイルの作成と設定** を参照してください。

vPro デバイスをプロビジョニングするには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。

- 2 **[アウトバンド管理]** の下で、**[vPro プロビジョニング]** をクリックします。**[vPro プロビジョニング]** ウィンドウが表示されます。
- 3 デバイス テーブルにデバイスが表示されない場合は、ツールバーの  探索アイコンをクリックします。**[vPro 探索]** ウィンドウが表示されます。
- 4 **Active Directory (AD)** のログイン認証情報および **AD Server** の完全修飾ドメイン名 (**FQDN**) を入力します。**HPCA** コンソールが **AD** と通信して特定ドメインのデバイスのリストを取得するため、これが必要となります。

例えば、**Active Directory** ホストの情報が次のとおりであるとします。

ドメイン名: **oobm.hp.com**

ドメイン ユーザー: **Administrator**

ドメイン パスワード: **password**

ドメイン ホスト名: **DomainSystem.oobm.hp.com**

次の情報を各フィールドに入力します。

ユーザー名: **Administrator** (唯一利用できる形式)


パスワード: **password**

FQDN: **DomainSystem.oobm.hp.com** (IP アドレスまたはホスト名は利用不可)



- 5 探索プロセスを開始するには、**[探索]** をクリックします。探索プロセスを停止するには、**[キャンセル]** をクリックします。探索が完了するか探索をキャンセルすると、**[vPro プロビジョニング]** ウィンドウに戻ります。

プロビジョニング済み、プロビジョニング解除済み、プロビジョニング中というプロビジョニングのステータス (**[vPro ステータス]**) とともにデバイスのリストが表示されます。**vPro** デバイスの **UUID**、および **vPro** デバイスの **OOBM** エージェントのステータスも表示されます。



▶ プロビジョニングを解除したデバイス、プロビジョニング中のデバイス、一部の完全プロビジョニング済みデバイスには、**UUID** が表示されません。これは正常な動作とみなされます。

- 6 プロビジョニングするデバイスを選択します。
- 7 ツールバーの  プロビジョニング アイコンをクリックします。リモート設定ウィザードが表示されます。
- 8 **[イントロダクション]** ウィンドウで **[次へ]** をクリックして作業を続けます。**[プロファイル]** ウィンドウが表示されます。
- 9 **vPro** デバイスのプロビジョニングに必要なプロファイルを **[プロファイル]** ウィンドウで選択します。
- 10 **[次へ]** をクリックします。**[要約]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 11 確定するには **[次へ]** をクリックします。**[完了]** ウィンドウが開いて、操作の結果が表示されます。
- 12 ウィザードを終了して **vPro** ウィンドウに戻るには、**[閉じる]** をクリックします。選択した **vPro** デバイスのステータスが、デバイス リストで更新されます。



vPro デバイスを再プロビジョニングするには

- 1 **[アウトバンド管理]** の下で、**[vPro プロビジョニング]** をクリックします。**[vPro プロビジョニング]** ウィンドウが表示されます。
- 2 ツールバーの  プロビジョニング タスク アイコンをクリックし、プルダウン リストから **[再プロビジョニング]** を選択します。
- 3 アクションが正常に行われたかどうかを追跡するには、 プロビジョニング タスク アイコンをクリックし、プルダウン リストから **[プロビジョニング ステータス ログ]** を選択します。アクションのステータスがログに表示されます。

vPro デバイスを部分的にプロビジョニング解除するには

- 1 **[アウトバンド管理]** の下で、**[vPro プロビジョニング]** をクリックします。[vPro プロビジョニング] ウィンドウが表示されます。
- 2 ツールバーの  プロビジョニング タスク アイコンをクリックし、プルダウン リストから **[部分的にプロビジョニングを解除]** を選択します。
- 3 アクションが正常に行われたかどうかを追跡するには、 プロビジョニング タスク アイコンをクリックし、プルダウン リストから **[プロビジョニング ステータス ログ]** を選択します。アクションのステータスがログに表示されます。

vPro デバイスを完全にプロビジョニング解除するには

- 1 **[アウトバンド管理]** の下で、**[vPro プロビジョニング]** をクリックします。[vPro プロビジョニング] ウィンドウが表示されます。
- 2 ツールバーの  プロビジョニング タスク アイコンをクリックし、プルダウン リストから **[完全にプロビジョニング解除]** を選択します。
- 3 アクションが正常に行われたかどうかを追跡するには、 プロビジョニング タスク アイコンをクリックし、プルダウン リストから **[プロビジョニング ステータス ログ]** を選択します。アクションのステータスがログに表示されます。

5 デバイス管理

この章では、HPCA コンソールを介して OOB デバイスを管理する方法を説明します。OOB デバイスは、電源の状態、オペレーティング システムの状態、管理エージェントの有無に関係なく管理できます。

HPCA コンソールの **[操作]** タブに用意されているアウトバンド管理オプションの 1 つに、**[デバイス管理]** があります。デバイス管理オプションでは次の作業を実行できます。

- 複数のデバイスの管理
- 個々のデバイスの管理

複数のデバイスの管理

一度に複数の OOB デバイスに対して管理タスクを実行するには、[デバイス管理] ウィンドウに表示されるデバイス リストから対象となる OOB デバイスを選択します。

複数のデバイスを管理する際には、表示するデバイスとそれらのデバイスのデバイス リストでのソート順を次のようにして指定できます。

- 検索条件に基づいて個々のデバイスを検索します。
- 一度に表示するデバイスの数を選択して、見やすいように一部のデバイスのみが表示されるようにします。
- カラムの見出しに基づいてデバイスをソートします。

デバイス リストのツールバーにある各種アイコンを使用すると、複数の OOB デバイスを一度に管理できます。次の表に示したアイコンの一部は、vPro デバイスのみで使用できるものです。表の機能説明を参照して、各デバイス タイプに対して適用可能な操作を把握してください。

表 12 デバイス リスト ツールバー














アイコン	機能
	OOBM に格納されている情報で、リストに表示されている OOBM デバイス情報をリフレッシュします。
	選択したデバイス、またはリストに表示されているすべてのデバイスの情報を、各デバイスに現在格納されている情報と同期させます。
	ネットワーク上の OOB デバイスを探索します。
	選択した OOB デバイスの電源のオン/オフと再起動を管理します。
	選択した vPro デバイスに対する警告メッセージ予約を管理します。
	vPro デバイスに共通のユーティリティを管理します。


表 12 デバイス リスト ツールバー (続く)

アイコン	機能
	選択した vPro デバイスにシステム防御ポリシーを配布します。
	選択した vPro デバイスにヒューリスティック ワーム封じ込め情報を配布します。
	選択した vPro デバイスにウォッチドッグを配布します。
	選択した vPro デバイスにエージェント ソフトウェア リストとシステム メッセージを配布します。
	選択したデバイスを OOBM データベースから削除します。

▶ HPCA コンソールに初めてログインする場合、 リフレッシュ アイコンを数回クリックしないと、管理対象デバイスのリストがウィンドウに表示されないことがあります。


▶ デバイス リスト ツールバーの表に示したとおり、 探索アイコンをクリックすると、ネットワーク上の OOB デバイスを手動で探索できます。vPro デバイスの場合は、完全探索と増分探索があります。詳細は、[デバイス探索](#)を参照してください。OOBM では、手動探索だけでなく、一定の時間間隔でデバイスを自動的に探索することもできます。この時間間隔は、(<HPCA_Install_DIR>%oobm%conf% ディレクトリにある) config.properties ファイルで device_synchronization_timeperiod パラメータの値を設定することによって設定できます。この同期時間間隔のデフォルト値はゼロ (自動同期を行わない) です。自動同期を行う場合は、この値をゼロ以外に設定してください。単位は分です。OOBM による自動探索は増分探索です。OOBM は、新しいデバイスを検出すると、そのデバイスにアクセスして情報を取得します。

デバイス探索

ツールバーの  デバイス探索アイコンをクリックすると、ネットワーク上の OOB デバイスを探索できます。

DASH 対応デバイスの場合は、HPCA コンソールで、IP アドレスとホスト名、または Active Directory 情報を指定する必要があります。vPro デバイスの場合は、完全探索と増分探索のどちらを行うかを指定する必要があります。これにより、vPro デバイスが、SCS リポジトリに登録されているデバイス リストから読み込まれます。

デバイスを探索するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3  デバイス探索アイコンをクリックします。デバイス探索ウィザードが表示されます。
- 4 **[次へ]** をクリックして続行すると、**[探索オプション]** ウィンドウが表示されます。

- 5 このページに表示される探索オプションは、HPCA コンソールの **[設定]** タブで選択したデバイス タイプによって決まります。両方のタイプのデバイスを選択した場合は、次に示すオプションがすべて表示されます。どちらか一方のタイプを選択した場合は、選択したタイプのオプションのみが表示されます。

DASH デバイスの場合:

[DASH デバイスの探索] ラジオ ボタンをクリックすると、次の 2 つのオプションが表示され、IP アドレスおよび(または) ホスト名、または **Active Directory (AD)** 情報を入力できます。

- **手動入力による DASH デバイスの探索:** ホスト情報を指定する場合は、探索の対象とする複数のデバイスの IP アドレスとホスト名をカンマで区切ったリストとして指定します。
- **Active Directory による DASH デバイスの探索:** Active Directory から自動的にデバイス情報をインポートするには、**[LDAP ホスト]**(Active Directory サーバーのホスト名または IP アドレス)、**[LDAP ポート]**(デフォルトのポートは 386)、**[ユーザー ID]**、**[パスワード]**(管理権限を持つユーザーの Active Directory の認証情報)、および **[クエリする DN]**(Active Directory 内でクエリの対象となるドメイン名のリスト)を入力する必要があります。

例えば、Active Directory ホストの情報が次のとおりであるとします。

ドメイン名: oobm.hp.com

ドメイン ユーザー: Administrator

ドメイン パスワード: password

ポート: 386 (デフォルト)

ドメイン ホスト名: DomainSystem.oobm.hp.com

コンピュータのリストが、Active Directory の “computers” ノードに登録されている場合、次の情報を各フィールドに入力します。

LDAP ホスト: DomainSystem.oobm.hp.com

LDAP ポート: 386

ユーザー ID: Administrator@oobm.hp.com

パスワード: password


クエリする DN: cn=computers, dc=oobm, dc=hp, dc=com

- ▶ **Active Directory (AD) による探索は、管理する必要のある DASH デバイスが大量に存在する場合のみ選択するようにしてください。** Active Directory (AD) による探索は時間がかかるため、数百のデバイスを探索するにはかなりの時間を要します。AD 探索では、HPCA コンソールは、DASH デバイスかどうかを判別するために、各デバイスに対して呼び出しを実行します。呼び出したデバイスから応答がないと、Management Console は、指定されたタイムアウト値だけ待つため、デバイス探索の所要時間が長くなります。探索効率を上げるため、探索するデバイスの数が少ない場合は、手動探索を使用してください。

vPro デバイスの場合:

[vPro デバイスの探索] ラジオ ボタンをクリックすると、次の 2 つのオプションが表示され、完全探索または増分探索を選択できます。

- **すべての vPro デバイスの探索:** このオプションを指定すると OOBM はネットワーク上のすべての vPro デバイスを探索します。

- **更新された vPro デバイスの探索:** このオプションを指定すると、OOBM は、新規の vPro デバイス、または前回の探索プロセス以降に変更された vPro デバイスのみを探索します。このオプションを選択すると、探索のパフォーマンスが大幅に向上しますが、前回の探索プロセス以降にネットワークから削除された vPro デバイスが通知されません。
- 6 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。入力した探索情報の要約が表示されます。
- 7 **[次へ]** をクリックして続行します。[完了] ウィンドウが開き、実行したオペレーションのステータスが表示されます。ステータスには、一部の DASH デバイスの探索に失敗した場合に、その旨が表示されます。IP アドレス/ホスト名を手動で入力してデバイスを探した場合は、探索に失敗した理由を示すメッセージが表示されます。
- 8 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。新しく検出されたデバイスが、**[デバイス]** タブのデバイスのリストに表示されます。新しく検出されたデバイスがすぐに表示されない場合は、ツールバーの  アイコンをクリックしてください。

デバイス探索機能を使用すると、ネットワーク上の OOB デバイスを容易に検出できます。検出されたデバイスは、HPCA コンソールを介して管理できます。

複数のデバイスの選択

デバイス管理操作は、一度に複数のデバイスに対して実行できます。

複数のデバイスを選択するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3 OOB デバイスのチェック ボックスをオンにするか、または左上の **[すべて選択]** チェック ボックスをオンにして、アクセス対象の OOB デバイスを選択します。選択しやすいように、特定の条件を満たすデバイスだけに検索を絞り込んだり、デバイスを並べ替えたりすることができます。

DASH デバイス管理の認証情報

DASH デバイスを管理するには、そのデバイスの設定時に指定したユーザー名とパスワードを入力する必要があります。この認証情報は、あらゆる管理操作において、DASH デバイスと HPCA コンソール間の通信を安全にするために使用されます。

各 DASH デバイスは、共通の認証情報を使用する (すべてのデバイスで同じ認証情報を使用する) ように設定することもできますし、デバイスごとに異なる認証情報を使用するように設定することもできます。認証情報は、デバイスを設定した管理者に問い合わせ確認してください。



共通認証情報、またはデバイスごとの個別認証情報のどちらか一方を選択できます。一部のデバイスに共通認証情報を使用し、残りのデバイスに個別認証情報を使用することはできません。共通認証情報を選択すると、個別認証情報は削除されます。共通認証情報オプションで **[無効]** を選択すると、既存の共通認証情報が削除されます。

共通認証情報を使用するように DASH デバイスを設定した場合は、**[デバイス タイプの選択]** ウィンドウに共通認証情報を入力できます (52 ページの **デバイス タイプの選択** を参照)。

共通認証情報を使用するように DASH デバイスを設定しなかった場合は、最初にそのデバイスにアクセスして管理操作を実行するときに、個別認証情報を入力する必要があります。認証情報は初回のアクセス時に“記憶”されるため、2 回目以降のアクセスでは、その DASH デバイスの認証情報を変更する場合を除き、認証情報を再入力する必要はありません。

DASH デバイスの個別認証情報を指定するには


- 1 HPCA コンソールにログインして、[設定] タブを選択します。
- 2 [アウトバンド管理] の下で、[デバイス タイプの選択] をクリックします。[デバイス タイプの選択] ウィンドウが表示されます。
- 3 [DASH デバイスの管理] をオンにします。
- 4 [すべての DASH デバイスに対して共通の認証情報を使用] で [いいえ] を選択します。
- 5 [保存] をクリックします。
- 6 [操作] タブを選択します。
- 7 [アウトバンド管理] の下で、[デバイス管理] をクリックします。[デバイス管理] ウィンドウが表示されます。
- 8 DASH デバイスのホスト名リンクをクリックします。[認証情報の管理] ウィンドウが表示されます。
- 9 [認証情報の管理] ウィンドウは、DASH デバイスに初めてアクセスしたとき、または DASH デバイスの認証情報を変更したときに表示されます。それ以外の場合で、このウィンドウがログイン時に表示されることはありません。
- 10 DASH デバイスの [デバイス ユーザー名] と [デバイス パスワード] を入力します。
- 11 [送信] をクリックします。DASH デバイスの [デバイスの詳細] ウィンドウが表示されます。

▶ 後日、共通の認証情報を使用するように DASH デバイスを再設定する場合は、[デバイス タイプの選択] ウィンドウに戻って、[はい] を選択してください。これにより、HPCA コンソールから個別認証情報が消去されます。

デバイス情報のリフレッシュ

HPCA コンソールに表示されるデバイス情報は、ネットワーク上のデバイスに格納されているデバイス情報と同期させることができます。

デバイス情報をリフレッシュするには

- 1 76 ページの複数のデバイスを選択するには示した手順に従って、管理する OOB デバイスを選択します。
- 2  デバイス情報のリロードアイコンをクリックします。HPCA コンソールに表示されている選択したデバイスのデバイス情報が、OOB デバイスに格納されている情報と同期されます。


▶ HPCA OOBM コンソールにシステム防御ポリシーが設定されていない場合は、そのコンソールの [要約] テーブルで、システム防御およびエージェント存在機能に関する 4 つのカラムに **N/A** と表示されます。

▶ 実際にシステム防御ポリシーを使用しない場合は、システム防御ポリシーを作成しないことを推奨します。vPro デバイスからシステム防御ポリシーを取得すると、リロード操作のパフォーマンスが大きく妨げられます。

電源管理

- ▶ 同時に複数のユーザーが同じターゲット OOB デバイスにリモートで電源操作を実行する場合、システム状態の結果は予測できません。たとえば、同じデバイスに対してあるユーザーが再起動タスクを実行中に、別のユーザーが電源を切るタスクを実行する場合、結果は確定できません。


複数のデバイスの電源管理をするには

- 1 76 ページの複数のデバイスを選択するには示した手順に従って、管理する OOB デバイスを選択します。
- 2  電源アイコン プルダウン メニューから、電源状態を選択します。ハードディスクの電源を入れたり、ハードディスクまたはネットワークを再起動したりすることができます。各デバイス上で電源操作を実行する場合は、ほかにもオプションがあります。確認メッセージが表示されます。
- 3 続行する場合は、**[OK]** をクリックします。プロセスを監視する進捗状況バーが表示されます。選択したデバイスの新規電源状態がデバイス リスト テーブルに表示されます。ウィンドウの右下に電源ステータスのリンクが作成されます。このリンクをクリックすると、電源管理プロセスの結果の要約を表示できます。

この機能を使用して、特定の時間に複数のデバイスの電源を効果的に入れたり、切ったりしてコストを削減できます。


警告メッセージ予約の管理

複数のデバイス上で警告メッセージ予約を管理するには

- 1 76 ページの複数のデバイスを選択するには示した手順に従って、管理する vPro デバイスを選択します。
- 2  警告メッセージ予約 アイコン プルダウン メニューから、警告メッセージを予約するかキャンセルするかを選択します。確認メッセージが表示されます。
- 3 続行する場合は、**[OK]** をクリックします。プロセスを監視する進捗状況バーが表示されます。進捗状況バーが非表示になると、選択したオプションに応じてメッセージ予約が作成またはキャンセルされます。メッセージ予約を作成すると、デバイスの [警告メッセージ予約] カラムにチェック マークが表示されます。メッセージ予約をキャンセルすると、[警告メッセージ予約] カラムに **X** マークが表示されます。

この機能を使用して、複数のデバイスのメッセージ予約を登録またはキャンセルし、関連するイベント警告を HPCA コンソールに送信できます。

共通ユーティリティの管理

ツールバーの  共通ユーティリティ アイコンを使用すると、次のセクションで説明するように vPro デバイス上でさまざまな維持管理タスクを実行できます。

実行できるタスクは、次のとおりです。

- フラッシュ制限リセット

すべての配布アクティビティは、プロビジョニング済みの vPro デバイス上のサードパーティ データ ストア (3PDS) に書き込むアクティビティです。この非揮発性メモリにはこの領域の誤用を防ぐフラッシュ制限保護メカニズムがあります。この制限を超えるアクションを実行すると、HPCA コンソールに次のメッセージが表示されます。


Error getting application blocks: Flash write limit exceeded - Click 'Reset Flash Limit' option to reset the flash limit

このフラッシュ制限リセット機能を使用すると、フラッシュメモリのカウンタをリセットし、この非揮発性メモリストアへの書き込みアクティビティを継続できます。



vPro デバイス上で 3PDS のフラッシュ制限を超えることによる配布アクティビティの失敗を防ぐために、この制限を頻繁にリセットすることを推奨します。


複数の vPro デバイス上でフラッシュ制限をリセットするには

- 1 76 ページの**複数のデバイスを選択するには**に示した手順に従って、管理する vPro デバイスを選択します。
- 2  共通ユーティリティ プルダウン メニューから、**[フラッシュ制限リセット]** オプションを選択します。確認メッセージが表示されます。
- 3 **[OK]** をクリックして続行します。選択した vPro デバイスのサードパーティ データ ストア (3PDS) のカウンタがゼロにリセットされます。

このオプションを使用して、3PDS カウンタをリセットできます。これはフラッシュの消耗を保護するメカニズムとして機能します。同じ vPro デバイス上で非揮発性メモリへの複数の読み取り/書き込みアクセスを実行した場合に、フラッシュ制限例外が発生することがあります。カウンタをリセットすると、この非揮発性メモリを使用するアクションの実行を継続できます。

システム防御ポリシーの配布

複数のデバイスにシステム防御ポリシーを配布するには

- 1 76 ページの**複数のデバイスを選択するには**に示した手順に従って、管理する vPro デバイスを選択します。
- 2  システム防御ポリシー配布アイコンをクリックします。ポリシー配布ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックして続行します。[ポリシーの選択] ウィンドウが表示されます。
- 4 配布するポリシーを選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[ポリシーの設定] ウィンドウが表示されます。このウィンドウを使用して、選択したデバイス グループの有線および無線 NIC に割り当てるデフォルトのシステム防御ポリシーおよびエージェント存在ポリシーを選択できます。同じポリシーは、[システム防御] および [エージェント存在] の各フィールドの横にあるプルダウン メニューからも選択できます。デバイスに存在しない NIC (有線または無線) にポリシーを指定すると、[結果] ウィンドウに例外が表示されますが、これは配布プロセスには影響しません。




デバイス上の NIC 数にかかわらず、vPro デバイスに設定できるエージェント存在ポリシーは 1 つのみです。vPro デバイスに複数の NIC があり、各 NIC に異なるエージェント存在ポリシーを指定すると、直近の設定が適用されます。

- 6 **[次へ]** をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 7 **[次へ]** をクリックして続行します。[結果] ウィンドウに操作結果が表示されます。
- 8 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

この機能を使用すると、複数の vPro デバイスに複数のシステム防御ポリシーを配布しやすくなるとともに、これらのシステムをマルウェア攻撃から保護することができます。

ヒューリスティックの配布


複数のデバイスにヒューリスティックを配布するには

- 1 76 ページの複数のデバイスを選択するには示した手順に従って、管理する vPro デバイスを選択します。
- 2  ヒューリスティック配布アイコンをクリックします。ヒューリスティック配布ウィザードが開始されます。
- 3 **[次へ]** をクリックして続行します。[ヒューリスティックの選択] ウィンドウが表示されます。
- 4 配布するヒューリスティックを選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[ヒューリスティックの設定] ウィンドウが表示されます。
- 6 vPro デバイス上の有線および無線ネットワーク インターフェイスに適用するヒューリスティックを選択します。両方のインターフェイスに同じヒューリスティック情報を設定できます。デバイスに存在しない NIC (有線または無線) にヒューリスティック情報を指定すると、[結果] ウィンドウに例外が表示されますが、配布プロセスには影響しません。
- 7 **[次へ]** をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 8 **[次へ]** をクリックして続行します。[結果] ウィンドウに操作結果が表示されます。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

この機能を使用すると、複数の vPro デバイスに複数のヒューリスティックを簡単に配布し、感染したデバイスのワーム封じ込めができます。

ウォッチドッグの配布


複数のデバイスにウォッチドッグを配布するには

- 1 76 ページの複数のデバイスを選択するには示した手順に従って、管理する vPro デバイスを選択します。
- 2  ウォッチドッグ配布アイコンをクリックします。ウォッチドッグ配布ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックして続行します。[ウォッチドッグの選択] ウィンドウが表示されます。
- 4 配布するウォッチドッグを選択します。OOBM エージェント ウォッチドッグは 1 つしか配布できません。サードパーティ製のエージェント ウォッチドッグは、vPro デバイス上で動作しているサードパーティ製エージェントごとに 1 つ配布でき、したがって複数配布できます。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 6 **[次へ]** をクリックして続行します。[結果] ウィンドウに操作結果が表示されます。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

この機能を使用すると、複数の vPro デバイスに複数のウォッチドッグを簡単に配布し、これらのシステム上の OOBM エージェントを監視できます。OOBM エージェントは、プロビジョニング済みのデバイス上で実行中のセキュリティ ソフトウェアを監視するため、OOBM エージェントを監視することがネットワークのセキュリティを強化することにつながります。ユーザーの誤った操作によりまたはその他の原因によりセキュリティ ソフトウェアの実行が停止した場合、ウォッチドッグによってこのイベントをシステム管理者に警告できます。

エージェント ソフトウェア リストとシステム メッセージの配布

エージェント ソフトウェア リストとシステム メッセージを複数のデバイスに配布するには


- 1 76 ページの複数のデバイスを選択するには示した手順に従って、管理する vPro デバイスを選択します。
- 2 ツールバーの  ソフトウェア リストとシステム メッセージの配布アイコンをクリックします。配布ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[ソフトウェア リスト] ウィンドウが表示されます。
- 4 OOBM エージェントに監視させるソフトウェア アプリケーションを選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 6 **[次へ]** をクリックして続行します。[結果] ウィンドウに操作結果が表示されます。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。システム メッセージとアプリケーション ソフトウェア リストは、ターゲットの vPro デバイスのサードパーティ データ ストア (3PDS) に書き込まれます。**[デバイス]** タブでデバイスを選択してから、**[診断]** セクションの下で、**[デバイス アセット] > [ソフトウェア情報] > [登録済みアプリケーション] > [HPCA] > [HPCABlock]** に移動すると、特定の vPro デバイスのこの情報を表示できます。

- ▶ ソフトウェア アプリケーション リストは、vPro デバイス上の 3PDS に書き込まれ、OOBM エージェントは 3PDS からリストを読み取るため、変更したリストを再配布する場合は、このデバイス上の OOBM エージェントを停止して再起動する必要があります。

この機能を使用すると、OOBM エージェントのシステム メッセージとソフトウェア リストを複数の vPro デバイス上の 3PDS に簡単に配布できます。

デバイスの削除

デバイスを OOBM データベースから削除するには

- 1 削除するデバイスを選択します。複数のデバイスを選択する方法の詳細については、76 ページの複数のデバイスの選択を参照してください。
- 2  デバイスを削除アイコンをクリックします。次の確認メッセージが表示されます。
選択したデバイスを削除してもよろしいですか？
- 3 **[OK]** をクリックして続行します。

個々のデバイスの管理

[デバイス管理] ウィンドウに表示されるデバイス リスト テーブルには、デバイスの電源状態、そのホスト名、その他の属性が表示されます。

個々のデバイスを管理するには、テーブルの [デバイス] カラムの下のホスト名リンクをクリックします。

選択したデバイスの管理ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、次を実行できます。

- 86 ページの **OOB デバイスの電源状態を表示するには**。
- 87 ページの **vPro イベント ログを表示するには**。
- 88 ページの **一般資産情報を表示するには**。
- 88 ページの **vPro 一般資産情報の表示**。
- 89 ページの **ハードウェア資産を表示するには**。
- サードパーティ データ ストア (vPro) に登録されているか、またはネットワーク コントローラの **NVRAM (DASH)** にあるアプリケーションのリストの表示 (89 ページの **ソフトウェア アプリケーションを表示するには** を参照)。
- 電源のオン、オフ、再起動などのリモート操作の実行 (90 ページの **電源状態の変更** を参照)。
- テキストまたはグラフィカル モードでの **KVM** リダイレクトの実行 (101 ページの **vPro デバイスでの KVM リダイレクション** を参照)。
- vPro デバイス上でのシステム防御フィルタの表示および削除 (102 ページの **vPro デバイスのシステム防御フィルタの管理** を参照)。
- vPro デバイス上でのシステム防御ポリシーの表示、削除、有効化およびエージェント存在ポリシーの設定 (103 ページの **vPro デバイスに対するシステム防御ポリシーの管理** を参照)。
- vPro 上でのヒューリスティック情報の表示および削除 (105 ページの **vPro デバイスのヒューリスティックの管理** を参照)。
- vPro デバイス上でのエージェント ウォッチドッグの表示および削除 (106 ページの **vPro デバイスのウォッチドッグの管理** を参照)。
- 107 ページの **vPro デバイスのフロント パネル設定の設定**。
- 107 ページの **vPro デバイスのフラッシュ メモリ書き換え回数制限のリセット**。



12 ページの表 3 を参照し、デバイス タイプごとにサポートされている管理操作を確認してください。

電源状態の表示

ワークスペースの **[電源状態]** 領域では、OOB デバイスの電源状態が一目でわかります。

詳細設定および電源インターフェイス (ACPI) では複数の電源状態が定義されます。マザーボード、BIOS、およびオペレーティング システムのサポート状態によっては、これらの状態の一部は使用できない場合があります。

電源状態は **S0** (通常の作業状態) から **S5** (ソフト オフ状態) まで順次深くなっていくスリープ状態、および機械的オフ状態までの範囲があります。**S0** から機械的オフ状態は、次のように **G0** から **G3** 状態にマップされます。

- G0
 - S0: 覚醒。システムは完全に電源が入り、実行中です。電源は節約されません。
- G1
 - S1: スタンバイ。CPU が減速し、一部のコンポーネントの電源が切れます。システム状態は RAM で維持されます。システムはほぼ即座に覚醒状態になりますが、節約される電源量は小規模です。
 - S2: 同じくスタンバイ。CPU と一部のコンポーネントの電源が切れます。システム状態は RAM で維持されます。消費される電源量は少なくなりますが、システムが覚醒するまでの時間がより長くなります。
 - S3: RAM を中断。CPU とほとんどのコンポーネントの電源が切れます。システム状態のみが RAM で維持されます。電源の節約量は増えますが、覚醒するまでの時間も長くなります。
 - S4: 休止状態。システム状態 (RAM の内容を含む) が非揮発性ストレージに保存され、すべての電源が切れます。この状態の電源節約は最も大きいですが、覚醒するまでの時間は RAM のサイズに応じて非常に長くなります。
- G2
 - S5: ソフト オフ。オペレーティング システムがシャットダウンされ、システム電源が切れます。ユーザーが PC にシャットダウンを指示すると、PC はこの状態になります。これが適正シャットダウンです。
- G3
 - 機械的オフ状態。オペレーティング システムがシャットダウンされ、システムが電源から切断されます (通常、PSU の背面のスイッチによる)。再接続されると、システムは追加介入なしで G2 に入ります。

順次深くなっていく各スリープ状態は、その深さの程度に応じて、G0/S0 までの覚醒に要する待ち時間は長くなり、S4 のコンテキスト保存特性を除きシステム コンテキストの損失レベルも高くなります。S4 は、バッテリー レベルが非常に低くなる場合と同様、スリープ状態になる前にコンテキストを非揮発性ストレージに保存できる特別な状態です。S5 は「電源オフ」状態で、機械的オフ (G3) はバッテリーと外部電源が切断されていることを示します。

HPCA コンソールの vPro および DASH のデバイス上で実行できる電源操作は、次の表の ACPI 電源状態にマップされます。

- ▶ すべての電源操作が両タイプの OOB デバイスでサポートされているわけではありません。さまざまな電源操作の手順を確認する際は、このテーブルを参照して関連するデバイス タイプを把握してください。
- ▶ DASH デバイスの「サポート対象外」とは、DASH 標準が電源操作をサポートしていない、またはハードウェア ベンダーの一部がサポートしていないという意味です。

表 13 電源状態への電源操作のマッピング

vPro 電源操作	DASH 電源操作	説明	ACPI 状態
ハードドライブ電源オン	電源オン ブート ソース: ハードディスク	覚醒状態	G0/S0
ローカル CD/DVD 電源オン	電源オン ブート ソース: CD/DVD	覚醒状態	G0/S0
IDE-R CD/DVD 電源オン	サポート対象外	覚醒状態	G0/S0
IDE-R フロッピー電源オン	サポート対象外	覚醒状態	G0/S0
BIOS セットアップ電源オン	サポート対象外	覚醒状態	G0/S0
BIOS 停止電源オン	サポート対象外	覚醒状態	G0/S0
プライマリブートデバイス電源オン	サポート対象外	覚醒状態	G0/S0
デバイス電源オフ	電源オフ (ソフト) ブート ソース: なし	ソフト オフ状態	G2/S5
ハードドライブ再起動	電源サイクル (ソフト) ブート ソース: ハードディスク	ソフト オフ状態に続き覚醒状態	S0 から S5、そして G0/S0 に戻る (S0 コンテキストが失われる場合は、システムのマスターバスのリセットまたは POST および BIOS からの完全起動が必要)
ローカル CD/DVD 再起動	電源サイクル (ソフト) ブート ソース: CD/DVD	ソフト オフ状態に続き覚醒状態	S0 から S5、そして G0/S0 に戻る (S0 コンテキストが失われた場合は、システムのマスターバスのリセットまたは POST および BIOS からの完全起動が必要)
プライマリブートデバイス再起動	サポート対象外	ソフト オフ状態に続き覚醒状態	S0 から S5、そして G0/S0 に戻る (S0 コンテキストが失われる場合は、システムのマスターバスのリセットまたは POST および BIOS からの完全起動が必要)

表 13 電源状態への電源操作のマッピング (続く)



vPro 電源操作	DASH 電源操作	説明	ACPI 状態
IDE-R CD/ DVD 再起動	サポート対象外	ソフト オフ状態に続き覚醒 状態	S0 から S5、そして G0/S0 に戻る (S0 コンテキスト が失われる場合は、シス テムのマスター バスのリ セットまたは POST およ び BIOS からの完全起動 が必要)
IDE-R フロッ ピー再起動	サポート対象外	ソフト オフ状態に続き覚醒 状態	S0 から S5、そして G0/S0 に戻る (S0 コンテキスト が失われる場合は、シス テムのマスター バスのリ セットまたは POST およ び BIOS からの完全起動 が必要)
BIOS セット アップ再起動	サポート対象外	ソフト オフ状態に続き覚醒 状態	S0 から S5、そして G0/S0 に戻る (S0 コンテキスト が失われる場合は、シス テムのマスター バスのリ セットまたは POST およ び BIOS からの完全起動 が必要)
BIOS 停止再 起動	サポート対象外	ソフト オフ状態に続き覚醒 状態	S0 から S5、そして G0/S0 に戻る (S0 コンテキスト が失われる場合は、シス テムのマスター バスのリ セットまたは POST およ び BIOS からの完全起動 が必要)
LAN (PXE) 再 起動	電源サイクル (ソフト) ブート ソース: ネット ワーク	ソフト オフ状態に続き覚醒 状態	S0 から S5、そして G0/S0 に戻る (S0 コンテキスト が失われた場合は、シス テムのマスター バスのリ セットまたは POST およ び BIOS からの完全起動 が必要)
サポート対象外	サポート対象外	スタンバイ状態	S1 または S2
サポート対象外	中断 ブート ソース: なし	中断状態	S3
サポート対象外	休止 (ソフト) ブート ソース: なし	休止状態	S4
サポート対象外	電源オフ (ソフト 正常) ブート ソース: なし	ソフト オフ状態 (適正な シャットダウンの実行要求 が先行)	G2/S5
サポート対象外	電源オフ (ハード 正常) ブート ソース: なし	機械的オフ状態 (適正な シャットダウンの実行要求 が先行)	G3

表 13 電源状態への電源操作のマッピング (続く)

vPro 電源操作	DASH 電源操作	説明	ACPI 状態
サポート対象外	電源オフ (ハード) ブート ソース: なし	機械的オフ状態	G3
サポート対象外	電源サイクル (ソフト正常) ブート ソース: <boot_source>	ソフト オフ状態 (適正なシャットダウン実行要求が先行) に続き覚醒状態	S0 から S5、そして G0/S0 に戻る (S0 コンテキストが失われる場合は、システムのマスターバスのリセットまたは POST および BIOS からの完全起動が必要)
サポート対象外	電源サイクル (ハード正常) ブート ソース: <boot_source>	機械的オフ状態 (適正なシャットダウン実行要求が先行) に続き覚醒状態	G0 から G3、そして G0/S0 に戻る
サポート対象外	電源サイクル (ハード) ブート ソース: <boot_source>	機械的オフ状態に続き覚醒状態	G0 から G3、そして G0/S0 に戻る
サポート対象外	マスターバスリセット (正常) ブート ソース: <boot_source>	オフ状態 (ハードウェアリセット) (適正なシャットダウン実行要求が先行) に続き覚醒状態	G2/S5 から G0/S0 に戻る
サポート対象外	マスターバスリセット ブート ソース: <boot_source>	オフ状態 (ハードウェアリセット) に続き覚醒状態	G2/S5 から G0/S0 に戻る
サポート対象外	診断中断 ブート ソース: <boot_source>	オフ状態 (ハードウェアリセット) に続き覚醒状態	G2/S5 から G0/S0 に戻る

OOB デバイスの電源状態を表示するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーションペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する OOB デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の **[電源状態]** セクションの情報を確認します。

 表示される電源状態は前回の最新状態です。したがって現在の電源状態と同じでない場合があります。現在の電源状態が表示されていることを確認するには、電源状態メッセージの横にある  リフレッシュアイコンを使用する必要があります。

vPro イベント ログの表示

ワークスペースの **[診断]** 領域を使用すると、リモート vPro デバイスのイベント ログを表示およびクリアできます。管理対象 vPro デバイスのさまざまなオカレンスによりイベントが作成され、vPro デバイスのイベント ログに記録されます。

vPro イベント ログを表示するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する vPro デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の **[診断]** セクションの **[イベント ログ]** リンクをクリックします。イベント ログの内容がコンソールの内容領域に表示されます。ウィンドウの上部にログ属性の要約が表示されます。ログ内のイベント ログ数、最後のイベントが記録された時刻、ログの状態 (凍結または非凍結) が表示されます。ログが凍結されていると、イベントのログへの書き込みができません。要約の下に、イベント タイプ (イベントが作成された理由)、イベントの重大度、イベントがログに記録された日時、イベントの説明が表示されます。**[詳細]** カラムの 🔍 詳細アイコンをクリックすると、選択したイベントのプロパティの詳細を表示するウィンドウが表示されます。
- 5 イベント ログの表示をリフレッシュするには、ツールバーの 🔄 リフレッシュ アイコンをクリックします。
- 6 イベント ログ ファイルをクリアするには、ツールバーの ✖ クリア アイコンをクリックします。
- 7 イベント ログのステータスを変更するイベント ログ ファイルを凍結または凍結解除するには、🔒 凍結アイコンをクリックします。

イベント ログ インターフェイスを使用すると、次のことが可能になります。


- 即時アクションが必要な注目すべきイベントが発生したかどうかを判断する。
- 新規イベントを確実にログに記録できるように定期的にログをクリアする。
- vPro デバイスの全般的なステータスまたは状態を判断する。

vPro イベント フィルタの表示

ワークスペースの **[診断]** 領域では、リモート vPro デバイス上にあるデフォルトのイベント フィルタを表示できます。イベント フィルタによって、デバイスでイベントが発生した場合のアクションが決まります。

vPro イベント フィルタを表示するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する vPro デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。

- 4 ウィンドウ左側の **[診断]** セクションの **[イベント フィルタ]** リンクをクリックします。選択した vPro デバイスにあるデフォルトのイベント フィルタがコンソールの内容領域に表示されます。
- 5 詳細を表示するイベント フィルタの名前リンクをクリックします。[イベント フィルタ詳細] ページが開き、選択したイベント フィルタのプロパティ詳細が表示されます。
- 6 イベント フィルタをリフレッシュするには、 リフレッシュ アイコンをクリックします。
イベント フィルタの情報を使用して、選択したデバイスに発生する特定のタイプのイベントに対してどのようなアクションがとられるかが把握できます。

vPro 一般資産情報の表示

ワークスペースの **[診断]** 領域では、電源状態または全般的な状態のいかんにかかわらず、リモート vPro デバイスに関する一般資産情報を表示できます。

一般資産情報を表示するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。
[デバイス管理] ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する vPro デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の **[診断]** にある **[デバイス アセット]** リンクをクリックします。
- 5 **[一般情報]** をクリックします。
- 6 vPro デバイスの一般資産情報を表示するには、**[vPro 情報]** をクリックします。IP アドレス、リスポート、プロビジョニング モード、BIOS バージョンなど、そのデバイスの一般資産情報がコンソールの内容領域に表示されます。
- 7 セキュリティ関連の資産情報を表示するには、**[セキュリティ設定]** をクリックします。TLS の有効化、暗号化、SOL、IDE-R など、そのデバイスのセキュリティ関連の情報がコンソールの内容領域に表示されます。

この情報を使用すると、次のことが可能になります。

- vPro デバイスの一般資産を検査する。
- セキュリティ関連の vPro デバイスの資産情報を表示し、再設定アクションが必要かどうかを判断する。

ハードウェア資産の表示


ワークスペースの **[診断]** 領域では、リモート OOB デバイス上のハードウェア資産を表示できます。オペレーティング システムの状態や、デバイスの電源がオンまたはオフであるかは問題ではありません。デバイスの状態または電源状態を問わずデバイスを検索できるため、手動によるイベントトリガの必要性が削減または除外されます。このようにハードウェア資産がリモートで正確に表示されることにより、フィールド交換可能ユニット (FRU) の適切な計画、効率的なアップグレード、迅速な配布、管理の改善が実現されます。



Centrino Pro ノートブック コンピュータは、電源モードがオフ、スタンバイ、または休止の場合、無線ネットワークで管理することはできません。

ハードウェア資産を表示するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。
[デバイス管理] ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する OOB デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の **[診断]** にある **[デバイス アセット]** リンクをクリックします。
- 5 **[ハードウェア情報]** をクリックします。
- 6 ハードウェア コンポーネントをクリックします。そのコンポーネントの仕様がコンソールの
コンテキスト領域に表示されます。

 vPro デバイスのハードウェア情報を表示できない場合があります。その場合は、しばらく待機してから操作を再試行してください。

この情報を使用すると、次のことが可能になります。

- 交換する必要があるデバイスのハードウェア コンポーネントの正確な仕様を判断する。
- 互換性問題を特定する。
- 新規オペレーティング システムをプロビジョニングする前にその設定を検査する。
- マシンの電源がオフの場合でも一時的なインベントリ情報取得する。

ソフトウェア資産の表示

ワークスペースの **[診断]** 領域では、OOB が有効化されたリモート デバイス上のソフトウェア資産を表示できます。

vPro デバイスの場合は、vPro デバイス上の OOBM エージェントによって監視されているソフトウェア アプリケーションのリストをこの機能によって表示できます。詳細については、64 ページの **ウォッチドッグの管理** を参照してください。このリストは、そのデバイス上のサードパーティ データ ストレージ (3PDS) に登録されます。

DASH デバイスの場合、この機能によりそのデバイスのネットワーク コントローラの NVRAM にあるソフトウェア在庫情報を表示できます。

ソフトウェア アプリケーションを表示するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。
[デバイス管理] ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する OOB デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の **[診断]** にある **[デバイス アセット]** リンクをクリックします。
- 5 **[ソフトウェア情報]** をクリックします。
- 6 vPro デバイスでは **[登録済みアプリケーション]** を、DASH デバイスでは **[インストール済みソフトウェア]** をクリックします。
- 7 アプリケーションをクリックします。アプリケーションのリンクにより、そのアプリケーションの情報を表示できます。

この情報を使用すると、次のことが可能になります。

- vPro デバイス上の OOBM エージェントによって監視されているソフトウェア アプリケーションを特定する。
- DASH デバイスにインストールされたソフトウェア アプリケーションを特定する。

電源状態の変更

HPCA コンソールから、リモート電源管理操作を実行できます。コンソールのワークスペースの **[診断]** 領域では、リモート OOB デバイス上の電源状態を変更できます。

- ▶ 12 ページの表 3 を参照し、デバイス タイプごとにサポートされている電源操作を確認してください。

コンソールリダイレクション機能により、ユーザーの介入なしに、または管理コンソールから離れることなく、HPCA コンソール上の電源管理プロセスを表示できます。

- ▶ vPro デバイス上で、SOL セッションによって Windows HyperTerminal が起動されます。HyperTerminal セッションを終了すると、設定セッションの設定の保存を促すメッセージが表示されます。セッション設定を保存することを推奨します。これには 2 つの理由があります。HyperTerminal セッションをカスタマイズした場合、そのカスタマイズが保存されます。また、設定を一旦保存すると、再度保存を促されることはなくなります。設定は、HPCA コンソールへアクセスする際に Web ブラウザの起動に使用したマシンの .ht ファイルとして保存されます。HyperTerminal を使用できない (Vista システムの場合) または失敗した場合は、代わりに Telnet が使用されます。

SOL では、vPro デバイス上でローカル ドライブの電源を入れる場合を除いて、管理コンソールへのキーボードとテキストリダイレクトが提供されます。

この機能のセキュリティは TLS を介して提供されます。

- ▶ vPro デバイス上では KVM リダイレクションも使用でき、グラフィカルとテキストの両モードでコンソールリダイレクション機能が提供されます。JRE 1.6.x と VNC Viewer をマシンにインストールし、HPCA コンソールへアクセスするブラウザを実行する必要があります。KVM 機能はリリース 6.0 以前の AMT の vPro マシン上では使用できません。詳細については、101 ページの vPro デバイスでの KVM リダイレクションを参照してください。

- ▶ BIOS/IDE-R を利用したリモート操作を実行するには、まず、HPCA Server 上および vPro デバイス上の Telnet サービスを有効にする必要があります。デフォルトでは、telnet.exe は、C:\Windows\System32 に格納されています。telnet.exe を別の場所にコピーしてください。TELNET_PATH システム環境変数を、telnet.exe の新しいパスに設定してください。TELNET_PATH システム環境変数の値を変更する場合、新規の値を有効にするには、システムからログアウトし、ログインし直す必要があります。

- ▶ クライアントが DASH デバイスにインストールおよび設定されている場合、DASH デバイス上で HPCA コンソールは、テキスト コンソールリダイレクションに SSH PuTTY クライアントを使用しようとします。PuTTY クライアントを使用するようにデバイスを設定するには、PUTTY_PATH システム環境変数を C:\Putty\putty.exe のように、PuTTY 実行可能ファイルのフルパスに設定する必要があります。PUTTY_PATH 環境変数の値を変更する場合は、ログアウトしてからシステムに再ログインして新規の値を有効にする必要があります。PuTTY クライアントを使用できない場合、コンソールでは代わりに Telnet が使用されます。

デバイスの電源を入れるには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する OOB デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。

- 4 ウィンドウ左側の **[診断]** セクションの **[リモート操作]** リンクをクリックします。[リモート操作ウィザード] ウィンドウが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックして続行します。[タスク] ウィンドウが表示されます。デバイスの電源はさまざまなドライブから、または BIOS (vPro のみ) に電源を入れることができます (次表参照)。
[タスク] ウィンドウでは、次を指定することができます。
 - vPro デバイスの場合は、そのデバイスにフロント パネル設定を使用するかどうかを指定できます。**[いいえ]** を選択すると、vPro デバイスのフロント パネル設定は無視されます。詳細については、107 ページの **vPro デバイスのフロント パネル設定の設定** を参照してください。
 - DASH デバイスの場合は、コンソールにテキストを表示するかどうかを指定できる **[クライアントコンソールの表示]** オプションがあります。



vPro デバイスまたは両タイプの OOB デバイスでリモート操作オプションがサポートされている場合、次の表では vPro リモート操作の用語が使用されています。DASH リモート操作へのマッピングを確認するには、12 ページの **表 3** を参照してください。

表 14 デバイスの電源オン

ドライブ / BIOS	手順
ローカル ハードドライブ	<ol style="list-style-type: none"> 1 [リモート操作] の横のプルダウン メニューから、[ハードドライブの電源オン] を選択します。 2 [次へ] をクリックします。DASH デバイスの場合は、[起動設定] ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、デバイス起動時に使用する起動元または起動設定を指定できます。起動元として、[ハードディスク] を選択します。詳細については、108 ページの DASH デバイスの起動設定の設定 を参照してください。 3 [次へ] をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。 4 [次へ] をクリックして続行します。管理コンソールに要約情報が表示されます。 5 [閉じる] をクリックします。
ローカル CD ドライブ	<ol style="list-style-type: none"> 1 [リモート操作] の横のプルダウン メニューから、[ローカル CD/DVD の電源オン] を選択します。 2 [次へ] をクリックします。DASH デバイスの場合は、[起動設定] ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、デバイス起動時に使用する起動元または起動設定を指定できます。起動元として、[CD/DVD] を選択します。詳細については、108 ページの DASH デバイスの起動設定の設定 を参照してください。 3 [次へ] をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。 4 [次へ] をクリックして続行します。管理コンソールに要約情報が表示されます。 5 [閉じる] をクリックします。

表 14 デバイスの電源オン (続く)

ドライブ/ BIOS	手順
IDE-R CD ドライブ (vPro のみ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 [リモート操作] の横のプルダウン メニューから、[IDE-R の電源オン] を選択します。 2 [IDE-R オプション] の横のプルダウン メニューから、[IDE-R CD/DVD] を選択します。[ドライブ パス] フィールドに CD/DVD ドライブのデフォルト設定が入力されます。ドライブ パス フィールドでデフォルトのドライブを使用しない場合は、別のドライブ、または管理コンソール サーバー上の ISO ファイルへのパスを指定できます。ドライブ パスに共有ネットワーク リソースである ISO ファイルを指定する場合は、UNC 構文、つまり、<code>\\hostname\sharefolder\file.iso</code> を使用する必要があります。 3 [次へ] をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。 4 [次へ] をクリックして続行します。リモート操作ウィザードが終了し、[HyperTerminal] ウィンドウが開いて電源オン プロセスが表示されます。このウィンドウは閉じない限り開いたままです。
IDE-R フロッピードライブ (vPro のみ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 [リモート操作] の横のプルダウン メニューから、[IDE-R の電源オン] を選択します。 2 [IDE-R オプション] の横のプルダウン メニューから、[IDE-R フロッピー] を選択します。[ドライブ パス] フィールドにフロッピードライブのデフォルト設定が入力されます。ドライブ パス フィールドでデフォルトのドライブを使用しない場合は、別のドライブ、または管理コンソール サーバー上の IMG ファイルへのパスを指定できます。ドライブ パスに共有ネットワーク リソースである IMG ファイルを指定する場合は、UNC 構文、つまり、<code>\\hostname\sharefolder\file.img</code> を使用する必要があります。 3 [次へ] をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。 4 [次へ] をクリックして続行します。リモート操作ウィザードが終了し、[HyperTerminal] ウィンドウが開いて電源オン プロセスが表示されます。このウィンドウは閉じない限り開いたままです。
BIOS セットアップ (vPro のみ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 [リモート操作] の横のプルダウン メニューから、[BIOS の電源オン] を選択します。[BIOS オプション] が表示されます。 2 [BIOS オプション] の横のプルダウン メニューから、[BIOS セットアップ] を選択します。 3 [次へ] をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。 4 [次へ] をクリックして続行します。リモート操作ウィザードが終了し、[HyperTerminal] ウィンドウが開いて電源オン プロセスが表示されます。このウィンドウは閉じない限り開いたままです。
BIOS 停止 (vPro のみ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 [リモート操作] の横のプルダウン メニューから、[BIOS の電源オン] を選択します。[BIOS オプション] が表示されます。 2 [BIOS オプション] の横のプルダウン メニューから、[BIOS 停止] を選択します。 3 [次へ] をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。 4 [次へ] をクリックして続行します。リモート操作ウィザードが終了し、[HyperTerminal] ウィンドウが開いて電源オン プロセスが表示されます。このウィンドウは閉じない限り開いたままです。

表 14 デバイスの電源オン（続く）

ドライブ/ BIOS	手順
プライマリ ブート デバイ ス (vPro のみ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 [リモート操作] の横のプルダウン メニューから、[プライマリ ブート デバイスの電源オン] を選択します。このオプションで、vPro デバイスの BIOS に設定されたデフォルトのブート デバイスの電源をオンにできます。[SOL オプション] が表示されます。このローカル起動オプションにより、選択した場合に HPCA コンソールに表示される操作を表示できます。 2 [SOL オプション] では、[コンソールに表示する] または [コンソールに表示しない] を選択できます。 3 [次へ] をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。 4 [次へ] をクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> — [コンソールに表示する] を選択した場合は、リモート操作ウィザードは終了し、[HyperTerminal] ウィンドウが開いて電源オンプロセスが表示されます。このウィンドウは閉じない限り開いたままです。 — [コンソールに表示しない] を選択した場合は、[要約情報] ウィンドウが表示されます。操作が完了すると操作結果が表示されます。[閉じる] をクリックし、[デバイスの詳細] ウィンドウに戻る必要があります。

デバイスの電源を切るには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する OOB デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の **[診断]** セクションの **[リモート操作]** リンクをクリックします。**[リモート操作ウィザード]** ウィンドウが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックして続行します。

[リモート操作] の横のプルダウン メニューから、**[デバイスの電源オフ]** を選択します。

- 6 **[次へ]** をクリックします。**[要約の確認]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 7 **[次へ]** をクリックして続行します。管理コンソールに要約情報が表示されます。
- 8 **[閉じる]** をクリックします。

この機能を使用すると、次のことができます。

- 管理操作に備えてデバイスの電源オン/オフを確認する。
- 管理操作に備えてデバイスにリモートで電源を入れる。
- 非応答デバイスをトラブルシューティングする。
- 非応答デバイスをリモートで再起動する。

システムの再起動

ワークスペースの [診断] 領域では、リモート OOB デバイスを再起動できます。組み込みのリダイレクション機能により、ユーザーの介入なしに、または管理コンソールから離れることなく再起動プロセスを表示できます。vPro デバイス上の SOL と KVM には、管理コンソールへのキーボードとビデオのリダイレクション機能が提供されます (OOB デバイス上でローカル デバイスの電源を入れる場合を除く)。

ローカル デバイスからシステムを再起動するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、[操作] タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの [アウトバンド管理] の下で、[デバイス管理] をクリックします。[デバイス管理] ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する OOB デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の [診断] セクションの [リモート操作] リンクをクリックします。[リモート操作ウィザード] ウィンドウが表示されます。
- 5 [次へ] をクリックして続行します。[タスク] ウィンドウが表示されます。OOB デバイスに対してローカルのドライブからデバイスを再起動できます (表 15 を参照)。

[タスク] ウィンドウでは、次を指定することができます。

- vPro デバイスの場合は、そのデバイスにフロント パネル設定を使用するかどうかを指定できます。[いいえ] を選択すると、vPro デバイスのフロント パネル設定は無視されます。詳細については、107 ページの **vPro デバイスのフロント パネル設定の設定** を参照してください。
- DASH デバイスの場合は、コンソールにテキストを表示するかどうかを指定できる **[クライアントコンソールの表示]** オプションがあります。

表 15 ローカル ドライブからのデバイスの再起動

ドライブ	手順
ローカル ハード ドライブ	<ol style="list-style-type: none">1 [リモート操作] の横のプルダウン メニューから、[ハード ドライブの再起動] を選択します。2 [次へ] をクリックします。DASH デバイスの場合は、[起動設定] ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、デバイス起動時に使用する起動元または起動設定を指定できます。起動元として、[ハードディスク] を選択します。詳細については、108 ページの DASH デバイスの起動設定の設定 を参照してください。3 [次へ] をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。4 [次へ] をクリックして続行します。管理コンソールに要約情報が表示されます。5 [閉じる] をクリックします。

表 15 ローカル ドライブからのデバイスの再起動 (続く)

ローカル CD ドライブ	<ol style="list-style-type: none"> 1 [リモート操作] の横のプルダウン メニューから、[ローカル CD/DVD の再起動] を選択します。 2 [次へ] をクリックします。DASH デバイスの場合は、[起動設定] ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、デバイス起動時に使用する起動元または起動設定を指定できます。起動元として、[CD/DVD] を選択します。詳細については、108 ページの DASH デバイスの起動設定の設定 を参照してください。 3 [次へ] をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。 4 [次へ] をクリックして続行します。管理コンソールに要約情報が表示されます。 5 [閉じる] をクリックします。
プライマリ ブート デバイス (vPro のみ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 [リモート操作] の横のプルダウン メニューから、[プライマリ ブート デバイスの再起動] を選択します。このオプションにより、vPro デバイスの BIOS に設定されたデフォルトのブート デバイスを再起動できます。[SOL オプション] が表示されます。このローカル起動オプションにより、選択した場合に HPCA コンソールに表示される操作を表示できます。 2 [SOL オプション] では、[コンソールに表示する] または [コンソールに表示しない] を選択できます。 3 [次へ] をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。 4 [次へ] をクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> — [コンソールに表示] を選択した場合、リモート操作ウィザードは終了し、[HyperTerminal] ウィンドウが開いて再起動プロセスが表示されます。このウィンドウは閉じない限り開いたままです。 — [コンソールに表示しない] を選択した場合は、[要約情報] ウィンドウが表示されます。操作が完了すると操作結果が表示されます。[閉じる] をクリックし、[デバイスの詳細] ウィンドウに戻る必要があります。

この機能を使用すると、次のことができます。

- 非応答デバイスをリモートで再起動する。
- コンソール リダイレクションを使用して非応答デバイスのトラブルシューティングを実行し、BIOS 再起動プロセスを表示し、このプロセス中に応答しない失敗したコンポーネントを識別します。

IDE-R による vPro システムの再起動

ワークスペースの **[診断]** 領域では、問題のある vPro デバイスのブート デバイスを別のリモートドライブ上のクリーンなイメージにリダイレクトできます。IDE-R (Integrated Drive Electronics Redirect) ではこの CD/フロッピー ドライブ リダイレクション機能が提供されます。



IDE-R テクノロジは現在 vPro デバイス上でのみサポートされています。



vPro デバイスでは、無線通信による OOBM サーバーとの通信にはより時間がかかります。このため、SOL/IDE-R リモート操作でタイムアウトが発生する場合があります。34 ページの **IDE-R** および **SOL タイムアウト値の設定** で説明されている方法で IDER* パラメータおよび SOL* パラメータを設定すれば、この状況を回避できます。

組み込みのリダイレクション機能により、ユーザーの介入なしに、または管理コンソールから離れることなく再起動プロセスを表示できます。vPro デバイスの SOL および KVM 機能により、キーボードおよびビデオの管理コンソールへのリダイレクトが可能になります。

IDE-R 機能を使用してシステムを再起動するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する vPro デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の **[診断]** セクションの **[リモート操作]** リンクをクリックします。**[リモート操作ウィザード]** ウィンドウが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックして続行します。**[タスク]** ウィンドウが表示されます。vPro デバイスは、IDE-R 機能によって、リモート デバイス上のさまざまなデバイスから再起動できます (次表参照)。

また、vPro デバイスの **[タスク]** ウィンドウでは、vPro デバイスのフロント パネル設定を使用するかどうかを指定できます。**[いいえ]** を選択すると、vPro デバイスのフロント パネル設定は無視されます。詳細については、107 ページの **vPro デバイスのフロント パネル設定の設定** を参照してください。

表 16 IDE-R 機能による vPro デバイスの再起動

ドライブ	手順
IDE-R CD ドライブ (vPro のみ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 [リモート操作] の横にあるプルダウンメニューから、[IDE-R を使用して再起動] を選択します。[IDE-R オプション] が表示されます。 2 [IDE-R オプション] の横のプルダウンメニューから、[IDE-R CD/DVD] を選択します。[ドライブ パス] フィールドに CD/DVD ドライブのデフォルト設定が入力されます。ドライブ パス フィールドでデフォルトのドライブを使用しない場合は、別のドライブ、または管理コンソール サーバー上の ISO ファイルへのパスを指定できます。ドライブ パスに共有ネットワーク リソースである ISO ファイルを指定する場合は、UNC 構文、つまり、<code>\\hostname\sharefolder\file.iso</code> を使用する必要があります。 3 [次へ] をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。 4 [次へ] をクリックして続行します。リモート操作ウィザードは終了し、[HyperTerminal] ウィンドウが開いて、再起動プロセスが表示されます。このウィンドウは閉じない限り開いたままです。
IDE-R フロッピー ドライブ (vPro のみ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 [リモート操作] の横にあるプルダウンメニューから、[IDE-R を使用して再起動] を選択します。[IDE-R オプション] が表示されます。 2 [IDE-R オプション] の横のプルダウンメニューから、[IDE-R フロッピー] を選択します。[ドライブ パス] フィールドにフロッピー ドライブのデフォルト設定が入力されます。ドライブ パス フィールドでデフォルトのドライブを使用しない場合は、別のドライブ、または管理コンソール サーバー上の IMG ファイルへのパスを指定できます。ドライブ パスに共有ネットワーク リソースである IMG ファイルを指定する場合は、UNC 構文、つまり、<code>\\hostname\sharefolder\file.img</code> を使用する必要があります。 3 [次へ] をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。 4 [次へ] をクリックして続行します。リモート操作ウィザードは終了し、[HyperTerminal] ウィンドウが開いて、再起動プロセスが表示されます。このウィンドウは閉じない限り開いたままです。

この機能を使用すると、次のことができます。

- ソフトウェアの問題とは対照的に、ハードウェアの問題を正確に特定するために、非稼働状態のデバイスを再起動して一時的なトラブルシューティング環境に移行する。
- オペレーティング システム イメージを非稼働状態のデバイス上で再ビルドする。
- オペレーティング システムをベアメタル デバイスにプロビジョニングする。
- 復旧または再配布用にデバイスのイメージをキャプチャする。

vPro システムの再起動による BIOS 設定画面の表示

ワークスペースの [診断] 領域では、起動前に BIOS 設定画面を表示して、設定情報を確認し、vPro デバイスの問題を解決するために必要に応じて設定を変更できます。



再起動時に BIOS 設定画面を表示できるのは、vPro デバイスのみです。

組み込みのリダイレクション機能により、ユーザーの介入なしに、また管理コンソールから離れることなく、BIOS 設定画面を表示できます。vPro デバイスの SOL および KVM テクノロジーにより、キーボードとビデオの管理コンソールへのリダイレクトが可能になります。

システムを再起動して BIOS 設定画面を表示するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する vPro デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の **[診断]** セクションの **[リモート操作]** リンクをクリックします。**[リモート操作ウィザード]** ウィンドウが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックして続行します。**[タスク]** ウィンドウが表示されます。次の表に示したとおり、デバイスを再起動して BIOS 設定画面を表示するには、さまざまな方法があります。

また、vPro デバイスの **[タスク]** ウィンドウでは、vPro デバイスのフロント パネル設定を使用するかどうかを指定できます。**[いいえ]** を選択すると、vPro デバイスのフロント パネル設定は無視されます。詳細については、107 ページの **vPro デバイスのフロント パネル設定の設定** を参照してください。

表 17 vPro デバイスの再起動による BIOS 設定画面の表示

BIOS	手順
BIOS セットアップ (vPro のみ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 [リモート操作] のプルダウン メニューから、[再起動して BIOS 設定画面を表示] を選択します。[BIOS オプション] が表示されます。 2 [BIOS オプション] の横のプルダウン メニューから、[BIOS セットアップ] を選択します。 3 [次へ] をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。 4 [次へ] をクリックして続行します。リモート操作ウィザードは終了し、[HyperTerminal] ウィンドウが開いて、再起動プロセスが表示されます。このウィンドウは閉じない限り開いたままです。
BIOS 停止 (vPro のみ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 [リモート操作] のプルダウン メニューから、[再起動して BIOS 設定画面を表示] を選択します。[BIOS オプション] が表示されます。 2 [BIOS オプション] の横のプルダウン メニューから、[BIOS 停止] を選択します。 3 [次へ] をクリックします。[要約の確認] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。 4 [次へ] をクリックして続行します。リモート操作ウィザードは終了し、[HyperTerminal] ウィンドウが開いて、再起動プロセスが表示されます。このウィンドウは閉じない限り開いたままです。

この機能を使用すると、次のことができます。

- 設定情報を確認する。
- 必要に応じて設定を変更し、非稼働状態のデバイスをトラブルシューティングする。
- デバイスに物理的にアクセスすることなく BIOS 設定を変更する。

システムの再起動による起動前実行環境への移行

ワークスペースの **[診断]** 領域では、OOB デバイスを再起動して起動前実行環境 (PXE) に移行することができます。この再起動オプションを使用すると、ローカルハードディスクやインストール済みのオペレーティングシステムに依存せずに、ネットワーク インターフェイス カードを使用してコンピュータを起動できます。OOB デバイスは、PXE サーバー上のブート イメージから再起動できます。



このオプションを使用するには、PXE ブート サーバーがネットワーク環境に存在していることが前提となります。PXE ブート サーバーでは、DHCP サーバー、TFTP サーバー、PXE ブート要求を処理するブート サーバーが稼働している必要があります。

システムを再起動して PXE 状態に移行するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3 管理するデバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の **[診断]** セクションの **[リモート操作]** リンクをクリックします。**[リモート操作 ウィザード]** ウィンドウが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックして続行します。**[タスク]** ウィンドウが表示されます。
- 6 **[リモート操作]** のプルダウン メニューから、**[再起動して LAN (PXE) 状態に移行]** を選択します。**[タスク]** ウィンドウでは、次を指定することができます。
 - vPro デバイスの場合は、そのデバイスにフロント パネル設定を使用するかどうかを指定できます。**[いいえ]** を選択すると、vPro デバイスのフロント パネル設定は無視されます。詳細については、107 ページの **vPro デバイスのフロント パネル設定の設定** を参照してください。
 - DASH デバイスの場合は、コンソールにテキストを表示するかどうかを指定できる **[クライアント コンソールの表示]** オプションがあります。
- 7 **[次へ]** をクリックします。DASH デバイスの場合は、**[起動設定]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、デバイス起動時に使用する起動元または起動設定を指定できます。起動元として **[ネットワーク]** を選択します。詳細については、108 ページの **DASH デバイスの起動設定の設定** を参照してください。
- 8 **[次へ]** をクリックします。**[要約の確認]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 9 続行する場合は、**[次へ]** をクリックします。管理コンソールに要約情報が表示されます。
- 10 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

この機能を使用すると、次のことができます。

- 非稼働状態のデバイスを再起動して一時的なトラブルシューティング環境に移行し、ソフトウェアの問題ではなく、ハードウェアの問題を正確に特定する。
- オペレーティング システム イメージを非稼働状態のデバイス上で再ビルドする。
- オペレーティング システムをベアメタル デバイスにプロビジョニングする。

起動して DASH のみでサポートされている電源状態に移行

DASH 対応のデバイスは、vPro デバイスよりも多くの電源状態をサポートしています。HPCA コンソールで実行できる電源操作では、DASH デバイスの起動後、次のいずれかの電源状態に移行できます。

- 中断
- 休止 (ソフト)
- 電源オフ (ソフト正常)
- 電源オフ (ハード正常)
- 電源オフ (ハード)
- 電源サイクル (ソフト正常)
- 電源サイクル (ハード正常)
- 電源サイクル (ハード)
- マスター バス リセット (正常)
- マスター バス リセット
- 診断中断

これらの電源操作、および対応する電源状態については、84 ページの表 13 を参照してください。

HPCA コンソールで DASH デバイスを起動してこれらの電源状態に移行する手順は、どの場合も基本的に同じです。次の手順で個々の電源操作を指定する箇所のみが異なります。

上記のいずれかの電源操作を使用して DASH デバイスを起動するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する DASH デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の **[診断]** セクションの **[リモート操作]** リンクをクリックします。**[リモート操作 ウィザード]** ウィンドウが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックして続行します。**[タスク]** ウィンドウが表示されます。
- 6 **[リモート操作]** のプルダウン メニューから、DASH デバイスを起動して目的の電源状態に移行する電源操作を選択します。
[タスク] ウィンドウで、プルダウン メニューから **[クライアント コンソールの表示]** を選択することにより、コンソールにテキストを表示するかどうかを指定することもできます。
- 7 **[次へ]** をクリックします。**[起動設定]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、デバイス起動時に使用する起動元または起動設定を指定できます。詳細については、108 ページの **DASH デバイスの起動設定の設定** を参照してください。この手順は、停止およびスリープ操作では関連がありません。
- 8 **[次へ]** をクリックします。**[要約の確認]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 9 **[次へ]** をクリックして続行します。管理コンソールに要約情報が表示されます。
- 10 **[閉じる]** をクリックします。

この機能を使用して、DASH デバイスの起動後にさまざまな電源状態レベルに移行できます。


vPro デバイスでの KVM リダイレクション

ワークスペースの **[診断]** 領域では、Keyboard Video Mouse Redirection (KVM) テクノロジーを使用して、テキスト モードまたはグラフィカル モードで、vPro デバイスのリモート コンソールにアクセスできます。

KVM を正しく機能させるための要件は次のとおりです。

- vPro デバイスに AMT 6.0 以降が搭載されていること。
- JRE 1.6.x と VNC Viewer をマシンにインストールし、HPCA コンソールへアクセスするブラウザを実行する必要があります。VNC ビューアは 5900 番ポートを使用します。
- HPCA コンソールにアクセスするマシンで、VNC ビューアのインストール先パスが **VNC_PATH** 環境変数に設定されていること。次に例を示します。
VNC_PATH=C:\viewer\VNCViewer.exe
- vPro Web サービスの管理者権限が必要です。これらの権限を取得するには、Intel AMT Console で SCS プロファイルを作成するときに **[PT 管理]** 領域を選択する必要があります。

vPro デバイスで KVM リダイレクションを実行するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
 - 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
 - 3 管理する vPro デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
 - 4 ウィンドウ左側の **[診断]** セクションにある **[KVM リダイレクション]** リンクをクリックします。**[KVM リダイレクションの設定]** ウィンドウが表示されます。
 - 5 **[KVM セッションの設定]** セクションで、次の各項目を指定します。
 - VNC セッションのパスワードを作成し、確認します。このパスワードは 1 回限りのパスワードであり、セキュリティ保護のため新規の VNC セッションを開始するたびにリセットする必要があります。
 - ユーザーのマシンにアクセスする前に明示的なアクセス許可を取得する必要がある場合は、**[オプトインの有効化]** オプションの横のチェック ボックスをオンにします。この機能を有効化することにより、2 段階のパスワード認証を必要とするより強力なセキュリティが実現します。
-  HPCA コンソールでこのオプションは、クライアント vPro デバイスでこのオプションが有効になっている場合に限り、有効化できます。vPro デバイスでこのオプションを有効化するには、クライアント vPro デバイスの MEBx コンソールを表示します。**[メイン メニュー]** > **[Intel R AMT の設定]** > **[KVM 設定]** > **[リモート IT からのオプトイン設定]** > **[KVM オプトイン ポリシーのリモート制御の有効化]** を選択します。
- デフォルトではこのオプションは有効になっています。
- 6 **[送信]** をクリックします。VNC ビューアが開き、パスワードを入力するように要求されます。
 - 7 **[KVM リダイレクションのパスワード]** ウィンドウで認証用に作成したセッション パスワードを入力します。
 - 8 **[OK]** をクリックします。

このオプトイン オプションを有効化すると、[AMT KVM のオプトイン] ウィンドウが開き、2 番目のパスワードを入力するように要求されます。アクセス先の vPro デバイスのユーザーからこのパスワードを教えてください。そのユーザーの vPro デバイスに、[KVM リモート アシスタンス] ポップアップ ウィンドウが開き (オプトインが有効な場合)、ユーザーの同意コードが表示されます。このユーザー同意コードをそのユーザーから教えてください、[AMT KVM のオプトイン] ウィンドウでこのコードを入力し、[はい] をクリックします。

vPro デバイスのリモート コンソールが表示されます。


vPro デバイスのシステム防御フィルタの管理

ワークスペースの [システム防御] 領域は、vPro デバイスのみで使用できます。この領域で、個々の vPro デバイスのシステム防御フィルタを管理できます。具体的には、個々の vPro デバイスに配布されたシステム防御フィルタを確認および削除できます。システム防御フィルタは、システム防御ポリシーに割り当てられています。ポリシーに割り当てられたフィルタは、対応するポリシーがアクティブなポリシーになった時点でアクティブ化されます。

システム防御フィルタの管理ウィンドウを開くには

- 1 HPCA コンソールにログインして、[操作] タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの [アウトバンド管理] の下で、[デバイス管理] をクリックします。[デバイス管理] ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する vPro デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の [システム防御] セクションにある [フィルタ] リンクをクリックします。ウィンドウが開き、HPCA コンソールを介して作成された vPro デバイスに配布されたシステム防御フィルタが表示されます。


システム防御フィルタのビューをリフレッシュするには

- 1 システム防御フィルタの管理ウィンドウを開くにはで説明した手順に従って、[システム防御フィルタの管理] ウィンドウを開きます。
- 2 ツールバーの  リフレッシュ アイコンをクリックします。

システム防御フィルタの詳細を表示するには

- 1 システム防御フィルタの管理ウィンドウを開くにはで説明した手順に従って、[システム防御フィルタの管理] ウィンドウを開きます。
- 2 システム防御フィルタの詳細な情報を表示するには、そのフィルタのフィルタ名リンクをクリックします。[ネットワーク フィルタの詳細] ウィンドウが開き、選択したフィルタの仕様が表示されます。

システム防御フィルタを削除するには

- 1 システム防御フィルタの管理ウィンドウを開くにはで説明した手順に従って、[システム防御フィルタの管理] ウィンドウを開きます。
- 2 削除するフィルタの横にあるチェック ボックスをオンにします。
- 3  削除アイコンをクリックします。選択したフィルタが、その vPro デバイスのシステム防御フィルタ テーブルから削除されます。

システム防御フィルタのインターフェイスを使用して、次の作業を実行できます。

- vPro デバイスに配布されたポリシーに適用できる既存のフィルタを確認する。

- vPro デバイスで不要になったフィルタを削除する。


vPro デバイスに対するシステム防御ポリシーの管理

ワークスペースの **[システム防御]** 領域は、vPro デバイスのみで使用できます。この領域では、個々の vPro デバイスに配布されたシステム防御ポリシーを、表示、削除、および有効化することができます。有効化されたポリシーが優先度に基づいてアクティブなポリシーになると、そのポリシーに関連付けられたフィルタがアクティブになります。

[システム防御ポリシーの管理] ウィンドウを開くには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する vPro デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の **[システム防御]** セクションにある **[ポリシー]** リンクをクリックします。ウィンドウが開き、HPCA コンソールを介して作成され vPro デバイスに配布されたシステム防御ポリシーが表示されます。



システム防御ポリシーのビューをリフレッシュするには

- 1 **[システム防御ポリシーの管理] ウィンドウを開くには**で説明した手順に従って、**[システム防御ポリシーの管理] ウィンドウを開きます**。
- 2 ツールバーの  リフレッシュ アイコンをクリックします。

有線 NIC に配布されたポリシーと無線 NIC に配布されたポリシーを切り替えるには



この手順は、有線と無線の両方のネットワーク インターフェイス カード (NIC) を装着している vPro デバイスのみに適用されます。


- 1 **[システム防御ポリシーの管理] ウィンドウを開くには**で説明した手順に従って、**[システム防御ポリシーの管理] ウィンドウを開きます**。デバイスに 2 枚の NIC が装着されている場合、ウィンドウが開き、vPro デバイスの有線 NIC に配布されたシステム防御ポリシーが表示されます。
- 2  無線アイコンをクリックします (このアイコンは、vPro デバイスに、有線と無線の両方の NIC が装着されている場合に表示されます)。ウィンドウが開き、vPro デバイスの無線 NIC に配布されたシステム防御ポリシーが表示されます。
- 3  有線アイコンをクリックすると、ウィンドウが切り替わり、vPro デバイスの有線 NIC に配布されたシステム防御ポリシーが表示されます。

システム防御ポリシーの詳細を表示するには


- 1 **[システム防御ポリシーの管理] ウィンドウを開くには**で説明した手順に従って、**[システム防御ポリシーの管理] ウィンドウを開きます**。
- 2 システム防御ポリシーの詳細を表示するには、そのポリシーのポリシー名リンクをクリックします。**[システム防御ポリシーの詳細] ウィンドウが開き、選択したポリシーの詳細が表示されます**。
- 3 **[次へ]** をクリックすると、そのポリシーに関連付けられているフィルタが表示されます。

- 4 vPro デバイスに 2 枚の NIC が装着されている場合は、103 ページの有線 NIC に配布されたポリシーと無線 NIC に配布されたポリシーを切り替えるにはで説明したとおり、トグルアイコンをクリックし、他方の NIC についても同じ手順を繰り返します。


エージェント存在ポリシーを設定するには

- 1 103 ページの[システム防御ポリシーの管理] ウィンドウを開くにはで説明した手順に従って、[システム防御ポリシーの管理] ウィンドウを開きます。
- 2 ウォッチドッグ アクションによって有効化されるエージェント存在ポリシーとして設定するポリシーの横のチェック ボックスをオンにします。エージェント存在ポリシーとして選択できるポリシーは 1 つのみです。
- 3 ツールバーの  設定アイコンをクリックします。選択したポリシーがエージェント存在ポリシーになります。このポリシーは、ウォッチドッグ アクションを介して有効にできます。有効化されているシステム防御ポリシーよりもこのポリシーの優先度が高ければ、このポリシーがアクティブなポリシーになります。
- 4 vPro デバイスに 2 枚の NIC が装着されている場合は、103 ページの有線 NIC に配布されたポリシーと無線 NIC に配布されたポリシーを切り替えるにはで説明したとおり、トグルアイコンをクリックし、他方の NIC についても同じ手順を繰り返します。

システム防御ポリシーを有効化するには

- 1 103 ページの[システム防御ポリシーの管理] ウィンドウを開くにはで説明した手順に従って、[システム防御ポリシーの管理] ウィンドウを開きます。
- 2 有効にするポリシーの横にあるチェック ボックスをオンにします。選択できるポリシーは 1 つのみです。
- 3 ツールバーの  有効化アイコンをクリックします。選択したポリシーが、新しいデフォルトのシステム防御ポリシーになります。
- 4 vPro デバイスに 2 枚の NIC が装着されている場合は、103 ページの有線 NIC に配布されたポリシーと無線 NIC に配布されたポリシーを切り替えるにはで説明したとおり、トグルアイコンをクリックし、他方の NIC についても同じ手順を繰り返します。

システム防御ポリシーを削除するには

- 1 103 ページの[システム防御ポリシーの管理] ウィンドウを開くにはで説明した手順に従って、[システム防御ポリシーの管理] ウィンドウを開きます。
- 2 削除する各ポリシーの横にあるボックスをオンにします。
- 3 ツールバーの  削除アイコンをクリックします。選択したポリシーが、その vPro デバイスのシステム防御ポリシー テーブルから削除されます。
- 4 vPro デバイスに 2 枚の NIC が装着されている場合は、103 ページの有線 NIC に配布されたポリシーと無線 NIC に配布されたポリシーを切り替えるにはで説明したとおり、トグルアイコンをクリックし、他方の NIC についても同じ手順を繰り返します。

システム防御ポリシーのインターフェイスを使用して、次の作業を実行できます。

- vPro デバイスのシステム防御ポリシーを表示する。
- システム防御ポリシーを有効化し、優先度に基づいてアクティブなポリシーになることができるようにする。
- ポリシーをエージェント存在ポリシーとして設定し、ウォッチドッグ アクションによって有効化できるようにする。このポリシーの優先度のほうが高ければ、このポリシーがアクティブなポリシーになります。
- 不要になったポリシーを削除する。


vPro デバイスのヒューリスティックの管理

ワークスペースの **[システム防御]** 領域は、vPro デバイスのみで使用できます。この領域では、特定の vPro デバイスに配布されたヒューリスティック情報を表示および削除できます。

ヒューリスティック管理のウィンドウを開くには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する vPro デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の **[システム防御]** セクションにある **[ヒューリスティック]** リンクをクリックします。ウィンドウが開き、HPCA コンソールを介して作成され vPro デバイスに配布されたヒューリスティック情報が表示されます。

ヒューリスティック ビューをリフレッシュするには

- 1 **ヒューリスティック管理のウィンドウを開くには**で説明した手順に従って、**[ヒューリスティックの管理]** ウィンドウを開きます。
- 2 ツールバーの  リフレッシュ アイコンをクリックします。


ヒューリスティック仕様の詳細を表示するには

- 1 **ヒューリスティック管理のウィンドウを開くには**で説明した手順に従って、**[ヒューリスティックの管理]** ウィンドウを開きます。
- 2 詳細を表示するヒューリスティックのヒューリスティック名リンクをクリックします。**[ヒューリスティックの詳細]** ウィンドウが開き、ヒューリスティックの仕様が表示されます。
- 3 **[閉じる]** をクリックして、詳細ウィンドウを閉じます。


デバイスの NIC インターフェイスのヒューリスティック状態情報を表示するには

- 1 **ヒューリスティック管理のウィンドウを開くには**で説明した手順に従って、**[ヒューリスティックの管理]** ウィンドウを開きます。
- 2 ヒューリスティックの NIC インターフェイス状態情報を表示するには、そのヒューリスティックの NIC タイプリンクをクリックします。**[ヒューリスティック状態情報]** ウィンドウが開き、個々の NIC インターフェイスの状態情報が表示されます。この情報により、ヒューリスティック条件に適合したことがあるかどうか、および実行されたアクションが分かります。
- 3 **[閉じる]** をクリックして、**[ヒューリスティック状態情報]** ウィンドウを閉じます。

ヒューリスティック アクションをクリアするには

- 1 **ヒューリスティック管理のウィンドウを開くには**で説明した手順に従って、**[ヒューリスティックの管理]** ウィンドウを開きます。
- 2 ヒューリスティックに関連付けられたアクションをクリアするには、そのヒューリスティックの横にあるチェック ボックスをオンにします。
- 3 ツールバーの  ヒューリスティック アクションのクリア アイコンをクリックします。選択したヒューリスティックに関連付けられたアクションがクリアされます。その結果、送信パケットがブロックされなくなり、疑わしいポートが開き、指定したシステム防御ポリシーが非アクティブ化されます。

ヒューリスティックを削除するには

- 1 105 ページの **ヒューリスティック管理** のウィンドウを開くにはで説明した手順に従って、[ヒューリスティックの管理] ウィンドウを開きます。
- 2 削除する各ヒューリスティックの横にあるボックスをオンにします。
- 3 ツールバーの  削除アイコンをクリックします。選択したヒューリスティックが、その vPro デバイスのヒューリスティック テーブルから削除されます。

ヒューリスティック インターフェイスを使用して次の作業が実行できます。

- vPro デバイスのヒューリスティックを表示する。
- 不要になったヒューリスティック情報を削除する。


vPro デバイスのウォッチドッグの管理

ワークスペースの **[システム防御]** 領域は、vPro デバイスのみで使用できます。この領域では、特定の vPro デバイスに配布されたウォッチドッグを表示および削除できます。

ウォッチドッグ管理のウィンドウを開くには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。[デバイス管理] ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する vPro デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の **[システム防御]** セクションの下にある **[ウォッチドッグ]** リンクをクリックします。ウィンドウが開き、HPCA コンソールを介して作成され vPro デバイスに配布されたウォッチドッグ情報が表示されます。


ウォッチドッグ ビューをリフレッシュするには

- 1 ウォッチドッグ管理のウィンドウを開くにはで説明した手順に従って、ウォッチドッグの管理ウィンドウを開きます。
- 2 ツールバーの  リフレッシュ アイコンをクリックします。

ウォッチドッグの詳細を表示するには

- 1 ウォッチドッグ管理のウィンドウを開くにはで説明した手順に従って、ウォッチドッグの管理ウィンドウを開きます。
- 2 詳細を表示するウォッチドッグのウォッチドッグ名リンクをクリックします。[Watchdog Detail] ウィンドウが開き、選択したウォッチドッグの詳細が表示されます。
- 3 **[閉じる]** をクリックして、詳細ウィンドウを閉じます。

ウォッチドッグを削除するには

- 1 ウォッチドッグ管理のウィンドウを開くにはで説明した手順に従って、ウォッチドッグの管理ウィンドウを開きます。
- 2 削除する各ウォッチドッグの横にあるチェック ボックスをオンにします。
- 3 ツールバーの  削除アイコンをクリックします。選択したウォッチドッグが、その vPro デバイスのウォッチドッグ テーブルから削除されます。

ウォッチドッグ インターフェイスを使用して次の作業を実行できます。

- vPro デバイスのウォッチドッグ エージェントを表示する。
- 不要になったウォッチドッグを削除する。

vPro デバイスのフロント パネル設定の設定

ワークスペースの **[全般設定]** 領域は、vPro デバイスのみで使用できます。この領域では、リモート電源操作の最中に、vPro デバイスのキーボードと電源ボタンをロックおよびロック解除できます。



フロント パネル設定は、ターゲット デバイスの機能に基づいて、ユーザーが設定できます。フロント パネル設定機能は、個々の vPro デバイスの BIOS に依存しています。デバイスの BIOS でフロント パネル設定がサポートされていない場合、この機能を HPCA コンソールから制御することはできません。サポート関連情報の詳細については、ハードウェア ベンダーに問い合わせてください。

フロント パネル設定を設定するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する vPro デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の **[全般設定]** セクションにある **[フロント パネルの設定]** リンクをクリックします。**[フロント パネルの設定]** ダイアログが表示されます。
- 5 **[ここ]** リンクをクリックして、ダイアログの **[フロント パネルの設定]** セクションを有効化します。フロント パネル設定がデバイスによってサポートされている場合、デフォルトのロック設定は **[はい]** に設定されています。
- 6 リモート電源操作の最中に、vPro デバイスのキーボードや電源ボタンをロックする場合は、デフォルトの設定のままにします。
- 7 **[更新]** をクリックします。確認メッセージが画面に表示されます。
- 8 **[閉じる]** をクリックして、ダイアログを終了します。

フロント パネル設定を使用すると、HPCA コンソールからリモート電源操作を実行しているとき、そのデバイスに対する直接の操作を確実に回避できます。

vPro デバイスのフラッシュ メモリ書き換え回数制限のリセット

ワークスペースの **[全般設定]** 領域は、vPro デバイスのみで使用できます。この領域では、vPro デバイスのフラッシュ メモリ書き換え回数制限をリセットできます。フラッシュ メモリの詳細については、78 ページの **共通ユーティリティの管理** を参照してください。

フラッシュ メモリ書き換え回数制限をリセットするには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する vPro デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。

- 4 ウィンドウ左側の **[全般設定]** セクションにある **[フラッシュ メモリ書き換え回数制限のリセット]** リンクをクリックします。**[フラッシュ メモリ書き換え回数制限のリセット]** ダイアログが表示されます。
- 5 **[リセット]** をクリックします。確認メッセージが表示されます。
- 6 **[OK]** をクリックして続行します。デバイスの **3PDS** メモリのカウンタがゼロにリセットされます。

フラッシュ メモリ書き換え回数制限のリセットを使用すると、**vPro** デバイスの **3PDS** カウンタ (フラッシュ メモリの劣化防止メカニズムとして機能) をリセットできます。この機能により、この非揮発性メモリ ストアへの書き込み操作を継続できるようになります。

DASH デバイスの起動設定の設定


ワークスペースの **[設定の設定]** 領域は、**DASH** デバイスのみで使用できます。**DASH** デバイスでは、複数のブート設定を設定することができます。使用可能なブート設定の設定の中から起動プロセスに使用するものを選択できます。

各ブート設定の設定には、使用可能な起動元 (ハード ドライブ、**CD**、**USB** など) をいくつでも関連付けることができます。また、各ブート設定の設定では、関連付けられた複数の起動元の起動順も設定できます。同じ起動元を複数の異なるブート設定の設定に関連付けることもできます。


ワークスペースのこの領域では、**DASH** デバイスに対してリモート操作を実行しているとき、使用可能なブート設定の設定の確認、一回限りのブート設定の設定、起動順の変更を行うことができます。詳細については、**90** ページの **電源状態の変更** を参照してください。

起動設定を設定するには

- 1 **HPCA** コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 3 管理する **DASH** デバイスのホスト名リンクをクリックします。管理ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウ左側の **[設定の設定]** セクションにある **[ブート設定]** リンクをクリックします。ブート設定リストが表示されます。

 現在、Broadcom **DASH** デバイスで使用可能なブート設定の設定は、**ブート設定の設定 1** と **ブート設定の設定 2** の 2 つのみです。

リストは、ブート設定の設定について次のことを示します。

- **デフォルト:** オンにすると、コンピュータ システム製造メーカーがデフォルトのブート設定としてタグ付けしたブート設定の設定になります。**[デフォルト]** の設定は、ブートプロセス中にどのブート設定が適用されるかに影響しません。
- **次へ:** オンにすると、**[次回のみ]** が選択されていない限り、ブート設定の設定が **DASH** デバイスの次のブート (およびその後の再起動) 中に使用されます。
 -  現在の Broadcom **DASH** デバイスの場合、**[ブート設定の設定 1]** は常に **[次へ]** のブート設定の設定になり、変更できません。
- **次回のみ:** オンにすると、**DASH** デバイスの次のブート中にブート設定の設定が使用されますが、その次のブート中には使用されません。**[次回のみ]** のブート設定の設定は、**[次へ]** のブート設定の設定より優先されます。


— **現在:** オンにすると、DASH デバイスが前回正常にブートされたときに使用されたブート設定の設定になります。

▶ 現在、[**一回限りのブート設定**] が選択されていると、[**次へ**] カラムおよび [**次回のみ**] カラムのみにチェック マークが表示されます。

— **ブート順序:** ブート設定の設定に付随する起動元および起動順序。

▶ [**起動順序**] カラムの起動元が緑色のテキストで表示される場合は、これらの起動元デバイスが現在のブート プロセスで使用されていることを示すエラー条件を表します。これはハードウェアのエラーです。デバイスが緑色のテキストで表示される場合は、次の手順で説明するように、ブート設定ウィザードを使用して起動順序を変更する必要があります。

5 ブート設定リストで管理するブート設定の設定を選択します。

6 ブート設定リスト テーブルのツールバーにある  ブート設定パラメータ アイコンのプルダウンメニューから、実行するブート設定オプションを選択します。現在、次のオプションしか選択できません。

— **一回限りのブート設定:** デバイスの電源を次回入れるとき、またはデバイスを次回再起動するときの起動順序を変更します。この回以降は、現在のブート設定の起動順序に戻ります。このオプションを選択すると、ブート設定の更新ウィザードが表示されます。

7 [**次へ**] をクリックして続行します。[設定] ウィンドウが表示されます。

8 [**現在の起動順序**] リストでブート デバイスを選択し、[**追加**] をクリックして [**新しい起動順序**] リストにそのブート デバイスを追加します。[**新しい起動順序**] リストからブート デバイスを削除するには、デバイスを選択して [**削除**] をクリックします。

[**現在の起動順序**] リストには、デバイスの起動元となるすべてのブート デバイスが表示されます。現在の起動順序で現在使用中のブート デバイスは、黒いテキストで表示されます。使用可能だが、現在の起動順序で使用されていないブート デバイスは、グレイで表示されます。

9 新しい起動順序で問題ない場合は、[**次へ**] をクリックします。[完了] ウィンドウにステータス情報が表示されます。

10 [**閉じる**] をクリックして、ウィザードを終了します。加えた変更内容はブート設定リストに反映されます。

DASH デバイスのブート設定の設定を表示したり変更したりする機能は、リモート電源管理の問題のトラブルシューティングに役立つツールとして使用できます。

6 グループ管理

この章では、HPCA コンソールを使用して vPro デバイスで構成される Client Automation デバイス グループを管理する方法について説明します。vPro デバイスで構成される Client Automation グループは、デバイスの電源の状態、オペレーティング システムの状態、または管理エージェントの有無に関係なくリモートで管理することができます。

HPCA コンソールの [操作] タブのアウトバンド管理オプションの 1 つに [グループ管理] があります。

▶ このオプションは、vPro デバイスの管理を選択した場合のみ HPCA コンソールに表示されます。

このオプションにより、次の管理が可能になります。

- 複数の vPro デバイス グループの管理
- 個別の vPro デバイスの管理

複数の vPro デバイス グループの管理

グループを管理する場合、次の作業を行うことにより表示されるグループ、およびグループ リスト内でのグループの表示順を指定できます。

- 検索条件に基づいて特定のグループを検索する。
- 一度に表示するグループの数を選択して、見やすいように一部のグループのみが表示されるようにします。
- カラム見出しに基づいてグループをソートする。

グループ リストのツールバーにあるアイコンを使用して、複数のグループを同時に管理できます。

表 18 グループ リストのツールバー











アイコン	機能
	リストに表示されているグループをリフレッシュします。
	リストに表示されているデバイス グループと Client Automation リポジトリを同期します。
	選択されているグループに対して電源管理タスクを実行します。
	選択されているグループに対して警告メッセージ予約を管理します。
	選択されているグループに OOBM エージェント ソフトウェア リストを配布します。
	デバイス グループをプロビジョニングします。

表 18 グループ リストのツールバー (続く)

アイコン	機能
	選択されているグループに対してシステム防御ポリシーを配布および回収します。
	選択されているグループに対してウォッチドッグを配布および回収します。
	選択されているグループに対してヒューリスティックを配布および回収します。



デバイス リスト ツールバーの表に示しているように、 アイコンを使用すると、グループ リストに表示されているグループ デバイス情報を現在のデバイス情報と同期して、情報を手動でリロードできます。手動によるリロードに加え、OOBM では定期的な間隔でのグループ リストの自動リロードも可能です。この時間間隔は、(<HPCA_Install_DIR>%oobm%conf% ディレクトリにある) config.properties ファイルで group_synchronization_timeperiod パラメータの値を設定することによって設定できます。

この同期時間間隔のデフォルト値はゼロ (自動同期を行わない) です。自動同期を行う場合は、この値をゼロ以外に設定してください。単位は分です。




複数グループの選択


複数のグループを選択するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 左側のナビゲーション ペインの **[アウトバンド管理]** の下で、**[グループ管理]** をクリックします。**[グループ管理]** ウィンドウが開いて、すべての **Client Automation** グループが表示されます。**vPro** デバイスで構成されているグループは、テーブル内でアクティブなリンクとして表示されます。アクティブなリンクは、コンソールを使用して管理可能であることを示しています。
- 3 グループのチェック ボックスをオンにするか、または左上の **[すべて選択]** チェック ボックスをオンにして、アクセス対象のグループを選択します。選択しやすいように、特定の条件を満たすグループのみに検索を絞り込んだり、グループを並べ替えたりすることができます。

グループ リストと Client Automation リポジトリの同期


グループ リストと Client Automation リポジトリを同期するには

- グループ リストを直ちに **Client Automation** リポジトリからリロードするには、 リロード アイコンのプルダウン メニューから **[グループを直ちにリロード]** を選択します。このオプションを選択すると、直ちにリロードが実行され、プロセスが発生するとグループ リスト ウィンドウ内にその内容が表示されます。プロセスが完了すると、**Client Automation** リポジトリで検出された最新のグループがグループ リストに表示されます。
- バックグラウンドプロセスとして **Client Automation** リポジトリからグループをリロードするには、 リロード アイコンのプルダウン メニューから **[バックグラウンドでグループをリロード]** を選択します。このオプションを選択すると、グループ リスト ウィンドウにはプロセスの内容が表示されません。バックグラウンドプロセスのステータスは、 リロード アイコン

のプルダウンメニューから **[リロードステータスの表示]** を選択することにより確認できます。プロセスの完了時にリロードされたグループリストを確認するには、 リフレッシュアイコンをクリックする必要があります。

電源管理


デバイスグループの電源を管理するには

- 1 112 ページの複数のグループを選択するにはで説明した手順で管理するグループを選択します。
- 2 ツールバーの  電源管理アイコンをクリックします。電源操作ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[オプション] ウィンドウが表示されます。
- 4 選択したグループで実行する電源操作を選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 6 **[次へ]** をクリックします。[完了] ウィンドウが開いて、操作の結果が表示されます。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

この機能を使用すると、複数のデバイスグループの電源のオン/オフを特定の時刻に効果的に行えるため、コストを抑えることが可能です。

警告メッセージ予約の管理


デバイスグループの警告メッセージ予約を管理するには

- 1 112 ページの複数のグループを選択するにはで説明した手順で管理するグループを選択します。
- 2  警告メッセージ予約管理アイコンをクリックします。警告メッセージ予約管理ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[オプション] ウィンドウが表示されます。
- 4 警告メッセージ予約を実行するかキャンセルするかを選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 6 **[次へ]** をクリックします。[完了] ウィンドウが開いて、操作の結果が表示されます。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

この機能を使用して、適切なイベント警告が HPCA コンソールに送信されるように複数のデバイスグループに対して警告メッセージを予約およびキャンセルできます。

OOBM エージェント ソフトウェア リストの配布

OOBM エージェント ソフトウェア リストを配布するには


- 1 112 ページの複数のグループを選択するにはで説明した手順で管理するグループを選択します。
- 2  ソフトウェアリスト配布アイコンをクリックします。これで、ソフトウェア配布ウィザード開始されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[ソフトウェア] ウィンドウが表示されます。

- 4 選択したグループに配布するソフトウェア リストに追加するソフトウェア名を選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 6 **[次へ]** をクリックします。[完了] ウィンドウが開いて、操作の結果が表示されます。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

この機能を使用して、ターゲットの **vPro デバイス グループ** で **OOBM エージェント** に監視させるアプリケーションのカスタム リストを作成する元となる、ソフトウェア アプリケーションのマスター リストを作成できます。

プロビジョニング

プロビジョニング操作を実行するには

- 1 112 ページの**複数のグループを選択するには**で説明した手順で管理するグループを選択します。
- 2  プロビジョニング アイコンのプルダウン メニューから、**[プロビジョニング操作の実行]** を選択します。プロビジョニング操作ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[オプション] ウィンドウが表示されます。
- 4 選択したグループに対して実行するプロビジョニング操作を選択します。プロビジョニング操作の説明については、69 ページの**プロビジョニング タスクの実行**を参照してください。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 6 **[次へ]** をクリックします。[完了] ウィンドウが開いて、操作の結果が表示されます。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。


プロビジョニング ステータス ログを表示するには

- 1 112 ページの**複数のグループを選択するには**で説明した手順で管理するグループを選択します。
- 2 プロビジョニング アイコンのプルダウン メニューから、**[プロビジョニング ステータス ログの表示]** を選択します。[プロビジョニング ステータス ログ] ウィンドウが表示されます。このログに、プロビジョニング操作のステータスが表示されています。

この機能を使用すると、デバイス グループで効果的なプロビジョニング操作を行うことができ、また最小限の操作で結果を表示できます。


システム防御ポリシーの配布

システム防御ポリシーを配布するには

- 1 112 ページの**複数のグループを選択するには**で説明した手順で管理するグループを選択します。
- 2  システム防御ポリシーの管理アイコンのプルダウン メニューから、**[システム防御ポリシーの配布]** を選択します。ポリシー配布ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[ポリシー] ウィンドウが表示されます。
- 4 選択したグループに配布するシステム防御ポリシーを選択します。

- 5 **[次へ]** をクリックします。[設定] ウィンドウが表示されます。
- 6 プルダウン メニューから、デバイス グループの有線および無線 NIC に割り当てるエージェント存在ポリシーおよびシステム防御ポリシーを選択します。
- 7 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 8 **[次へ]** をクリックします。[完了] ウィンドウが開いて、操作の結果が表示されます。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。


システム防御ポリシーを回収するには

- 1 112 ページの**複数のグループを選択するには**で説明した手順で管理するグループを選択します。
- 2  システム防御ポリシーの管理アイコンのプルダウン メニューから、**[システム防御ポリシーの回収]** を選択します。ポリシー回収ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[ポリシー] ウィンドウが表示されます。
- 4 選択したグループから回収するポリシーを選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 6 **[次へ]** をクリックします。[完了] ウィンドウが開いて、操作の結果が表示されます。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。


この機能を使用すると、複数の vPro デバイス グループに複数のシステム防御ポリシーを配布しやすくなるとともに、これらのシステムをマルウェア攻撃から保護することができます。

ウォッチドッグの配布

ウォッチドッグを配布するには

- 1 112 ページの**複数のグループを選択するには**で説明した手順で管理するグループを選択します。
- 2  ウォッチドッグの管理アイコンのプルダウン メニューから、**[ウォッチドッグの配布]** を選択します。ウォッチドッグ配布ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[ウォッチドッグ] ウィンドウが表示されます。
- 4 選択したグループに配布するウォッチドッグを選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 6 **[次へ]** をクリックします。[完了] ウィンドウが開いて、操作の結果が表示されます。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ウォッチドッグを展開解除するには


- 1 112 ページの**複数のグループを選択するには**で説明した手順で管理するグループを選択します。
- 2  ウォッチドッグの管理アイコンのプルダウン メニューから、**[ウォッチドッグを展開解除]** を選択します。ウォッチドッグ回収ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[ウォッチドッグ] ウィンドウが表示されます。
- 4 選択したグループから回収するウォッチドッグを選択します。

- 5 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 6 **[次へ]** をクリックします。[完了] ウィンドウが開いて、操作の結果が表示されます。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。


この機能を使用すると、複数の vPro デバイス グループに複数のウォッチドッグを簡単に配布し、これらのシステム上の OOBM エージェントを監視できます。OOBM エージェントは、プロビジョニング済みのデバイス上で実行中のセキュリティ ソフトウェアを監視するため、OOBM エージェントを監視することがネットワークのセキュリティを強化することにつながります。ユーザーの誤った操作によりまたはその他の原因によりセキュリティ ソフトウェアの実行が停止した場合、ウォッチドッグによってこのイベントをシステム管理者に警告できます。

ヒューリスティックの配布

ヒューリスティックを配布するには

- 1 112 ページの**複数のグループを選択するには**で説明した手順で管理するグループを選択します。
- 2  ヒューリスティックの管理アイコンのプルダウン メニューから、**[ヒューリスティックの配布]** を選択します。ヒューリスティック配布ウィザードが開始されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[ヒューリスティック] ウィンドウが表示されます。
- 4 選択したグループに配布するヒューリスティックを選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[設定] ウィンドウが表示されます。
- 6 プルダウン メニューから、デバイス グループの有線および無線 NIC に割り当てるヒューリスティックを選択します。
- 7 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 8 **[次へ]** をクリックします。[完了] ウィンドウが開いて、操作の結果が表示されます。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ヒューリスティックを回収するには

- 1 112 ページの**複数のグループを選択するには**で説明した手順で管理するグループを選択します。
- 2  ヒューリスティックの管理アイコンのプルダウン メニューから、**[ヒューリスティックの回収]** を選択します。ヒューリスティック回収ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[ヒューリスティック] ウィンドウが表示されます。
- 4 選択したグループから回収するヒューリスティックを選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 6 **[次へ]** をクリックします。[完了] ウィンドウが開いて、操作の結果が表示されます。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

この機能を使用すると、複数の vPro デバイス グループに複数のヒューリスティックを簡単に配布することができ、ワームに感染したデバイスのワーム封じ込めを行えます。

個別の vPro デバイスの管理

[グループ管理] ウィンドウに表示されているグループ リスト テーブルには、グループ タイプ、グループ内のデバイス数、グループの作成日、およびその他の属性が表示されます。

掘り下げてグループ内の個々のデバイスを管理するには、テーブルの [説明] 列の下にあるグループ名のリンクをクリックします。[グループの詳細] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、次のタブ セクションがあります。

- [全般] タブ
- [プロパティ] タブ
- [デバイス] タブ

[全般] タブ

[全般] タブには [共通のタスク] と [要約] 領域があります。[共通のタスク] 領域には、他のタブ セクションで提供される機能へのショートカットとして動作するリンクがあります。[要約] 領域にはデバイス グループに関する統計が表示されます。

[プロパティ] タブ

[プロパティ] タブには、選択したグループのプロパティが表示されます。グループのプロパティについて理解を深めるには、『HP Client Automation Core および Satellite Standard ユーザー ガイド』を参照してください。

[デバイス] タブ

[デバイス] タブには選択したグループに属する vPro デバイスのリストが表示されます。グループ内の複数のデバイスまたは個々のデバイスを管理できます。詳細については、第 5 章、「デバイス管理」を参照してください。


7 警告の通知

この章では、vPro デバイスで発生した警告の表示について説明します。


vPro デバイスで発生した警告の表示

HPCA コンソールでは、イベントの警告を表示できます。これらの警告は、プロビジョニング済みの vPro デバイスによってイベントの発生時に生成され、HPCA コンソールに送信されます。そのデバイスに対する警告メッセージ予約を登録していれば、警告が表示されます。

警告の表示をリフレッシュするには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** の下で、**[警告の通知]** をクリックします。**[警告の通知]** ウィンドウが表示されます。このタブには、警告メッセージ予約を登録してある vPro デバイスによって生成された警告が表示されます。
- 3 ツールバーの  リフレッシュ アイコンをクリックします。

vPro 警告に関する詳細を表示するには

- 1 HPCA コンソールにログインして、**[操作]** タブを選択します。
- 2 **[アウトバンド管理]** の下で、**[警告の通知]** をクリックします。**[警告の通知]** ウィンドウが表示されます。このタブには、警告メッセージ予約を登録してある vPro デバイスによって生成された警告が表示されます。
- 3 **[詳細]** カラムの詳細アイコン  をクリックします。ウィンドウが開き、選択した警告の詳細なプロパティが表示されます。

警告メッセージ予約を登録することで、即座の対応を必要とする重要度の高いイベント警告が発生しているかどうかを確認できます。

8 使用ケース シナリオ

この章では、OOB デバイス管理のいくつかの標準シナリオを実行するための HPCA コンソールの使用法について説明します。これらのシナリオには、デバイス上の資産を探索する方法、さまざまな修復機能を実行する方法、およびネットワーク上の vPro デバイスをマルウェア攻撃から保護する方法が含まれています。HPCA コンソールを使用して、電源の状態、オペレーティングシステムの状態、または管理エージェントの有無に関係なくデバイスをリモートで管理することができます。これらのシナリオは、企業において HPCA コンソールのアウトバンド管理 (OOBM) 機能を使用する方法を限なく提示するものではなく、説明に役立つ実例を示すものです。

このセクションでは、次の使用ケースについて説明します。

ハードウェアの障害と置換

オペレーティング システムの障害と再起動

ウイルス感染の検出と検疫

デバイスの検疫と修復

基幹ソフトウェアの監視

ワームの感染と封じ込め



ここで説明する使用ケースのほとんどは、vPro デバイス関連です。DASH デバイスは、該当個所で説明されています。ただし、ナビゲーションと手順の詳細は DASH デバイスごとに異なります。手順の詳細については、第 5 章、「デバイス管理」を参照してください。

ハードウェアの障害と置換

この使用ケースは、次の 2 つのセクションに分けられます。

- 概要
- 使用ケースで実行する手順

概要

ハードウェア センサー タイプの障害が発生します。この障害により、vPro チップに組み込まれている **Event Manager** によってイベントが生成されます。**Event Manager** は、イベント フィルタが提供する情報に基づいて、HPCA コンソールにイベント警告を送信します。


管理者は次の作業を行います。

- vPro デバイスのイベント警告通知を予約します (予約はハードウェア障害が発生する前に実施しておく必要があります)。
- vPro または DASH デバイス上のハードウェア資産を探索して、交換する必要がある部品を特定します。

vPro デバイスの警告通知を予約すると、イベント警告が自動的に HPCA コンソールに送信されます。警告を受信した管理者は、そのデバイスのハードウェア インベントリを調べ、デバイスを復旧させるために必要な交換部品を特定して注文します。

使用ケースで実行する手順

vPro デバイスのイベント警告通知を予約するには

- 1 **[操作]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 2 デバイスのチェック ボックスをオンにするか、または左上の **[すべて選択]** チェック ボックスをオンにして、予約対象のデバイスを選択します。
- 3  警告メッセージ予約管理アイコンのプルダウン リストから、**[警告のサブスクライブ]** を選択します。

詳細については、78 ページの **警告メッセージ予約の管理** を参照してください。

警告を表示するには

- 1 **[操作]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理]** の下で、**[警告の通知]** をクリックします。**[警告の通知]** ウィンドウが表示されます。
- 2 HPCA コンソールに送信された、関連のある警告を表示します。このケースでは、ハードウェア障害によって発生したイベント警告を探します。

詳細については、119 ページの **vPro デバイスで発生した警告の表示** を参照してください。

ハードウェア資産を表示するには

- 1 **[操作]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 2 ハードウェア障害が発生した vPro デバイスの **[ホスト名]** リンクをクリックします。
- 3 ウィンドウ左側の **[診断]** の下にある表の **[デバイス]** カラムで、**[デバイス アセット]** リンクをクリックします。
- 4 **[ハードウェア情報]** をクリックします。
- 5 障害の発生したハードウェア コンポーネントをクリックします。そのコンポーネントの仕様がコンソールのコンテキスト領域に表示されます。

詳細については、88 ページの **ハードウェア資産の表示** を参照してください。

これで、HPCA コンソールを介して vPro デバイスまたは DASH デバイスから取得した情報に基づいて、交換部品を注文することができます。

オペレーティング システムの障害と再起動

この使用ケースは、次の 2 つのセクションに分けられます。

- 概要
- 使用ケースで実行する手順

概要

vPro デバイスまたは DASH デバイスのオペレーティング システムが応答していません。管理者は PC のユーザーから通知を受けています。

管理者は次の作業を行います。

- リモートの vPro デバイスのフロント パネルをロックして (この例では、問題の vPro デバイスでこの機能がサポートされているものとする)、リモート電源操作の実行中にユーザーが手動で直接操作できないようにします。DASH デバイスには、フロント パネル設定機能は用意されていません。
- HPCA コンソール サーバー上のオペレーティング システム イメージ ファイルを使用して PC を再起動し、問題を詳しく診断します。

使用ケースで実行する手順

vPro デバイスのフロント パネルをロックするには

- 1 **[操作]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。[デバイス管理] ウィンドウが表示されます。
- 2 オペレーティング システム障害が発生した OOB デバイスの [デバイス] カラムにある [ホスト名] リンクをクリックします。
- 3 ウィンドウ左側の **[全般設定]** の下で、**[フロント パネル設定]** リンクをクリックします。
- 4 **[ここ]** リンクをクリックして、ダイアログの **[フロント パネルの設定]** セクションを有効化します。
- 5 キーボードと電源ボタンの設定が **[はい]** に設定されていることを確認します。

詳細については、107 ページの **vPro デバイスのフロント パネル設定の設定** を参照してください。

IDE-R CD ドライブからシステムを再起動するには

- 1 **[操作]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。[デバイス管理] ウィンドウが表示されます。
- 2 オペレーティング システム障害が発生した vPro デバイスの [ホスト名] リンクをクリックします。
- 3 ウィンドウ左側の **[診断]** の下で、**[リモート操作]** リンクをクリックします。
- 4 リモート操作ウィザードで、リモート操作の **[IDE-R を再起動します]** を選択し、[フロント パネルの設定を適用] で **[はい]** を選択します。
- 5 [ドライブ パス] フィールドに、管理コンソール サーバー上にある ISO ファイルのパスを入力します。
- 6 ウィザードの残りの手順を実行します。

詳細については、95 ページの **IDE-R による vPro システムの再起動** を参照してください。

ウイルス感染の検出と検疫

この使用ケースは、次の 2 つのセクションに分けられます。

- 概要
- 使用ケースで実行する手順

概要

vPro デバイスによって、現在アクティブなシステム防御ポリシーのレート制限フィルタに一致するネットワークトラフィックが検出されたため、ウイルス攻撃が疑われます。このトラフィックの検出により、vPro チップに組み込まれている **Event Manager** がイベントを生成します。**Event Manager** は、イベントフィルタが提供する情報に基づいて、HPCA コンソールにイベント警告を送信します。

管理者は次の作業を行います。

- vPro デバイスのイベント警告通知を予約します。
- 必要なフィルタを使用して検疫ポリシーを作成することにより、感染したデバイス内にウイルスを封じ込め、ネットワーク上の他のデバイスに感染が拡大しないようにします。
- ウイルス感染した vPro デバイスに対して、ポリシーの有効化、アクティブ化、配布を実行します。
- デバイスを修理、交換、または除去します。
- デバイ스에脅威がなくなったら、ポリシーを無効化します。

ポリシーを作成、配布、アクティブ化すると、vPro デバイスは、パケットを検査し、検疫ポリシーに関連付けられたフィルタに指定されているアクションを実行します。この例では、フィルタによって、問題のデバイスから送信されるすべての TCP パケットを遮断します。問題のデバイスがネットワークから分離されたら、管理者は、vPro デバイスの復元に必要な修復タスクを実行してから、検疫ポリシーを無効化します。

使用ケースで実行する手順


vPro デバイスのイベント警告通知を予約するには

使用ケースハードウェアの障害と置換の122 ページのvPro デバイスのイベント警告通知を予約するにはで説明した手順を実行します。

警告を表示するには

使用ケースハードウェアの障害と置換の122 ページの警告を表示するにはで説明した手順を実行します。このケースでは、レート制限フィルタによって生成されたイベント警告を探します。

検疫フィルタを作成するには


- 1 **[設定]** タブの、左側のナビゲーションメニューにある **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[フィルタ]** をクリックします。**[フィルタ]** ウィンドウが表示されます。
- 2 ツールバーの  追加アイコンをクリックします。システム防御フィルタウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックして続行します。**[フィルタの詳細]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **フィルタ名:** 「Quarantine」を入力します。
 - **フィルタタイプ:** **[ドロップ]** を選択します。
 - **フィルタ一致時にイベントを作成:** **[はい]** を選択します。
- 4 **[次へ]** をクリックします。**[パラメータ]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **パケットタイプ:** **[TCP]** を選択します。
 - **フィルタモードまたは方向:** **[転送]** を選択します。
 - **ネットワークアドレス:** **[ネットワークへのパケットをフィルタ]** を選択します。

- **ポートの範囲:** **[ソース ポート範囲]** を選択します。**[最小のポート]** と **[最大のポート]** の値にそれぞれ、「1」と「655535」を入力します。これは、vPro デバイス上のポートを表します。この vPro デバイス上のすべての送信元ポートからネットワーク上のすべてのデバイス上のすべての宛先ポートへのパケットの送出手をブロックして、この vPro デバイスから他のデバイスへの感染を防ぎます。

5 **[次へ]**、**[閉じる]** の順にクリックします。


詳細については、54 ページの [システム防御フィルタの管理](#) を参照してください。

検疫ポリシーを作成するには

- 1 **[設定]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[ポリシー]** をクリックします。**[ポリシー]** ウィンドウが表示されます。
- 2 ツールバーの  追加アイコンをクリックします。システム防御ポリシー ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックして続行します。**[ポリシーの詳細]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **ポリシー名:** 「Quarantine」を入力します。
 - **優先度:** 「98」を入力します。
 - **偽装対策フィルタの有効化:** **[はい]** を選択します。
 - **デフォルトの受信 (Rx) フィルタ タイプ:** **[パス]** を選択します。
 - **デフォルトの転送 (Tx) フィルタ タイプ:** **[パス]** を選択します。
- 4 **[次へ]** をクリックして、使用可能なすべてのフィルタを確認します。
- 5 Quarantine フィルタを **[ポリシーに割り当てるフィルタ]** 一覧にドラッグします。
- 6 **[ポリシーの追加]** をクリックします。

詳細については、57 ページの [システム防御ポリシーの管理](#) を参照してください。


vPro デバイスに対して検疫ポリシーを有効化、アクティブ化、配布するには

- 1 **[設定]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[ポリシー]** をクリックします。**[ポリシー]** ウィンドウが表示されます。
- 2 Quarantine ポリシーの横のチェック ボックスをオンにします。
- 3 ツールバーの  配布アイコンをクリックします。ポリシー配布ウィザードが表示されます。
- 4 **[次へ]** をクリックして続行します。**[デバイスの選択]** ウィンドウが表示されます。
- 5 感染した vPro デバイスの横のチェック ボックスをオンにします。
- 6 **[次へ]** をクリックします。**[ポリシーの設定]** ウィンドウが表示されます。
- 7 有線 NIC のシステム防御ポリシーとして Quarantine ポリシーを選択します。これにより、感染した vPro デバイスのシステム防御ポリシーとして Quarantine ポリシーが有効化されます。この検疫ポリシーには、作成時に、(現在定義されている他のシステム防御ポリシーに対する相対値として) 最高優先度 (98) を指定したため、このポリシーが、感染した vPro デバイスのアクティブなポリシーになります。
- 8 ウィザードの残りの手順を実行します。

詳細については、57 ページの [システム防御ポリシーの管理](#) を参照してください。

vPro デバイスの検疫ポリシーを非アクティブ化するには

- 1 **[操作]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。

- 2 ウイルスに感染した **vPro** デバイスの [ホスト名] リンクをクリックします。
- 3 ウィンドウ左側の **[システム防御]** セクションの下にある **[ポリシー]** リンクをクリックします。ウィンドウが開き、このデバイスに配布されているシステム防御ポリシーが表示されます。
- 4 **Quarantine** の横のチェック ボックスをオンにします。
- 5 ツールバーの  有効化/無効化アイコンをクリックします。**Quarantine** ポリシーが、有効化されたシステム防御ポリシーから除外され、無効化されます。

詳細については、103 ページの **vPro デバイスに対するシステム防御ポリシーの管理** を参照してください。

デバイスの検疫と修復

この使用ケースは、次の 2 つのセクションに分けられます。

- 概要
- 使用ケースで実行する手順

概要

外部からの攻撃を防ぐため、社内ネットワークの特定のデバイスを検疫する必要があります。ところが、このデバイスを修復するには、デバイスを管理サーバーに接続する必要があります。修復措置では、ウイルス定義の更新、ファイアウォール ソフトウェアの新規バージョンのインストール、管理者による問題のデバイスのリモート制御などが必要になります。

すべてのネットワーク トラフィックをブロックすると、デバイスの修復措置は事実上不可能になります。このため、管理者は、修復管理サーバーとやり取りされるトラフィックのみをブロックの対象から除外して、感染したデバイスを修復できるようにする必要があります。

管理者は次の作業を行います。

- 必要なフィルタが割り当てられた修復ポリシーを作成し、感染したデバイスを修復するために必要なソフトウェアが保管されている **HP Client Automation Server** に対するトラフィックがブロックの対象から除外されるようにします。
- ネットワーク上のすべての **vPro** デバイスに対して、ポリシーの有効化、アクティブ化、配布を実行します。
- デバイスの修復が完了したら、ポリシーを無効化します。

ポリシーを作成、配布、アクティブ化すると、**vPro** デバイスは、パケットを検査し、修復ポリシーに関連付けられたフィルタに指定されているアクションを実行します。この例のフィルタは、フィルタに指定された IP アドレスと一致する IP アドレスを持つデバイスから受信した (またはそのデバイスに送信された) **TCP** および **UDP** パケットをすべて通過させます。この例では、**HP Client Automation Server** の IP アドレスがフィルタに指定されています。その他のパケットは、修復ポリシーのデフォルトのアクション (パケットを遮断する) に基づいて遮断されます。

使用ケースで実行する手順

修復ポリシーに割り当てる 4 つのフィルタを作成します。次の手順を、作成する各フィルタについて 1 回ずつ、計 4 回実行してください。

修復フィルタを作成するには

- 1 **[設定]** タブの、左側のナビゲーションメニューにある **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[フィルタ]** をクリックします。**[フィルタ]** ウィンドウが表示されます。
- 2 ツールバーの **+** 追加アイコンをクリックします。システム防御フィルタ ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックして続行します。**[フィルタの詳細]** ウィンドウが表示されます。作成する各フィルタについて、次の項目を指定します。

表 19 改善フィルタ

フィルタ名	フィルタタイプ	フィルタ一致時にイベントを作成
PassTCP_Recv	パス	はい
PassTCP_Xmit	パス	はい
PassUDP_Recv	パス	はい
PassUDP_Xmit	パス	はい

- 4 **[次へ]** をクリックします。**[パラメータ]** ウィンドウが表示されます。作成する各フィルタについて、次の項目を指定します。

表 20 改善フィルタ

フィルタ名	パケットタイプ	次のプロトコル	フィルタモード	ネットワークアドレス
PassTCP_Recv	IP パケット (IPv4)	TCP	受信	デバイス : 192.168.5.12
PassTCP_Xmit	IP パケット (IPv4)	TCP	送信	デバイス : 192.168.5.12
PassUDP_Recv	IP パケット (IPv4)	UDP	受信	デバイス : 192.168.5.12
PassUDP_Xmit	IP パケット (IPv4)	UDP	送信	デバイス : 192.168.5.12

- 5 **[次へ]**、**[閉じる]** の順にクリックします。



1 つのデバイスではなく、1 つの特定のサブネットとの間でやり取りされるトラフィックを通過させ、その他のすべてのトラフィックを遮断するフィルタを作成することもできます。このようなフィルタは、単一のサブネットに複数の修復用サーバーが配置されている場合に便利です。

詳細については、54 ページの [システム防御フィルタの管理](#) を参照してください。

修復ポリシーを作成するには

- 1 **[設定]** タブの、左側のナビゲーションメニューにある **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ポリシー]** をクリックします。**[ポリシー]** ウィンドウが表示されます。
- 2 ツールバーの **+** 追加アイコンをクリックします。システム防御ポリシー ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックして続行します。**[ポリシーの詳細]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **ポリシー名:** 「Remediation」を入力します。
 - **優先度:** 「98」を入力します。
 - **偽装対策フィルタの有効化:** **[はい]** を選択します。
 - **デフォルトの受信 (Rx) フィルタタイプ:** **[ドロップ]** を選択します。

- デフォルトの転送(Tx)フィルタ タイプ:[ドロップ]を選択します。
- 4 [次へ]をクリックして、使用可能なすべてのフィルタを確認します。
- 5 PassTCP_Recv、PassTCP_Xmit、PassUDP_Recv、PassUDP_Xmit の各フィルタを [ポリシーに割り当てるフィルタ]一覧にドラッグします。
- 6 [ポリシーの追加]をクリックします。

詳細については、57 ページのシステム防御ポリシーの管理を参照してください。

vPro デバイスに対して修復ポリシーを有効化、アクティブ化、配布するには

使用ケースウイルス感染の検出と検疫の125 ページのvPro デバイスに対して検疫ポリシーを有効化、アクティブ化、配布するにはで説明した手順を実行します。この例では、Remediation (改善) ポリシーを選択します。

vPro デバイスの Remediation ポリシーを非アクティブ化するには

使用ケースウイルス感染の検出と検疫の125 ページのvPro デバイスの検疫ポリシーを非アクティブ化するにはで説明した手順を実行します。この例では、Remediation (改善) ポリシーを選択します。

基幹ソフトウェアの監視

この使用ケースは、次の2つのセクションに分けられます。

- 概要
- 使用ケースで実行する手順

概要

vPro デバイスに OOBM エージェントをインストールして起動し、一連のセキュリティ関連アプリケーションを監視していますが、監視対象のセキュリティアプリケーションが停止すると、ウォッチドッグへの OOBM エージェントからのハートビート送信も停止します。このような遷移状態に入ると、ウォッチドッグは、そのウォッチドッグの作成時に管理者によって指定されたアクションを実行します。この例では、ウォッチドッグがイベントを生成し、エージェント存在ポリシーを有効化します。

通常、このようなシナリオは、ユーザーが、パフォーマンスの低下を防ぐためにウイルス対策ソフトウェアを無効にしたときに発生します。セキュリティ管理者は、ウイルス対策ソフトウェアが実行されていない PC を社内ネットワークから除外するポリシーを実施する必要があります。

管理者は次の作業を行います。

- vPro デバイスのイベント警告通知を予約します。
- OOBM エージェント障害発生時に vPro デバイスを分離するシステム防御ポリシーを定義し、エージェント存在ポリシーとして設定します。
- ウォッチドッグを作成し、そのアクションを指定します。
- エージェント存在ポリシーとウォッチドッグを vPro デバイスに配布します。
- OOBM エージェントの設定を管理し、その設定を vPro デバイスに配布します。
- vPro ホスト オペレーティング システムに OOBM エージェントをインストールします (OOBM エージェントはインストーラによって自動的に起動されます)。
- イベント警告が送信されたら、セキュリティプロセスを再起動します。

OOBM エージェントを vPro デバイスにインストールして起動すると、その OOBM エージェントはウォッチドッグに登録され、定義済みの間隔でウォッチドッグにハートビートの送信を開始します。エージェントで障害が発生すると、エージェントはウォッチドッグへのハートビートの送信を停止します。ウォッチドッグはイベントを生成し、配布済みのエージェント存在ポリシーを有効化します。エージェント存在ポリシーは、他のポリシーより優先度が高いため、アクティブなポリシーになります。エージェント存在ポリシーがアクティブ化されると、vPro デバイスはパケットを検査し、エージェント存在ポリシーに関連付けられたフィルタに指定されたアクションを実行します。管理者は、改善作業(すなわち OOBM エージェントが監視していたセキュリティ ソフトウェアの再起動)を行います。セキュリティ ソフトウェアが再起動されると、OOBM エージェントは、ウォッチドッグに再登録され、ウォッチドッグへのハートビートの送信を開始します。ウォッチドッグはエージェント存在ポリシーを無効化します。そして、有効化されているシステム防御ポリシーのうち、他のポリシーより高い優先度をもつものが、次のアクティブなポリシーになります。

使用ケースで実行する手順

vPro デバイスのイベント フィルタを表示するには

- 1 **[操作]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理]** の下で、**[デバイス管理]** をクリックします。**[デバイス管理]** ウィンドウが表示されます。
- 2 イベント フィルタを表示する vPro デバイスの **[ホスト名]** リンクをクリックします。
- 3 ウィンドウ左側の **[診断]** セクションの **[イベント フィルタ]** リンクをクリックします。選択した vPro デバイス上に存在するデフォルトのイベント フィルタが、コンソールの内容領域に表示されます。
- 4 各イベント フィルタの **[名前]** リンクをクリックして、エージェントの障害を検出し管理コンソールに警告を送信するイベント フィルタを確定します。

詳細については、87 ページの **vPro イベント フィルタの表示** を参照してください。

vPro デバイスのイベント警告通知を予約するには

使用ケースハードウェアの障害と置換の **vPro デバイスのイベント警告通知** を予約するにはで説明した手順を実行します。

エージェント存在ポリシーに関連付けるフィルタを作成するには


- 1 **[設定]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理]** > **[vPro システム保護の設定]** の下で、**[フィルタ]** をクリックします。**[フィルタ]** ウィンドウが表示されます。
- 2 ツールバーの **+** 追加アイコンをクリックします。システム防御フィルタ ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックして続行します。**[フィルタの詳細]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **フィルタ名:** 「PreventInfection」を入力します。
 - **フィルタ タイプ:** **[ドロッパ]** を選択します。
 - **フィルタ一致時にイベントを作成:** **[はい]** を選択します。
- 4 **[次へ]** をクリックします。**[パラメータ]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **パケット タイプ:** **[TCP]** を選択します。
 - **フィルタ モードまたは方向:** **[受信]** を選択します。
 - **ネットワーク アドレス:** **[ネットワークからのパケットをフィルタ]** を選択します。

- **ポートの範囲:** **[接続先ポートの範囲]** を選択します。**[最小のポート]** と **[最大のポート]** の値にそれぞれ、「1」と「65535」を入力します。これは、vPro デバイス上のポートを表します。ネットワーク上のすべてのデバイス上のすべての送信元ポートから、この vPro デバイス上のすべての宛先ポートへのパケットをブロックして、この vPro デバイスへの感染を防ぎます。

5 **[次へ]**、**[閉じる]** の順にクリックします。


詳細については、54 ページの**システム防御フィルタの管理**を参照してください。

エージェント存在ポリシーを作成するには

- 1 **[設定]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ポリシー]** をクリックします。**[ポリシー]** ウィンドウが表示されます。
- 2 ツールバーの  追加アイコンをクリックします。システム防御ポリシー ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックして続行します。**[ポリシーの詳細]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **ポリシー名:** 「**PreventInfection**」を入力します。
 - **優先度:** 「**99**」を入力します。
 - **偽装対策フィルタの有効化:** **[はい]** を選択します。
 - **デフォルトの受信 (Rx) フィルタ タイプ:** **[パス]** を選択します。
 - **デフォルトの転送 (Tx) フィルタ タイプ:** **[パス]** を選択します。
- 4 **[次へ]** をクリックして、使用可能なすべてのフィルタを確認します。
- 5 PreventInfection フィルタを **[ポリシーに割り当てるフィルタ]** 一覧にドラッグします。
- 6 **[ポリシーの追加]** をクリックします。

詳細については、57 ページの**システム防御ポリシーの管理**を参照してください。


エージェント存在ポリシーを vPro デバイスに設定および配布します。

- 1 **[設定]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ポリシー]** をクリックします。**[ポリシー]** ウィンドウが表示されます。
- 2 PreventInfection ポリシーの横のチェック ボックスをオンにします。
- 3 ツールバーの  配布アイコンをクリックします。ポリシー配布ウィザードが表示されます。
- 4 **[次へ]** をクリックして続行します。**[デバイスの選択]** ウィンドウが表示されます。
- 5 OOBM エージェントを実行する vPro デバイスの横にあるチェック ボックスをオンにします。
- 6 **[次へ]** をクリックします。**[ポリシーの設定]** ウィンドウが表示されます。
- 7 有線 NIC のエージェント存在ポリシーとして **PreventInfection** ポリシーを選択します。これにより、PreventInfection ポリシーが、vPro デバイスのエージェント存在ポリシーとして設定されます。このポリシーは、OOBM エージェントがウォッチドッグへのハートビート送信を停止すると、そのウォッチドッグによって有効化されます。このエージェント存在ポリシーには、作成時に最高の優先度 (99) を指定してあるため、このポリシーがウォッチドッグによって有効化されると、アクティブなポリシーになります。
- 8 ウィザードの残りの手順を実行します。

詳細については、57 ページの**システム防御ポリシーの管理**を参照してください。


ウォッチドッグを作成するには

- 1 **[設定]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ウォッチドッグ]** をクリックします。**[ウォッチドッグ]** ウィンドウが表示されます。

- 2 ウォッチドッグを作成するには、 追加アイコンをクリックします。ウォッチドッグ ウィザードが開きます。
- 3 **[次へ]** をクリックして続行します。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **エージェントタイプ:** **[OOBM エージェント]** を選択します。
 - **名前:** 「AlphaWatchdog」を入力します。
 - **エージェント GUID:** OOBM エージェントの GUID はわかっているため、OOBM エージェントの場合、このフィールドはグレー表示になります。
 - **ハートビート間隔:** 提示されたデフォルト値を受け入れます。
 - **起動間隔:** 提示されたデフォルト値を受け入れます。
- 4 **[次へ]** をクリックします。ウィザードの [ウォッチドッグ アクション] ページが表示されます。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **遷移状態:**
 - 初期状態:** **[エージェントは実行中です]** を選択します。
 - 最終状態:** **[エージェントが停止しています]** を選択します。
 - **アクション:**
 - [エージェント存在]** の場合は、**[有効化]** を選択すると、エージェントが指定済みの遷移状態に入ったときエージェント存在ポリシーが有効化されます。
 - [イベント生成]** の場合は、**[有効化]** を選択すると、エージェントが指定済みの遷移状態に入ったときイベントが生成されます。
- 5 **[アクションの追加]** をクリックします。ウィンドウ下部のアクション テーブルにアクションが追加されます。
- 6 新しい遷移状態のアクションを追加します。ここでは、このウィンドウで次のように指定します。
 - **遷移状態:**
 - 初期状態:** **[エージェントが停止しています]** を選択します。
 - 最終状態:** **[エージェントは実行中です]** を選択します。
 - **アクション:**
 - [エージェント存在]** の場合は、**[無効化]** を選択すると、エージェントが指定済みの遷移状態に入ったとき、エージェント存在ポリシーが無効化されます。
 - [イベント生成]** の場合は、**[有効化]** を選択すると、エージェントが指定済みの遷移状態に入ったときイベントが生成されます。
- 7 **[アクションの追加]** をクリックします。ウィンドウ下部のアクション テーブルにアクションが追加されます。
- 8 ウィザードの残りの手順を実行します。

詳細については、64 ページの [ウォッチドッグの管理](#) を参照してください。


vPro デバイスにウォッチドッグを配布するには

- 1 **[設定]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ウォッチドッグ]** をクリックします。[ウォッチドッグ] ウィンドウが表示されます。
- 2 AlphaWatchdog の横のチェック ボックスをオンにします。
- 3 ツールバーの  ウォッチドッグ配布アイコンをクリックします。ウォッチドッグ配布ウィザードが表示されます。
- 4 **[次へ]** をクリックして続行します。[デバイスの選択] ウィンドウが表示されます。
- 5 OOBM エージェントを実行する vPro デバイスの横にあるチェック ボックスをオンにします。

6 ウィザードの残りの手順を実行します。


詳細については、64 ページの [ウォッチドッグの管理](#) を参照してください。

システム メッセージおよびソフトウェア リストを設定するには

- 1 **[設定]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ウォッチドッグ]** をクリックします。[ウォッチドッグ] ウィンドウが表示されます。
- 2  **OOBM** エージェント設定アイコンをクリックします。[ソフトウェア リスト] ダイアログが表示されます。
- 3 **[システム メッセージ]** テキスト ボックスに入力されているデフォルトのメッセージを受け入れます。
- 4 **[ソフトウェア名]** ボックスに「**symantec.exe**」と入力します。
- 5 **[追加]** をクリックします。このプロセスを繰り返して、**OOBM** エージェントに監視させるソフトウェア アプリケーションのリストを作成できます。
- 6 **[保存]** をクリックします。情報メッセージが画面に表示されます。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ダイアログを終了します。システム メッセージおよびエージェントソフトウェア リストは **XML** リポジトリに格納されます。

詳細については、68 ページの [システム メッセージおよびソフトウェア リストを設定するには](#) を参照してください。

システム メッセージとソフトウェア リストを配布するには

- 1 **[設定]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ウォッチドッグ]** をクリックします。[ウォッチドッグ] ウィンドウが表示されます。
- 2 ツールバーの  ソフトウェア リストとシステム メッセージの配布アイコンをクリックします。これで、ソフトウェア配布ウィザード開始されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[ソフトウェア タイトル] ウィンドウが表示されます。
- 4 **[symantec.exe]** アプリケーションを選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[デバイス] ウィンドウが表示されます。
- 6 **OOBM** エージェントを実行する **vPro** デバイスの横にあるチェック ボックスをオンにします。
- 7 **[次へ]** をクリックして、ウィザードの残りの手順を実行します。

詳細については、68 ページの [システム メッセージとソフトウェア リストを配布するには](#) を参照してください。

OOBM エージェントを vPro デバイスにインストールして起動するには

- 1 **HPCA Core** 配布メディアの `Media\oobm\win32\LocalAgent` ディレクトリにある `oobmcllocalagent.msi` ファイルを **vPro** デバイスにコピーします。コピーしたファイルをダブル クリックします。または、配布メディア上の上記と同じディレクトリにある `setup.cmd` ファイルを **vPro** デバイスにコピーします。**setup** ファイルをダブルクリックするか、またはコマンド ラインに「`setup.cmd`」と入力します。`setup.cmd` ファイルによって、`oobmcllocalagent.msi` ファイルが呼び出されます。
- 2 **[次へ]** をクリックして、ライセンス契約に同意します。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[リモート設定パラメータ] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **SCS 設定クライアント ユーザー名:** ユーザーのユーザー名と設定クライアントのロールを入力します。例では、「**SCSUser@vlan1.hp.com**」と入力しています。

SCS 設定クライアント パスワード: `SCSUser` のパスワードを入力します。このロールの詳細については、26 ページの [設定クライアント ロール](#) を参照してください。

- **SCS プロファイル ID:** vPro デバイスのプロファイル ID を入力します。この情報は、SCS Console の [プロファイル] 領域に表示されます。
 - **SCS リモート設定 URL:** Intel SCS (Setup and Configuration Service) Web サービスリの仮想ディレクトリの入った URL パスを入力します。例では、「**https://provisionserver.vlan1.hp.com/amtscs_rcfg**」と入力しています。ここで、**provisionserver.vlan1.hp.com** は、IIS ホスト マシンの完全修飾ドメイン名 (FQDN)、**amtscs_rcfg** は、ホスト マシン上の SCS Web サービス仮想ディレクトリです。
- 4 **[次へ]** をクリックします。[ユーザー情報] ウィンドウが開き、vPro 管理者認証情報を入力できます。このウィンドウ内で次を指定します。
- **ユーザー名:** 管理者の vPro ユーザー名を入力します。
 - **パスワード:** 管理者の vPro パスワードを入力します。
 - この使用ケースでは、vPro デバイスを TLS モードでプロビジョニングしないため、**[TLS モード]** チェック ボックスはオフにします。
- 5 **[次へ]** をクリックして、インストール ウィザードの残りの手順を実行します。

詳細については、26 ページの **OOBM エージェントのインストール** を参照してください。

OOBM エージェントは NT サービスであり、インストールが完了次第、開始されます。



ソフトウェア リストに登録されているアプリケーションのうち、OOBM エージェントの監視対象となるアプリケーションはすべて、OOBM エージェントの起動時に実行状態である必要があります。監視対象のアプリケーションが実行されていないと、ウォッチドッグは、起動後すぐに、OOBM エージェントによってシャット ダウンされてしまいます。

エージェント存在ポリシーを vPro デバイスでアクティブ化するには

ウォッチドッグの作成時に、実行中から停止への遷移状態に入ったときのアクションとしてこのアクションを指定したため、エージェント存在ポリシーは、ウォッチドッグによって自動的に有効化されます。

システム防御ポリシーを作成し、エージェント存在ポリシーとして設定したとき、エージェント存在ポリシーの優先度を 99 に設定してあるため、エージェント存在ポリシーの優先度は現在のアクティブなシステム防御ポリシーよりも高くなり、自動的にアクティブなポリシーになります。

警告を送信するには

ウォッチドッグの作成時に、実行中から停止への遷移状態に入ったときのアクションとして、イベントの生成を指定したため、ウォッチドッグによってイベントが自動的に生成されます。

このタイプのイベントのデフォルトのイベントフィルタには、イベントのログへの記録と警告の送信の両方が指定されているため、vPro デバイスの警告通知を予約していれば、イベント警告は自動的に管理コンソールに送信されます。

このケースでは、OOBM エージェントが実行されている vPro デバイスのイベント警告通知を予約しているため、イベントフィルタの警告の送信先は既知となり、警告が管理コンソールに送信されるようになります。

警告を表示するには

使用ケース **ハードウェアの障害と置換** の 122 ページの **警告を表示するには** で説明した手順を実行します。このケースでは、OOBM エージェントの障害によって発生したイベント警告を探します。

セキュリティ プロセスを再起動するには

コマンドラインにコマンドを入力するか、実行可能ファイルをダブルクリックして、セキュリティアプリケーションを起動します。

エージェント存在ポリシーを vPro デバイスで非アクティブ化するには

OOBM エージェントがウォッチドッグに対するハートビートの送信を再開すると、ウォッチドッグは、停止から実行中への遷移状態に対応する定義済みアクションに基づいてエージェント存在ポリシーを自動的に無効化し、有効化されているシステム防御ポリシーのうち、他のポリシーより高い優先度をもつものが、新しいアクティブなポリシーになります。

ワームの感染と封じ込め

この使用ケースは、次の 2 つのセクションに分けられます。

- 概要
- 使用ケースで実行する手順

概要

ファイアウォールと侵入検知システムはすでにネットワーク上に配置されていますが、こうした仕組みが効力を発揮するのは既知のワームに対してのみであり、ゼロデイのワームの突発的大発生に対しては効果がないことを管理者は認識しています。こうした突発的大発生からネットワークを保護するには、ヒューリスティックによるワーム封じ込めシステムが必要です。

管理者は次の作業を行います。

- vPro デバイスのイベント警告通知を予約します。
- 封じ込めアクションを起動するしきい値 (パケット数) とウィンドウ サイズ (時間) を定義するヒューリスティック仕様を作成します。
- しきい値とウィンドウ サイズに基づいて、vPro チップに組み込まれている **Heuristics Rules Engine** がワーム大流行の可能性を示すネットワーク トラフィックを検出した場合のアクションを指定します。
- 封じ込めアクションの実効期間のタイムアウト値を指定します。
- 脆弱な vPro デバイスに対してヒューリスティック仕様を配布します。
- 突発的大流行の可能性が警告された場合に必要な修復タスクを実行します。

ヒューリスティック情報を vPro デバイスに配布すると、**Heuristics Rules Engine** によって、パケット数と更新回数がカウントされます。カウンタの値がヒューリスティック条件を満たすと、管理者の指定したアクションが起動されます。この使用ケースでは、イベントを生成し、攻撃元ポートの送信トラフィックをブロックします。ヒューリスティック条件が満たされると常に、vPro チップに組み込まれている **Event Manager** によってイベントが生成されます。この使用ケースでは、vPro デバイスのイベント フィルタに、このタイプのイベントに対応するエントリが定義されており、そのエントリでイベント警告が有効化されているものとします。


問題のデバイスがネットワークから分離されたら、管理者は、vPro デバイスの復元に必要な修復タスクを実行します。ヒューリスティック アクションの有効期間は、タイムアウト値に指定された期間です。タイムアウト値に指定された時間が経過すると、ヒューリスティック アクションは解除され、**Heuristics Rules Engine** がトラフィック フローの検査を再開します。

使用ケースで実行する手順

vPro デバイスのイベント警告通知を予約するには


使用ケースハードウェアの障害と置換の122 ページのvPro デバイスのイベント警告通知を予約するにはで説明した手順を実行します。

ヒューリスティック仕様を作成するには

- 1 **[設定]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ヒューリスティック]** をクリックします。**[ヒューリスティック]** ウィンドウが表示されます。
- 2  追加アイコンをクリックして、新しいヒューリスティック情報を作成します。ヒューリスティック ウィザードが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックして続行します。**[ヒューリスティックの詳細]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内で次を指定します。
 - **設定タイプ:** **[デフォルト]** を選択します。
 - **パラメータ**
 - **名前:** 「Zero_Worm」と入力します。
 - **高速パケットの総数:** デフォルト値の 8 を受け入れます。
 - **高速期間の総数:** デフォルト値の 10 を受け入れます。
 - **低速パケットの総数:** デフォルト値の 64 を受け入れます。
 - **低速期間の総数:** デフォルト値の 50 秒 (50000 ミリ秒) を受け入れます。
 - **タイムアウト発生:** 「50」 (秒) と入力します。
詳細については、[175 ページのウィンドウ サイズとしきい値および176 ページの封じ込めアクションとタイムアウト値](#)を参照してください。
 - **アクション**
 - **TX トラフィックのブロック:** プルダウン リストから、**[攻撃ポートのみ]** を選択します。
 - **ポリシー**
 - **ポリシー名:** このケースでは、ヒューリスティック条件が満たされたとき、システム防御フィルタを有効化しないようにするため、プルダウン リストからポリシー名を選択しません。
- 4 **[次へ]** をクリックします。操作のステータスが表示されます。
- 5 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。ヒューリスティック テーブルに新しいヒューリスティック情報が表示されます。この情報はリポジトリに追加されます。

詳細については、[61 ページのヒューリスティック情報の管理](#)を参照してください。

ヒューリスティック仕様を配布するには

- 1 **[設定]** タブの、左側のナビゲーション メニューにある **[アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定]** の下で、**[ヒューリスティック]** をクリックします。**[ヒューリスティック]** ウィンドウが表示されます。
- 2 Zero_Worm ヒューリスティック仕様の横のチェック ボックスをオンにします。
- 3 ツールバーの  ヒューリスティック配布アイコンをクリックします。ヒューリスティック ウィザードが表示されます。
- 4 **[次へ]** をクリックして続行します。**[デバイスの選択]** ウィンドウが表示されます。
- 5 ヒューリスティック情報の配布先の各デバイスの横にあるボックスをオンにします。
- 6 **[次へ]** をクリックします。**[ヒューリスティック設定]** ウィンドウが表示されます。
- 7 選択したデバイスの有線/無線の両ネットワーク インターフェイスについて、Zero_Worm ヒューリスティック仕様を選択します。
- 8 **[次へ]** をクリックします。**[要約の確認]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内の情報を確認します。
- 9 **[次へ]** をクリックして配布プロセスを続行します。**[結果]** ウィンドウに操作結果が表示されます。

10 **【閉じる】** をクリックして、ウィザードを終了します。

詳細については、61 ページの [ヒューリスティック情報の管理](#) を参照してください。

警告を表示するには

使用ケースハードウェアの障害と置換の122 ページの [警告を表示するには](#) で説明した手順を実行します。このケースでは、**Heuristics Rules engine** によって生成されたイベント警告を探します。

9 トラブルシューティング

この章では、HPCA コンソールのアウトバンド管理機能の使用時に起こりうる最も一般的な問題のデバッグに関する情報を一般的な問題に掲載しています。

また、OOBM データが破損した場合や製品の再インストールが必要になった場合に備えるバックアップの最善実践について、164 ページのOOBM データのバックアップで説明します。

アウトバンド管理の通信に使用するポートの要件を165 ページのポート情報の要約にまとめてあります。

さらに、HP サポートに連絡する前に答えを用意しておく必要がある質問のチェックリストを166 ページの質問チェックリストに掲載しています。

一般的な問題

一般的に問題の発生時には、まず `<InstallDir>%tomcat%logs` ディレクトリ (HPCA をデフォルトの場所にインストールした場合) にあるログ ファイルを確認することをお勧めします。ログ ファイルには、HPCA コンソールからのすべての出力が含まれています。

また、エージェントに関連した問題の場合は、vPro クライアント デバイスのイベント ビューア ([スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [管理ツール] > [イベント ビューア]) を開きます。

このセクションでは、次の領域のトラブルシューティングについて取り上げます。

- 全般
- プロビジョニング
- 探索
- リモート操作
- 電源状態
- 再起動
- システム防御およびエージェント存在
- 無線
- 移行の問題

全般

vPro デバイス タイプの選択時に HPCA コンソールがハングアップする

表 21

考えられる原因	解決策
CPU 使用率が過度に高いため (Tomcat が CPU の 100% を使用)、SCS サービスが Out of Band Management Service との通信に失敗しました。	この問題が持続する場合は、HPCA Tomcat Server を再起動します。

1 つのデバイス コンソールの場所に表示されるエラー ページがクリアされないエラー

表 22 エラー ページがクリアされない

考えられる原因	解決策
Internet Explorer ブラウザのキャッシュがクリアされていません。Internet Explorer が再び開くまで、1 つのデバイス コンソールに表示されるエラー ページがクリアされない場合があります。	Internet Explorer のキャッシュを手動でクリアします。

HPCA コンソールでキーボードと電源ボタンをロックしない設定にしているのに、実際にはロックされている

表 23 フロント パネルのロック動作の問題

考えられる原因	解決策
ロック動作は、vPro デバイスで動作している BIOS のバージョンにより異なります。一部のバージョンでは、デフォルトで電源ボタンとキーボードがロックされています。	ユーザーが BIOS の設定を変更できるデバイスもあります。設定変更可能な BIOS のバージョンについては、デバイスのドキュメントを参照してください。

有線 NIC を使用して vPro デバイスに接続できない

表 24 有線 NIC を使用した vPro デバイスの接続問題

考えられる原因	解決策
次の原因が考えられます。 1 vPro デバイスがネットワークから削除されている。 2 vPro デバイス用の Web サービスが使用中である。	この場合、対象のデバイスを選択して、HPCA コンソールの Web サービス リクエストが vPro デバイスから再び取得されるように数秒待った後に、リポジトリ アイコンの [リフレッシュ] を使用して HPCA コンソール画面をリフレッシュします。

HPCA コンソールの使用時にタイムアウトが発生する

表 25 HPCA コンソールのタイムアウト

考えられる原因	解決策
ネットワーク トラフィックが低速になっています。	タイムアウト期間を設定し直します。詳細については、34 ページの IDE-R および SOL タイムアウト値の設定を参照してください。

OOBM デバイス管理画面の警告のサブスクリプションステータスが誤っている

表 26 誤った警告のサブスクリプションステータス

考えられる原因	解決策
この問題は、OOBM のサードパーティの依存関係が原因です。 HPCA が Windows Server 2008 にインストールされている場合、警告のサブスクリプション操作は正常に行われますが、[ステータス] カラムに誤ってレポートされます。それが原因で、[操作]>[アウトバンド管理]>[デバイス管理]>[警告の予約]を選択して、vPro デバイスで警告の予約操作を実行すると、エラーが発生します。	この問題に対する回避策はありません。

コンソールが長時間アイドル状態にあった後に [アウトバンド管理デバイスの詳細] ウィンドウにアクセスすると、ログイン画面に戻る。

表 27 アイドル時間が長いと、ログイン画面に戻る

考えられる原因	解決策
データベースへのアクセスに関連した問題です。	ブラウザを閉じてから、新しいブラウザのセッションで HPCA コンソールに再ログインします。

[デバイス タイプの選択] ウィンドウで vPro デバイスを管理しているときに、SCS のプロパティを保存できない

表 28 SCS へのログインで検証されるドメイン名

考えられる原因	解決策
SCS ログインに対して、ユーザー名がドメイン名 ¥ユーザー名 の形式で指定されていません。現在、この形式が必要とされ、この形式で認証が行われます。以前のリリースの OOBM では、ログイン名のドメイン名部分は無視されていました。その結果、正しくないドメイン名を入力しても受け付けられたように見えました。また、以前のリリースの OOBM では、例として示されたログインユーザー名 (provisionserver.yourenterprise.com¥Administrator) が正しくありませんでしたが、OOBM がドメイン名を無視するため動作していました。	SCS のプロパティを保存するには、ログインユーザー名を正しいドメイン名 ¥ユーザー名 の形式で指定する必要があります。

DASH の認証情報の変更後に DASH デバイスにアクセスできない

表 29 DASH 認証情報の変更時の問題

考えられる原因	解決策
正しく動作しないのは、以前の認証情報がキャッシュされているためです。	DASH デバイスの認証情報を変更した場合は、Tomcat サービスを再起動して変更内容を有効化する必要があります。

vPro デバイスと SCS リポジトリの同期に長時間かかる

表 30 vPro と SCS の同期の問題

考えられる原因	解決策
利用可能な vPro デバイスのリストを特定するには、いくつかの Web サービスの呼び出しが行われます。利用不可能なシステムの数、または現在のネットワーク経路指定の問題により、呼び出しには数分かかる場合があります。	Web サービスのタイムアウト値を減らすことでパフォーマンスを改善できます。ただし、タイムアウト値を減らすと、いくつかの利用可能なマシンにアクセスできなくなったり、電源や配布などのその他の操作を完了できなくなる可能性があります。

正しい vPro デバイスにアクセスできない

表 31 vPro アクセスの問題

考えられる原因	解決策
IP アドレスの競合問題が発生しています。複数の vPro デバイスに同じ IP アドレスが割り当てられている可能性があります。	IP アドレスは一意である必要があります。ネットワーク管理者に連絡して、この問題を解決してください。

SOL 操作で、ハイパーターミナルにテキストが正しく表示されない

表 32 ハイパーターミナルのテキスト表示の問題

考えられる原因	解決策
ハイパーターミナルの [右端で折り返す] オプションが有効になっている可能性があります。	ハイパーターミナルを開きます。[ファイル] から [プロパティ] を開きます。[設定] タブを選択します。[ASCII 設定] をクリックします。[ASCII 設定] ウィンドウで、[右端で折り返す] オプションをオフにします。


OOB デバイスへのソフトウェア リストの配布によって、TLS モードにネットワーク エラー 26 が発生する

表 33 ソフトウェア リストの配布による TLS モードでのネットワーク エラーの発生

考えられる原因	解決策
HP Client Automation がインストールされたマシンのクライアント証明書が正しく設定されていません。 OOB デバイスへのソフトウェア リストの配布によって、TLS モードにネットワーク エラー 26 が発生します。このため、[操作] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > [ソフトウェア リストの配布] を選択してソフトウェア リストの配布操作を実行するとエラーが発生します。	HP Client Automation がインストールされたマシンにクライアント証明書をインストールし、config.properties ファイルの「ca_server_commonname」プロパティの値に証明書の件名を指定してください。

管理対象の vPro デバイスに対して読み取り/書き込み操作ができない

表 34 メモリの書き換え回数制限の例外エラー

考えられる原因	解決策
vPro ストレージのフラッシュ メモリの書き換え回数が制限値を超過しました。 同じ vPro デバイスに対して読み取り / 書き込みアクセスを何度も繰り返すと、フラッシュ メモリの消耗保護メカニズムが働き、メモリの書き換え回数制限の例外エラーが発生する場合があります。カウンタが 200 に達すると、vPro デバイスはこれ以上の書き込み操作を受け付けません。	 共通ユーティリティ アイコンのプルダウンメニューから、[フラッシュ制限のリセット] オプションを使用します。詳細については、78 ページの共通ユーティリティの管理を参照してください。

OOBM と SCS の I18N の問題

表 35 SCS の I18N の問題

考えられる原因	解決策
<p>ハードウェア BIOS や Intel SCS などの、基本となるコンポーネントや技術への依存関係。</p> <p>HPCA コンソールは、英語以外のオペレーティングシステムにもインストールできますが、ハードウェア BIOS や Intel SCS などの、基本となるコンポーネントや技術への依存関係からいくつかの制約があります。その結果、フィルタ、ウォッチドッグ、ポリシーなどユーザーが定義したアイテムのいくつかについては、[設定]>[アウトバンド管理]>[vPro システム保護の設定]を選択して英語以外の名前を入力することができません。BIOS セットアップ用の SOL コンソールは、サポートされる文字セットについてのみ機能します。同様に、その他の機能でも、英語以外のロケールでは期待通りには機能しないものがあります。数値、日付、時刻は、英語以外のオペレーティングシステムのロケールでは表示されません。</p>	<p>この問題に対する回避策はありません。</p>


OOBM 機能の日本語ロケールで、英語のパス区切り文字が表示される

表 36 英語以外のロケールで英語のパス区切り文字が表示される

考えられる原因	解決策
<p>基盤の Intel SCS コンポーネントの制限です。</p> <p>HPCA コンソールには、日本語ロケールで英語のパス区切り文字が表示されます。この問題は、OOBM 機能でのみ発生します。</p>	<p>この問題に対する回避策はありません。</p>

管理対象の vPro デバイスに対して読み取り/書き込み操作ができない

表 37 メモリの書き換え回数制限の例外エラー

考えられる原因	解決策
<p>vPro ストレージのフラッシュメモリの書き換え回数が制限値を超過しました。</p> <p>同じ vPro デバイスに対して読み取り / 書き込みアクセスを何度も繰り返すと、フラッシュメモリの消耗保護メカニズムが働き、メモリの書き換え回数制限の例外エラーが発生する場合があります。カウンタが 200 に達すると、vPro デバイスはこれ以上の書き込み操作を受け付けません。</p>	<p> 共通ユーティリティ アイコンのプルダウンメニューから、[フラッシュ制限のリセット] オプションを使用します。詳細については、78 ページの 共通ユーティリティの管理 を参照してください。</p>

vPro 操作の実行中にエラーが発生

表 38 vPro 操作の失敗

考えられる原因	解決策
無許可ユーザーの拒否またはアクセスの拒否などのエラーが vPro 操作中に発生しました。	SCS プロファイルで適切な領域を有効にします。

DASH 操作の実行中にエラーが発生

表 39 DASH 操作の失敗

考えられる原因	解決策
無許可ユーザーの拒否またはアクセスの拒否などのエラーが DASH 操作中に発生しました。	ユーザーは、この操作の実行権限を持つ必要があります。

プロビジョニング

プロビジョニング済みの vPro デバイスのステータスが、[vPro プロビジョニング] タブの [デバイス リスト] テーブルでプロビジョニング済みとして表示されない

表 40 vPro ステータスの表示の問題

考えられる原因	解決策
テーブルが最新の情報でリフレッシュされていません。	Active Directory の探索機能を使用してデバイスを再探索します。この操作を行うと、デバイスのステータスが更新されます。

SCS 5.0 で、AMT ファームウェアのバージョンが 4.0 以前の vPro デバイスのプロビジョニング時に ACL を設定できない

表 41 vPro デバイスの ACL 設定の問題

考えられる原因	解決策
AMT ファームウェアのバージョンが 4.0 以前の vPro デバイスのプロファイルの作成時に、すべての領域が選択されています。	以前のバージョンの AMT ファームウェアのデバイスについては、別のプロファイルを作成します。このプロファイルでは、[リダイレクション]、[PT 管理]、[ハードウェア資産]、[リモート制御]、[回路ブレーカ]、[ネットワーク時間]、[全般情報]、および [ファームウェアの更新] 領域のみを選択してください。

vPro デバイスのプロビジョニング時に、コンソールで SCS エラーが発生する

表 42 vPro デバイスのプロビジョニング時の SCS エラー

考えられる原因	解決策
Intel SCS から内部エラーが返されました。 HPCA コンソールを使用して vPro デバイスをプロビジョニングしようとする場合、コンソールに SCS エラーが発生する (エラーを知らせる以外、何も情報が無いエラーメッセージが表示される) 場合があります。	このエラーは無害であり、無視できます。プロビジョニング操作は vPro デバイス上で正常に開始されています。一定時間の経過後に操作の結果を検証して正常に開始されたことを確認できます。

vPro デバイスのプロビジョニングを複数回行うと、コンソールがログイン画面に戻る

表 43 プロビジョニングが原因でログイン画面に戻る

考えられる原因	解決策
データベースへのアクセスに関連した問題です。	HPCA コンソールを使用して、ある vPro デバイ스에複数回プロビジョニングを行うと、コンソールがログイン画面に戻る場合があります。このような場合、ブラウザを完全に閉じてから、HPCA コンソールに再ログインしてください。

探索

OOBM Agent がインストールされているが、vPro デバイスを探索できない

表 44 vPro デバイス探索の失敗

考えられる原因	解決策
ポート 9998 がファイアウォールにブロックされている可能性があります。	vPro デバイスのポート 9998 がブロックされていないことを確認します。

管理対象の vPro デバイスに対してハードウェア資産が何も探索されない

表 45 ハードウェア探索の問題

考えられる原因	解決策
この操作の間に、vPro デバイスで内部エラーが発生しました。	デバイスをシャットダウンして電源コードを取り外し、10 ~ 15 秒待ってからデバイスを再起動します。

表 45 ハードウェア探索の問題 (続く)

vPro デバイスが正しくプロビジョニングされていません。	ターゲット vPro デバイスを再設定します。詳細については、24 ページの MEBx を使用した vPro デバイスの設定を参照してください。
コンテナの容量が限られているため、追加の資産データを取得できません。システムに多数のデバイスがある場合に、この状態になることがあります。	一部のデバイスの接続を解除します。
ネットワークのトラフィック量が多いため、ハードウェア資産のクエリ中にネットワークエラーが発生しました。	しばらく待ってからコマンドを再発行します。

管理対象の vPro デバイスに対してソフトウェア資産が何も探索されない

表 46 ソフトウェア探索の問題

考えられる原因	解決策
登録されているアプリケーションがありません。	VPro デバイスにインストールされているソフトウェアは、3PDS に登録する必要があります。HPCA コンソールは、アプリケーションの登録をサポートしません。
ネットワークのトラフィック量が多いため、ソフトウェア資産のクエリ中にネットワークエラーが発生しました。	しばらく待ってからコマンドを再発行します。

探索されたハードウェアおよびソフトウェア資産の一部のプロパティが空白である

表 47 一部の探索されたハードウェアおよびソフトウェア資産の空白値

考えられる原因	解決策
デバイスのプロパティに情報がありません。	特定のプロパティの情報がデバイスに格納されていない場合、プロパティが空白なのは正常です。

Windows Server 2008 R2 が関連する一部の場合、HPCA を SCS に接続できず、vPro デバイスを探索できないことがある

表 48 コンソールを SCS に接続できず、vPro デバイスを探索できない

考えられる原因	解決策
原因不明です。 Windows Server 2008-x64-R2 上に HPCA がインストールされており、SCS および Active Directory が Windows Server 2008-x64 が実行されているマシン上に両方インストールされている場合、HPCA を SCS に接続できません。	HPCA が Windows Server 2008-x64-R2 にインストールされており、Active Directory と SCS の両方を win2k8-x64 に配置する必要がある場合、Active Directory と SCS を win2k8-x64 が実行されているマシンとは異なる物理マシンまたは仮想マシン上にインストールします。

OOBM デバイス データベースに最新のデバイスがない場合、OOBM グループがリロードできない

表 49 OOBM グループがリロードできない

考えられる原因	解決策
OOBM データベースは、最新のデバイスで更新されません。 OOBM グループがリロードできず、「指定された名前のデバイスはありません」エラーが表示されます。そのため、グループは更新されません。 [操作]>[アウトバンド管理]>[グループ管理]>[リロード] を選択してグループのリロード操作を実行するとエラーが発生します。	OOBM デバイス探索操作をもう一度実行し、最新のデバイスに更新してください。この操作によって、グループのリロードに関するエラーは解決します。

有効な DASH デバイスの探索が失敗する

表 50 DASH デバイス探索の失敗

考えられる原因	解決策
ネットワークのトラフィック量が多いことから、デバイスが時間内に応答できないために発生することがあります。	HTTP_READ_TIMEOUT および HTTP_CONNECT_TIMEOUT の設定値を増加させると、この問題が解決する場合があります。設定値の変更手順については、 第 3 章、「OOBM 設定」 を参照してください。

DASH デバイスが探索されるが、ホスト名ではなく IP アドレスで表示される

表 51 DASH デバイス探索の問題

考えられる原因	解決策
IP アドレスを指定してデバイスが探索されており、DNS Server で「DNS 逆探索」が設定されていません。	DASH デバイスの探索を試すときに、ホスト名を指定します。詳細については、 74 ページのデバイス探索 を参照してください。DNS Server で「DNS 逆探索」を設定していない場合は、デバイスの IP アドレスをホスト名に変換できません。表示されるのが IP アドレスかホスト名かに関係なく、すべての操作は期待どおりに動作します。

プロビジョニング済み vPro デバイスが探索されないか、使用不可として表示される

表 52 vPro デバイスの探索の問題

考えられる原因	解決策
vPro デバイスは、以前にプロビジョニングされていても、プロビジョニングされなくなる場合があります。	vPro デバイスを再プロビジョニングします。詳細については、24 ページの MEBx を使用した vPro デバイスの設定を参照してください。
vPro デバイスは、SCS データベースに存在していても、ドメイン コントローラから削除されていることがあります。	vPro デバイスが、正しい FQDN でドメイン コントローラに存在することを確認します。
DNS Server vPro デバイスの複数のエントリがあります。	vPro デバイスのエントリが DNS Server に 1 つしかないことを確認します。
HPCA コンソールのデバイス リストに表示されるものとは別の IP アドレスが、DHCP Server で vPro デバイス用に定義されています。	HPCA コンソールのデバイス ウィンドウに表示される vPro デバイスの IP アドレスが、DHCP Server のものと同一であることを確認します。

Client Automation グループのプロビジョニング済み vPro デバイスが、[グループの詳細] ウィンドウの [デバイス] タブに表示されない

表 53 グループ デバイス探索の問題

考えられる原因	解決策
Client Automation グループの vPro デバイスが FQDN とともにリストされていないことがあります。	FQDN を使用して Client Automation グループにデバイスをインポートし、このデバイスをグループに追加します。次に Client Automation グループを HPCA コンソールに再度読み込みます。

リモート操作

DASH デバイスでのリモート操作を実行するときに PuTTY コンソールが開かない

表 54 PuTTY コンソールが開かない

考えられる原因	解決策
システムで別の PuTTY コンソールが実行されている可能性があります。ディスプレイをコンソール オプションを有効化した状態で DASH リモート操作を実行しているときに、別の PuTTY コンソールがシステムで実行されると、PuTTY コンソールが開きません。	DASH リモート操作を実行する前に、他に PuTTY コンソールが実行されていないことを確認します。

リモート操作の実行時に telnet コンソールが表示されない

表 55 Telnet コンソールが開かない

考えられる原因	解決策
特定のインターネット設定が正しく設定されておらず、telnet コンソールの表示が妨げられています。	[Internet Explorer] で [ツール] > [インターネット オプション] > [詳細設定] の順に移動します。[スクリプトのデバッグを使用しない (Internet Explorer)] オプションと [スクリプトのデバッグを使用しない (その他)] オプションが両方ともオンになっていることを確認します。
ActiveX コントロールのデフォルト セキュリティ設定により、telnet コンソールの表示が妨げられています。	[Internet Explorer] で、[ツール] > [インターネット オプション] > [セキュリティ] の順に移動します。[レベルのカスタマイズ] をクリックします。[未署名の ActiveX コントロールのダウンロード] および [スクリプトを実行しても安全だとマークされていない ActiveX コントロールの初期化とスクリプトの実行] で [有効にする] を選択します。

Windows Server 2003 64 ビット プラットフォームのクライアント コンソールで telnet セッションが開かない

表 56 Windows Server 2003 64 ビットで telnet セッションが開かない

考えられる原因	解決策
OOBM はこのプラットフォームでは telnet 接続を開けません。	HyperTerminal を使用して vPro デバイスのテキスト コンソールを表示してください。また、DASH デバイスのテキスト コンソールを表示するには、PuTTY クライアントを設定してください。

PuTTY クライアントは、Windows 64 ビット プラットフォームで DASH クライアント コンソールを表示できない場合がある

表 57 PuTTY クライアントは、Windows 64 ビットで DASH クライアント コンソールを表示できない

考えられる原因	解決策
PuTTY は、Windows 64 ビット システムではクライアント DASH デバイスと接続を確立できません。	この問題に対する回避策はありません。

デバイスのプロビジョン状態が変更後、vPro デバイスで OOBM リモート操作を行うとエラーが発生する

表 58 プロビジョン変更後 vPro デバイスでリモート操作を行うとエラーが発生する

考えられる原因	解決策
OOBM データベースと SCS データベースの情報が一致していません。 vPro デバイスのプロビジョン状態を変更すると (TLS モードの変更および異なる SCS プロファイルでのデバイスの再プロビジョニングを含みます)、個別または複数の vPro デバイスでリモート操作ができません。	プロビジョン状態を変更するデバイスを選択し、[操作] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] の [デバイス情報のリロード] ボタンをクリックしてください。または、デバイスを選択せずに、[デバイス情報のリロード] ボタンをクリックしてください。後者は、完了までに時間がかかりますが、すべてのデバイス情報をリフレッシュするため、OOBM データベースに SCS データベースの情報と一致する最新の情報が読み込まれます。

vPro デバイスで OOBM リモート操作を実行しても何も起こらない

表 59 リモート操作を実行しても何も起こらない

考えられる原因	解決策
<ul style="list-style-type: none"> • OOBM データベースと SCS データベースの情報が一致していません。 • ネットワークでデバイスが利用できない状態にあります。 	<p>[デバイスの詳細] ウィンドウを閉じて、新しいウィンドウを開いてください。エラーメッセージを確認できるようになります。この問題が OOBM と SCS データベース間の不整合によって発生している場合は、[操作]>[アウトバンド管理]>[デバイス管理]>[すべてをリフレッシュ]の[デバイス情報のリロード] ボタンをクリックしてください。</p>

OOB DASH デバイスが起動順序に関係なくハードドライブから起動される

表 60 DASH デバイスが必ずハードドライブから起動される

考えられる原因	解決策
<p>Broadcom NetExtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ベースのハードウェアに関する問題です。</p> <p>起動順序に USB が含まれており、かつ USB から起動できない場合、起動順序のその他の起動元に関係なく、システムはハードドライブから起動されます。このため、[操作]>[アウトバンド管理]>[デバイス管理]><DASH デバイス>>[リモート操作]を選択して、DASH デバイスで起動操作を実行するとエラーが発生します。</p>	<p>回避策はありません。</p>

OOB DASH デバイスが、起動順序に指定されていないソースを含むすべての起動元を使用しようとする

表 61 DASH デバイスが、指定に関係なく、すべての起動元を試行しようとする

考えられる原因	解決策
<p>Broadcom NetExtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ベースのハードウェアに関する問題です。</p> <p>ユーザーが永続的な起動オプションを選択している場合、起動順序に指定されていないソースを含む、すべての起動元を使用しようとする。このため、[操作]>[アウトバンド管理]>[デバイス管理]><DASH デバイス>>[リモート操作]を選択して、DASH デバイスで起動操作を実行するとエラーが発生します。</p>	<p>回避策はありません。</p>

OOB DASH デバイスの初回起動元として不正なネットワーク コントローラが設定される

表 62 DASH デバイスの初回起動元として不正なネットワーク コントローラが設定される

考えられる原因	解決策
<p>Broadcom NetExtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ベースのハードウェアに関する問題です。</p> <p>Dash が有効なデバイスでは、ネットワークを初回ブート デバイスとして起動順序を変更すると、初回起動元として、Broadcom DASH NIC の代わりに埋め込みネットワーク コントローラが設定されます。その結果、Broadcom NIC からの PXE 起動に失敗します。</p>	<p>F10 の [セットアップ詳細] メニューを表示してください。[デバイス オプション] リストの [NIC PXE Option ROM のダウンロード] オプションを無効にすると、埋め込み NIC PXE オプション ROM の読み込みを防止できます。このオプションを無効にした後、Broadcom PXE からの起動を再試行してください。</p>

リモート操作ウィザードの [タスク] ページから次のページに移動できない

表 63 リモート操作ウィザードがフリーズする問題

考えられる原因	解決策
<p>JRE のバージョンが正しくありません。</p>	<p>JRE バージョン 1.5 以降をインストールし、Internet Explorer のオプションを選択して JRE プラグインをインストールしてください。このオプションを選択するには、Internet Explorer で [ツール] > [インターネット オプション] > [詳細設定] の順に移動し、[<applet> に JRE 1.5.XX を使用 (再起動が必要)] オプションを選択します。JRE のインストールと有効化が完了したら、Internet Explorer を再起動します。</p>

vPro デバイスで SOL/IDE-R 操作の telnet セッションを開始できない

表 64 SOL/IDE-R 操作の Telnet セッションを開始できない

考えられる原因	解決策
<p>telnet クライアントがインストールされていない可能性があります。デフォルトで、telnet クライアントは Windows Server 2008 にインストールされません。</p> <p>HPCA が Windows Server 2008 x64 (AMD64T) にインストールされている場合、SOL/IDER 操作で telnet セッションを開始できません。ただし、起動操作は正常に行われるため、正しいメディアからマシンが起動されます。この問題により、修復の使用ケースは完全にサポートされていません。たとえば、BIOS の更新は実行できません。</p>	<p>Windows Server 2008 のサーバー管理オプションを使用して、telnet クライアントをインストールします。</p>

DASH デバイスのリモート操作ウィザードに進行状況バーが表示され続けて操作の完了が表示されない

表 65 リモート操作ウィザードに進行状況バーが表示され続ける

考えられる原因	解決策
デバイス ハードウェアがリモート操作の応答をリモート操作ウィザードに送信していないため、リモート操作ウィザードが継続的に待機します。しかしリモート操作は正常に終了しています。	別の OOBM リモート操作を実行するには、ログアウトして現在の IE セッションを閉じ、新しい IE セッションでログインし直す方法しかありません。

DASH デバイスのブート設定の設定がしばらく有効のまま残る

表 66 DASH デバイスのブート設定の設定が有効のまま残る

考えられる原因	解決策
操作が進行中であり、最終的に完了することを反映しています。	これは期待どおりの動作です。

休止 (ソフト) および中断などのリモート操作がターゲット DASH デバイスで動作しない

表 67 休止および中断の操作が DASH デバイスで動作しない

考えられる原因	解決策
Broadcom 管理エージェントがターゲット DASH デバイスで動作していないか、Windows OS が動作している状態に DASH デバイスになっていない可能性があります。いずれかの状態である場合、HPCA コンソールで操作が正常終了と表示されても、休止操作と中断操作は DASH デバイスで機能しません。	最新の Broadcom Management Agent がインストールされていること、および管理エージェント サービスがターゲット DASH デバイスの Windows で動作していることを確認します。

vPro デバイスの IDE-R 操作の情報が HyperTerminal コンソールで適切に整列されない

表 68 IDE-R 情報が HyperTerminal で整列されない

考えられる原因	解決策
タイミングの問題、またはハードウェア ベンダーが提供するファームウェアの問題です。	この問題に対する回避策はありません。

複数のユーザーが同一 OOBM デバイスで操作を実行すると、誤った動作を招く

表 69 複数のユーザーが同一デバイスで操作を実行する

考えられる原因	解決策
アーキテクチャ上の制限です。	どの時点でも、デバイスでは単一のユーザーのみがリモート操作を実行してください。

vPro デバイスの電源が IDE-R 再起動後に切れない

表 70 IDE-R 再起動後の vPro デバイスの電源の問題

考えられる原因	解決策
Web サービスが現在操作を実行中です。	vPro デバイスは、IDE-R 再起動後に電源切断コマンドを正常に実行しない場合があります。10 秒待ってから電源切断コマンドを実行すると、この問題を回避できます。

vPro デバイスのフロッピー IDE-R 再起動により、不可解な内容が SOL ディスプレイに出力される

表 71 vPro デバイスにより、不可解な内容が SOL に出力される

考えられる原因	解決策
MS-DOS の MS Windows バージョンから起動可能フロッピーを作成したことが原因となる可能性があります(たとえば Windows のフォーマットを使用し、MS-DOS 起動ディスクを作成)。	別の方法で起動可能フロッピー ドライブを作成してください。

電源切断コマンドの後で vPro デバイスがグレー表示になる

表 72 電源切断後、vPro デバイスがグレー表示になる

考えられる原因	解決策
ME 電源設定オプションが適切に設定されていない可能性があります。SCS プロファイルで、電源ポリシーが適切に設定されていない可能性があります。また、vPro デバイスの複数のエントリが DNS Server に存在する可能性もあります。	ME 電源設定オプションが、すべての電源状態で always on ME または wake on ME に設定されていることを確認します。SCS プロファイルで電源ポリシーが常にオンに設定されていることも確認してください。最後に、vPro デバイスのエントリが DNS サーバーに複数あるかどうかを確認します。複数のエントリがある場合は、誤っているエントリを削除して DNS Server を再起動し、HPCA コンソール サーバーで DNS をフラッシュして HPCA コンソール サーバーを再起動します。あるいは、HPCA Server で Web サービスのタイムアウト値を増加させることもできます。

S1/S2 または Sleep-Light の電源状態に移行している OOB デバイスが誤った動作をする

表 73 S1/S2 または Sleep Light の電源状態で誤った動作をする

考えられる原因	解決策
一部のハードウェア ベンダーでは、S1/S2 または Sleep-Light の電源状態をサポートしていません。	詳細については、ハードウェア ベンダーのマニュアルを参照してください。

OOB デバイスが電源切断後、中断状態になる

表 74 デバイスが電源切断後、中断状態になる

考えられる原因	解決策
特定のハードウェアでは、システムが中断状態になっていてユーザーが電源を切ると、HPCA コンソールは正常動作をレポートしますが、マシンは中断状態のままになります。このようなハードウェアでは、中断状態からの電源切断操作がサポートされていないためです。	このような動作がみられる場合、詳細については、ハードウェア ベンダーのマニュアルを参照してください。

DASH デバイスにおける適切な電源操作がサポート オプションとして表示されるが動作しない

表 75 適切なリモート操作が DASH デバイスで動作しない

考えられる原因	解決策
Broadcom Management Agent がインストールされていません。	最新の Broadcom Management Agent を DASH デバイスにインストールします。

KVM 操作の実行中にエラーが発生

表 76 KVM 操作の失敗

考えられる原因	解決策
無許可ユーザーの拒否またはアクセスの拒否などのエラーが KVM 操作中に発生しました。	SCS プロファイルで PT 管理領域を有効にし、vPro デバイスを再プロビジョニングします。

電源状態

管理対象 vPro デバイスの電源状態の表示または変更ができない

表 77 電源状態の問題

考えられる原因	解決策
ネットワークのトラフィック量が多いため、システムをクエリしている間にネットワーク エラーが発生しました。	しばらく待ってからコマンドを再発行します。
アクティブな IDE-R/SOL セッションのため、電源切断で障害が発生しました。	アクティブな IDE-R/SOL セッションがある場合、電源切断コマンドはサポートされません。コンソールには、「Parameters are valid but not supported by platform」例外が表示されます。アクティブなセッションがあるかどうか確認してください。アクティブなセッションがある場合は、セッションを終了してしばらくしてから電源を切断してみてください。

電源切断操作の後でデバイスの電源状態がグレー表示になる

表 78 電源表示の問題

考えられる原因	解決策
タイムアウト時間を超過しました。	タイムアウト期間を設定し直します。詳細については、34 ページの IDE-R および SOL タイムアウト値の設定を参照してください。

再起動

再起動の問題をトラブルシューティングするには、**IDE-R** と **SOL** のグローバル設定の設定、およびリモート制御オプションを調べる必要があります。

一回限りのブート設定の **OOB DASH** デバイスを再起動する前に起動順序操作を実行する必要がある

表 79 **DASH** デバイスを再起動する前に起動順序操作を実行する必要がある

考えられる原因	解決策
Broadcom NetExtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ベースのハードウェアに関する問題です。 Broadcom NetExtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ベースのハードウェアの再起動操作に一回限りの起動のブート設定の設定を選択している場合、ユーザーは、再起動前に起動順序操作を実行する必要があります。実行しない場合、リモート操作が誤って動作します。また、ユーザーが明示的な起動順序操作を実行しても、再起動後に、起動順序がデフォルトの起動順序にリセットされます。このため、 [操作]>[アウトバンド管理]>[デバイス管理]><DASH デバイス>>[ブート設定] を選択して DASH デバイスで起動操作を実行するとエラーが発生します。	回避策はありません。

DASH デバイスで、一回限りのブート設定がリセットされない

表 80 DASH デバイスで、一回限りのブート設定がリセットされない

考えられる原因	解決策
<p>システム BIOS に関する問題です。</p> <p>DASH デバイスが再起動した後に、デバイスで一回限りのブート設定がリセットされません。リモート操作で一回限りのブート設定が選択または有効になっている場合、リモート操作が正常に完了した後に、選択解除または無効になりません。この問題が発生すると、以降のすべてのリモート操作は、常に一回限りのブート設定を使用するようになります。このため、[操作] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > <DASH デバイス>> [ブート設定] を選択して、DASH デバイスで一回限りのブート設定を設定するとエラーが発生します。</p>	<p>[操作] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > <DASH デバイス>> [リモート操作] を選択して再起動操作を実行する前に、一回限りのブート設定の起動順序を変更してください。</p>

DASH デバイスのブート設定の設定をデフォルトおよび永続的な起動に変更できない

表 81 DASH デバイスのブート設定を変更できない

考えられる原因	解決策
<p>リストされている初回ブート設定の設定は永続的なブート設定の設定にハード コーディングされています。</p> <p>ブート設定の設定をデフォルトおよび永続的な起動に変更できません。これを一回限りの起動に変更することはできませんが、ユーザーは、2 回目のブート設定の設定を一回限りの起動に変更できます。このため、[操作] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > <DASH デバイス>> [ブート設定] を選択して DASH デバイスでブート設定の設定を行うときにエラーが発生します。</p>	<p>この問題に対する回避策はありません。</p>

SOL を使用する HPCA コンソールで再起動プロセスを表示できない

表 82 SOL を使用して再起動を表示する問題

考えられる原因	解決策
<p>別のデバイスがポート 9999 を使用しています。</p>	<p>SOL 送信のためにポート 9999 を解放します。</p>

表 82 SOL を使用して再起動を表示する問題

プロビジョニング中に SOL リダイレクションが有効になりませんでした。	Intel SCS を使用して SOL リダイレクションを有効にします。詳細については、24 ページの MEBx を使用した vPro デバイスの設定を参照してください。
Windows エクスプローラで起動可能フロッピーが作成されました。	Windows のフォーマットを使用して MS-DOS 起動ディスクを作成すると、起動可能ドライブが生成されますが、不可解な内容が SOL へ出力されます。別の方法で起動可能フロッピードライブを作成してください。

管理対象 vPro デバイスをリモートで再起動できない

表 83 再起動の問題

考えられる原因	解決策
再起動パラメータが正しくありません。	ログを表示し、再起動パラメータを確認します。再起動パラメータが正しくない場合は、正しいパラメータで再起動を試みてください。
ファームウェアにおける特定オプションの既知の制限です。	HPCA Core 配布メディアの Media\oobm\win32\AMT Config Server ディレクトリにある『Intel vPro SCS Server リリース ノート』を確認してください。

表 84 IDE-R での再起動の問題

考えられる原因	解決策
物理起動可能デバイス（ドライブまたはイメージ）が管理コンソールに存在しません。	管理コンソールの既存ドライブで起動します。物理デバイスが存在しない場合は、ISO イメージを代わりに使用します。
メディアのイメージが起動可能ではありません。	イメージが起動可能かどうかを確認します。起動可能でない場合は、起動可能イメージで置き換えます。
CD/DVD で再起動しようとした場合、HPCA コンソール サーバーの CD ドライブがデフォルトの D: ドライブ設定と一致していません。	デフォルトのドライブ設定を再設定し、HPCA コンソール サーバーの CD/DVDE ドライブと一致させます。詳細については、33 ページの IDE-R ドライブの設定 を参照してください。

管理対象 vPro デバイスを BIOS 設定にリモートで再起動できない

表 85 BIOS 設定への再起動の問題

考えられる原因	解決策
BIOS が BIOS 設定への起動をサポートしていません。	この機能がサポートされている BIOS のバージョンに、ターゲット デバイスの BIOS をアップグレードします。

管理対象 vPro デバイスの起動順序をリセットできない

表 86 起動順序のリセットの問題

考えられる原因	解決策
原因を特定できません。	ローカル HDD 起動コマンドを実行し、ターゲット デバイスを再起動します。

システム防御およびエージェント存在

管理対象 vPro デバイスにシステム防御ポリシーを配布できない

表 87 システム防御ネットワーク フィルタ追加のエラー

考えられる原因	解決策
vPro デバイスで、31 個の受信フィルタおよび 30 個の送信フィルタというフィルタ制限を超えています。	vPro デバイスで既存のフィルタの一部を削除します。詳細については、54 ページのシステム防御フィルタの管理を参照してください。

無線ネットワーク ドライバを含む vPro デバイスで、システム防御ポリシーが適切に機能しないことがある

表 88 無線 NIC を備えたデバイス上のシステム防御ポリシー

考えられる原因	解決策
vPro デバイスの無線ネットワーク ドライバのバージョンが、インストールされている Intel AMT のバージョンと一致しません。	システム防御ポリシーを適切に機能させるには、vPro デバイスの無線ネットワーク ドライバのバージョンを、インストールされている Intel Active Management Technology のバージョンと一致させる必要があります。バージョンの互換性に関する詳細については、ハードウェアベンダーにお問い合わせください。

管理対象 vPro デバイスにウォッチドッグを配布できない

表 89 ウォッチドッグ配布エラー

考えられる原因	解決策
vPro デバイスに配布できる OOBM エージェント ウォッチドッグは 1 つのみです。複数のサードパーティ製エージェント ウォッチドッグを配布できますが、vPro デバイスにインストールされているサードパーティ製エージェント 1 つにつき 1 つのウォッチドッグです。1 つのデバイスに配布できるウォッチドッグの総数は 16 です。	vPro デバイスからウォッチドッグを削除または回収します。詳細については、64 ページのウォッチドッグの管理を参照してください。
無効で矛盾するアクションがウォッチドッグに定義されています。	ウォッチドッグに指定されているアクションを見直し、矛盾を修正してください。詳細については、64 ページのウォッチドッグの管理を参照してください。

OOBM エージェントのインストールがエラー コード 1920 でエラーになる

表 90 OOBM エージェント インストール エラー

考えられる原因	解決策
OOBM エージェントの以前のインストールまたはアンインストールに問題があります。	<p>HPCA-OOBM エージェント サービスを vPro デバイスから削除します。削除するには [マイ コンピュータ] アイコンを右クリックし、[管理] > [サービスとアプリケーション] > [サービス] の順に移動します。HPCA-OOB エージェント サービスがあるか確認します。このサービスが存在する場合は、次のように操作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コマンドプロンプト ウィンドウを開きます。 • タイプ sc delete HPCA-OOBM • システムを再起動します。
OOBM エージェントのインストール時に、ユーザー名とパスワードが指定されていません。	<p>遅延設定でデバイスをプロビジョニングする意図がなくても、「ダミー」ユーザー名とパスワードを指定してください。ユーザー名とパスワードを指定しないと、インストールはエラーコード 1920 でエラーになります。</p>

OOBM エージェントがシャット ダウンする

表 91 OOBM エージェントのシャット ダウン動作

考えられる原因	解決策
ローカル エージェントが監視するアプリケーションが定義されていません。	<p>OOBM エージェントが監視するアプリケーションのソフトウェア リストを作成して配布します。詳細については、64 ページのウォッチドッグの管理を参照してください。</p>

vPro デバイスの OOBM エージェント ソフトウェア リストの配布で SOAP エラーが発生する

表 92 エージェント ソフトウェア リストの配布が SOAP エラーを引き起こす

考えられる原因	解決策
vPro Web サービスがエラーを返します。OOBM エージェント ソフトウェア リストの配布では、「Network Error – SOAP error code: 22」、「Integrity check error」、「Not initialized」、「Invalid parameter」などのエラーのうちいずれかが発生することがあります。	<p>しばらくしてから同じ操作を再び試します。それでもエラーが発生する場合は、HPCA コンソールをログアウトしてからログインし直します。</p>

OOBM エージェントが vPro デバイスのソフトウェア リストに表示されない

表 93 エージェントが vPro デバイスのソフトウェア リストに表示されない

考えられる原因	解決策
あるユーザー アカウントで OOBM エージェントをインストールし、別のアカウントでログインしたユーザーが表示すると発生する、アーキテクチャ上の制限です。	この問題に対する回避策はありません。

複数の NIC を搭載した vPro デバイスで片方の NIC にエージェント存在ポリシーを配布するとエラーが返される

表 94 複数の NIC を搭載した vPro デバイスへのエージェント存在ポリシーの配布

考えられる原因	解決策
内部エラーです。	両方の NIC にエージェント存在ポリシーを配布してから、必要としない NIC からエージェント存在ポリシーを回収します。

なりすまし防止フィルタが原因で、vPro デバイスのすべての送信トラフィックが取り消される

表 95 偽装防止フィルタが原因で、すべての送信トラフィックが取り消される

考えられる原因	解決策
環境検出を有効にした状態で SCS のプロファイルによって vPro デバイスがプロビジョニングされ、環境検出ドメインで指定されていないドメインにデバイスを接続すると、vPro デバイスのシステム防御ポリシーでなりすまし防止フィルタが有効になっている場合、すべての送信トラフィックは取り消されます。	環境検出ドメインで指定されているドメインにデバイスを接続します。

vPro デバイスのウォッチドッグに OOBM エージェントを登録できない

表 96 OOBM エージェントの登録の問題

考えられる原因	解決策
OOBM エージェントをウォッチドッグに登録できない場合は、Digest のユーザー名 (Intel AMT ユーザー名) に問題がある可能性があります。Intel AMT ファームウェアでは、Digest のユーザー名は大文字と小文字が区別されます。OOBM エージェントのインストール時には、大文字と小文字を区別して Digest のユーザー名を指定する必要があります。そうしないと、ウォッチドッグに OOBM エージェントを登録できません。	大文字と小文字を区別して Digest のユーザー名を正しく指定します。

vPro デバイスで OOBM エージェントが停止すると、メッセージが繰り返し表示される

表 97 OOBM エージェント停止時のメッセージの繰り返し

考えられる原因	解決策
HPCA-OOBM エージェントの内部エラーです。	これが発生する場合は、クライアント vPro デバイスで HPCA-OOBM エージェント サービス (HPCA-OOBM) を再起動します。

Digest の認証情報の変更後、vPro デバイスにアクセスできない

表 98 認証情報の変更後、vPro デバイスにアクセスできない

考えられる原因	解決策
エージェントはインストール時に限ってパスワードを取得し、変更時に動的に取得しません。SCS コンソールで vPro デバイスの Digest のユーザー名やパスワードを変更した場合、このデバイスにはアクセスできなくなります。	Digest の認証情報の変更後、このデバイスにアクセスして管理できるようにするには、vPro デバイスで OOBM エージェント (HPCA-OOBM) サービスを停止する必要があります。エージェント存在機能を使用している場合は、新しいパスワードを使用して vPro デバイスで OOBM エージェントをインストールし直す必要があります。

TLS プロファイルから TLS 以外のプロファイルに変更した後で、vPro デバイスで OOBM エージェントが適切に動作しない

表 99 OOBM エージェントおよび TLS プロファイル

考えられる原因	解決策
TLS プロファイルを使用して OOBM エージェントをインストールし、ある時点で TLS 以外のプロファイルで vPro デバイスを再プロビジョニングした場合、OOBM エージェントは適切に動作しなくなります。同じように、TLS 以外のプロファイルを使用して OOBM エージェントをインストールし、ある時点で TLS プロファイルで vPro デバイスを再プロビジョニングした場合も、OOBM エージェントは適切に動作しなくなります。	これが発生した場合は、適切なプロファイルを使用して OOBM エージェントを再インストールする必要があります。

OOBM エージェントの管理ポップアップメッセージが短時間表示されて消える

表 100 OOBM エージェントの管理メッセージの表示

考えられる原因	解決策
エージェント存在ポリシーがアクティブな場合は、これが管理ポップアップメッセージのデフォルト動作です。	vPro デバイスで Windows イベント ビューアを開き、すべてのエージェント関連のログメッセージを表示します。

OOBM エージェント ソフトウェア リストとシステム メッセージを管理対象 vPro デバイスに配布できない

表 101 OOBM エージェント ソフトウェア リストとシステム メッセージの配布エラー

考えられる原因	解決策
<ul style="list-style-type: none"> 3PDS に対して複数のアクションが同時に発生しています。 1 つのセッション中に 3PDS に複数のアクセスがあります。 ネットワークでのデータ転送に問題があります。 	しばらくしてから配布を再び試します。

TLS モードで OOBM エージェント ソフトウェア リストを配布できないか、またはソフトウェア情報を表示できない

表 102 TLS モデルの OOBM エージェントの問題

考えられる原因	解決策
ドメイン管理者アカウントで Tomcat サービスが動作していない可能性があります。	ドメイン管理者アカウントで HPCA Tomcat Server サービスが動作していることを確認します。動作していない場合は、Tomcat の再設定と再起動を行います。
証明機関 (CA) で共通名が正しく指定されていない可能性があります。	CA の共通名が正しく指定されていることを確認します。この設定は、インストール ディレクトリの local_settings.ini ファイルにあります。

OOBM エージェントが正常にインストールされた後で、HPCA コンソール上のウォッチドッグの状態に変化がない

表 103 ウォッチドッグ登録エラー

考えられる原因	解決策
ウォッチドッグの登録に失敗しました。	vPro デバイスで Windows イベント ビューアを開いて、ウォッチドッグの登録ログメッセージがあるかどうか確認します。失敗が確認された場合、Host Embedded Controller Interface (HECI) ドライバおよび Local Manageability Service (LMS) サービスを vPro デバイスにインストールして、ウォッチドッグのステータスを再確認します。

配布されたエージェント存在ポリシーが、定義されたアクションの発生時にアクティブにならない

表 104 エージェント存在ポリシーがアクティブにならない

考えられる原因	解決策
定義されたアクションが予想された順序で発生しなかった可能性があります。OOBM エージェントが指定された状態に遷移する前に、OOBM エージェントの期限が切れた可能性があります。	ウォッチドッグのアクションの指定時に、状態への遷移として [状態を無視] を指定するのが最も安全です。

エージェント存在ポリシーが配布直後にアクティブになる

表 105 エージェント存在ポリシーが即座にアクティブになる

考えられる原因	解決策
エージェント存在ポリシーをアクティブにする遷移状態がすでに発生して、ウォッチドッグによってエージェント存在ポリシーがすぐにアクティブ化されたと考えられます。	既存のウォッチドッグを削除して、再配布します。

名前に特殊文字を含むシステム防御ポリシーを配布できない

表 106 システム防御ポリシーの名前エラー

考えられる原因	解決策
フィルタおよびポリシーはその名前に ASCII 文字以外を使用して作成できますが、その場合配布はできません。また、フィルタおよびポリシーは、その名前に「:」、「,」、「>」、「<」、「&」、および「"」などの特殊文字が使用されていると配布できません。この制限は、Intel AMT 仕様に示されています。	仕様に沿った名前で作成したフィルタおよびポリシーを作成します。

無線

HPCA コンソールを使用して無線デバイスに接続できない

表 107 無線デバイス接続の問題

考えられる原因	解決策
無線デバイスとの通信に長時間を要したため、Web サービスのタイムアウトが発生しました。HPCA コンソールで接続できない場合、デバイスはコンソールでグレー表示になります。	タイムアウト期間を設定し直します。詳細については、34 ページの IDE-R および SOL タイムアウト値の設定を参照してください。

無線 NIC を使用した vPro デバイスに接続できない

表 108 無線 NIC を使用して接続できない

考えられる原因	解決策
デバイスが無線 NIC のみで設定され、デバイスが電源に接続されておらず、デバイスの電源がオフの場合、バージョン 2.5 の vPro デバイスでは予期された動作です。	vPro デバイスを電源に接続して、デバイスの電源をオンにします。

vPro デバイスの無線ネットワークで SOL/IDE-R セッションの確立に失敗する

表 109 無線ネットワークでの SOL/IDE-R セッションの失敗

考えられる原因	解決策
無線 NIC を装備した vPro デバイスは OOBM Server との通信に長時間を要するため、タイムアウトが発生しました。	34 ページの IDE-R および SOL タイムアウト値の設定で説明されている方法で IDER* パラメータおよび SOL* パラメータを設けます。

無線 NIC のポリシー設定に失敗する

表 110 無線ポリシー配布の問題

考えられる原因	解決策
ポリシーが正常に配布されたように思われますが、vPro デバイスに無線 NIC が装備されていません。	ポリシーを回収するか、vPro デバイスに無線 NIC を取り付けてからポリシーを再配布します。

移行の問題

SCS 5.3 への移行後、SCS コンソールがプロファイルを正しく表示しない

表 111 プロファイルを表示するときに SCS 移行の問題が発生する

考えられる原因	解決策
SCS の前のバージョンから SCS データが移行されています。この場合、新しい SCS コンソールでは左側のツリービューに移行後のプロファイルが表示されません。	SCS コンソールの右側にあるプロファイルセクションにプロファイル情報を表示できます。

アウトバンド管理ソフトウェアの現行リリースへの移行後、OOBM エージェント ソフトウェア リストとシステム メッセージが表示されない

表 112 OOBM エージェントのメッセージとリストの移行の問題

考えられる原因	解決策
これは正常な動作です。OOBM エージェントのソフトウェア リストとシステム メッセージをアウトバンド管理ソフトウェアの以前のリリースで作成して配布すると、新バージョンに移行した場合、使用できなくなります。	現行リリースで OOBM エージェントとシステム メッセージを作成して再配布します。詳細については、64 ページのウォッチドッグの管理を参照してください。

後続のリリースに移行するときに増分探索で完全探索が実行される

表 113 後続のリリースに移行するときにデバイスの探索が実行される

考えられる原因	解決策
これは期待どおりの動作です。	以前のリリースから移行する場合、移行後のデバイスが HPCA コンソールでリストに表示されます。vPro 探索（完全探索または増分探索）を初めて実行すると、コンソールの現在のバージョンでの初めての探索であるため、完全な vPro 探索が実行されます。

OOBM データのバックアップ

定期的に OOBM データをバックアップすることをお勧めします。次の 3 種類のファイルがバックアップの対象となります。

- 設定ファイル
- データ ファイル
- データベース

HPCA のデフォルト インストール ディレクトリは、C:\Program Files\Hewlett Packard\HPCA です。HPCA のデフォルト データ ディレクトリは、C:\Program Files\Hewlett Packard\HPCA\data です。

▶ HPCA のアンインストールまたはアップグレードを行う場合で、後から使用するために OOBM 設定ファイルとデータ ファイルを保持したい場合は、ファイルのバックアップと復元を行う移行スクリプトを使用する必要があります。移行と復元についての詳細は、配布メディアの Documentation\HPCA Standard\Migration Guides にある『HP Client Automation Starter および Standard Edition 移行ガイド』を参照してください。

設定ファイル

設定ファイルをバックアップするには

OOBM 設定ファイル、configuration.properties および config.properties は、<HPCA_INSTALL_DIR>\oobm\conf にあります。これらの 2 つのファイルを HPCA インストール ディレクトリ構造外の場所にコピーします。HPCA 製品を再インストールして既存の設定を維持する場合は、これらのファイルをコピーして元の場所に戻すことができます。

データ ファイル

データ ファイルをバックアップするには

vPro システム防御のフィルタ、ポリシー、ヒューリスティックおよびウォッチドッグに関するすべての設定情報は、XML ファイルで <HPCA_DATA_DIR>%oobm%datafiles に格納されています。sd.xml および AgentPresence.xml ファイルを HPCA インストール ディレクトリ構造外の場所にコピーします。HPCA 製品を再インストールして既存の vPro システム保護の設定情報を維持する場合は、これらのファイルをコピーして元の場所に戻すことができます。

データベース

データベースをバックアップするには

OOBM データベースには、探索されたデバイス、DASH 認証情報、および HPCA グループの情報が格納されています。このデータベースは、<HPCA_DATA_DIR>%oobm%OOBMDB にあります。OOBMDB ディレクトリ全体を HPCA インストール ディレクトリ構造外の場所にコピーします。HPCA 製品を再インストールしてこの設定を維持する場合は、このディレクトリをコピーして元の場所に戻すことができます。

ポート情報の要約

アウトバンド管理では、いくつかの TCP ポートを使用して通信を行います。企業または個人用のファイアウォールソフトウェアがインストールされている場合、HPCA Console サーバーで次のポートを除外して、受信および送信トラフィックを許可する必要があります。

Out of Band Management Service から vPro デバイスへの通信

- ポート 16692 は、TCP 上の Web サービス トラフィックに使用されます。
- ポート 16693 は、TLS (クライアント認証を使用) 上の Web サービス トラフィックに使用されます。
- ポート 9999 は、SOL ディスプレイ アプレットとサーバーの Web アプリケーション間通信のデフォルトの開始ポートとして使用されます。この設定は変更可能です。
- ポート 16694 は、TCP 上の SOL/IDE-R に使用されます。
- ポート 16695 は、TLS (クライアント認証を使用) 上の SOL/IDE-R に使用されます。
- ポート 162 は、警告管理に使用されます。

ブラウザからサーバーへの通信

- ポート 9999 は、SOL のアプレットからサーバーへのソケット通信に使用されます。このポートは、同様にクライアントブラウザ システム上でも利用できる必要があります。
- ポート 5900 は、VNC ビューアに使用され、vPro デバイスの KVM リダイレクションを可能にします。

Out of Band Management Service から OOBM エージェントへの通信

- ポート 9998 は、vPro デバイスのリモート設定におけるアウトバンド管理と OOBM エージェント間の通信に使用されます。

DASH デバイスを使用した Out of Band Management Service

- ポート 623 は、アウトバンド管理と DASH デバイス間の通信に使用されます。

質問チェックリスト

HPCA コンソールのアウトバンド管理機能の問題を解決できない場合は、HP サポートにお問い合わせください。お問い合わせの前に、次の質問への答えを準備してください。この情報により、サポート チームはお客様が遭遇するいかなる問題に対しても迅速に対応できるようになります。

- 1 HPCA コンソール サーバーにインストールされているオペレーティング システムとサービス パックは何ですか？
- 2 SCS Server の IIS のバージョンは何ですか？
- 3 SCS と HPCA コンソールは同じマシンにインストールされていますか？
- 4 SCS と SQL Server は同じマシンにインストールされていますか？
- 5 ネットワークに Active Directory がインストールされていますか？
- 6 ネットワークは DNS と DHCP に対応していますか？
- 7 SCS Server と HPCA コンソールの Out of Band Management Service 間の認証に NTLM v2 プロトコルを使用していますか？(ローカル ポリシーを調べると確認できます)
- 8 SCS のインストール時に使用したユーザー ID は何ですか？(ローカル ユーザーまたはドメイン ユーザーのどちらでも構いません)
- 9 そのローカルまたはドメイン ユーザーにはローカル管理者権限がありますか？
- 10 SQL との通信に使用している認証モードは何ですか？(Windows 認証が推奨されます)
- 11 HPCA コンソールにログインできますか？
- 12 HPCA コンソールの [デバイス] タブには何かデバイスが表示されていますか？
- 13 表示されているデバイスは無効 (グレー表示されていてアクセス不可) ですか？
- 14 SCS を使用してプロビジョニングされているデバイスはありますか？
- 15 プロビジョニングされたデバイスが SCS テーブルにリストされていますか？
- 16 SCS へのログインに、**http://IP/AMTSCS** または **https://IP/AMTSCS** を URL として使用していますか？

A OOBM 機能

HPCA コンソールのアウトバンド管理 (OOBM) オプションを使用して、ネットワーク内のプロビジョニング済みのデバイス上で、探索、修復、および保護の操作をデバイスのタイプに基づいて実行できます。

次の各セクションでは、ネットワーク上の OOB デバイスの探索、修復、および保護を可能にする OOBM の機能を詳細に説明しています。



保護機能は、vPro デバイスのみに関連した機能です。

探索

ネットワーク上のすべてのプロビジョニング済み OOB デバイスで、ハードウェア資産とソフトウェア資産を探索できます。

ハードウェア資産

Intel vPro デバイスは、フラッシュ メモリにハードウェア資産情報を格納します。DASH デバイスは、この情報をネットワーク コントローラの NVRAM に格納します。どちらのメモリも、デバイスの電源がオフであっても、常時読み取りが可能です。必要な条件は、デバイスが物理的にネットワークに接続されていて電源に接続されていることのみです。OOB デバイスは、不意のデータ喪失の防止についてはソフトウェア エージェントに依存しません。HPCA コンソールを使用してこの情報にアクセスし、次の目的でこの情報を使用できます。

- 交換する必要があるデバイスのハードウェア コンポーネントの正確な仕様を判断する。
- 互換性問題を特定する。
- 新しいオペレーティング システムをプロビジョニングする前に、デバイスの設定を検査する。
- マシンの電源がオフの場合でも一時的なインベントリ情報報を取得する。

ソフトウェア資産

Intel vPro では、vPro デバイスのサードパーティ データ ストレージ (3PDS) に登録されたアプリケーション リストの表示が可能です。3PDS に登録された HP アプリケーションの場合、そのアプリケーションが vPro デバイスのスクラッチ パッド領域に書き込んだデータも表示できます。DASH デバイスは、ソフトウェア資産情報をネットワーク コントローラの NVRAM に格納します。HPCA コンソールを使用してこの情報にアクセスし、次の目的でこの情報を使用できます。

- vPro または DASH を利用しているデバイスにアプリケーションがインストールされているかどうかを確認する。データ ストレージの正確な使用法は、アプリケーションによって異なります。
- 既知の vPro および DASH 対応 HP アプリケーションのアウトバンド情報を取得する。
- 既知の vPro および DASH 対応 HP アプリケーションが正しく登録されているか確認する。これは、一部のアプリケーションのトラブルシューティングに役立ちます。
- 既知の vPro および DASH 対応 HP アプリケーションが正しく動作しているか確認する。

- vPro デバイス上で動作する OOBM エージェントに監視させるアプリケーションのソフトウェア リストを表示する。
- エージェント存在ポリシーがアクティブ化されたときに OOBM エージェントが vPro デバイスのコンソールに表示するシステム メッセージを表示する。

修復

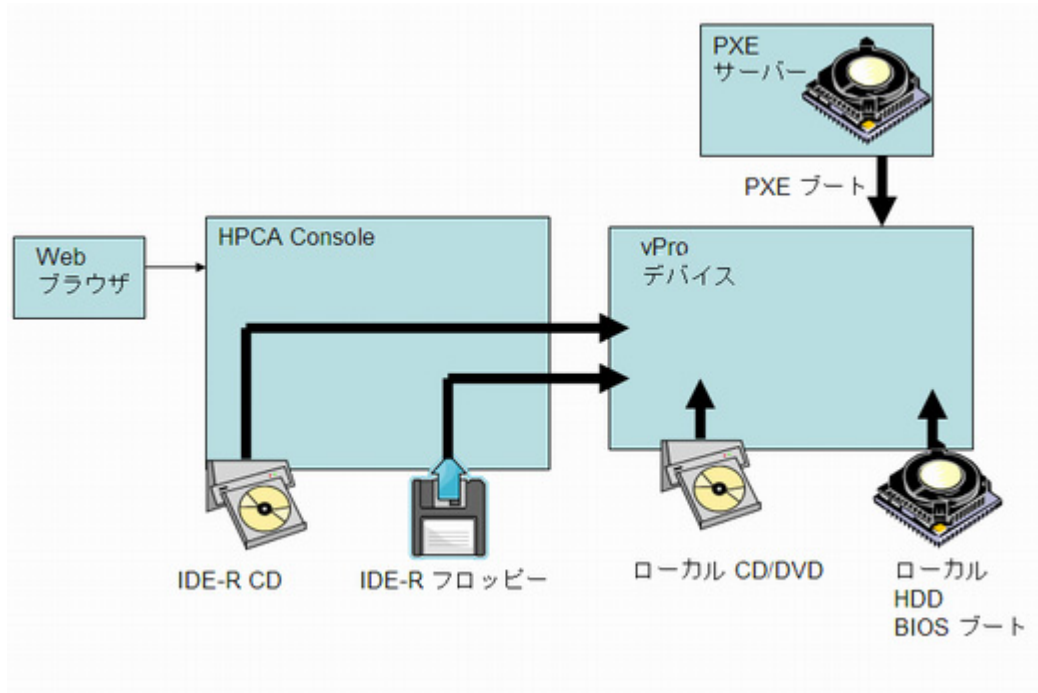
修復操作には、リモート操作とイベント管理があります。



イベント管理は vPro デバイスのみに関連した機能です。

次の図は、HPCA コンソールの OOBM オプションを使用して実行するさまざまなリモート管理操作を示しています (IDE-R は vPro のみに適用されます)。

図 3 リモート管理操作の概要



リモート操作

Intel vPro および DASH デバイスでは、ソフトウェア、オペレーティング システム、およびハードウェアに障害が発生した後にリモートでデバイスの診断と修復を行うアウトバンド アクセスが可能です。HPCA コンソールを使用して、リモートでデバイスの電源状態の表示、デバイスのハードディスクからの再起動、デバイスのローカル CD/DVD 上のイメージからの再起動、リモートの CD またはフロッピー ドライブからの再起動、PXE Server からの再起動、および BIOS セットアップのための再起動が可能です。任意のリモート操作の実行時またはシステムがアイドル状態のときは、システムの電源状態が変更されます。

これらの機能を使用して、次のようなリモート電源管理を実行できます。

- デバイスの電源のオン/オフ

- テキスト コンソール リダイレクションおよび IDE-R を使用した OOB デバイスの再起動



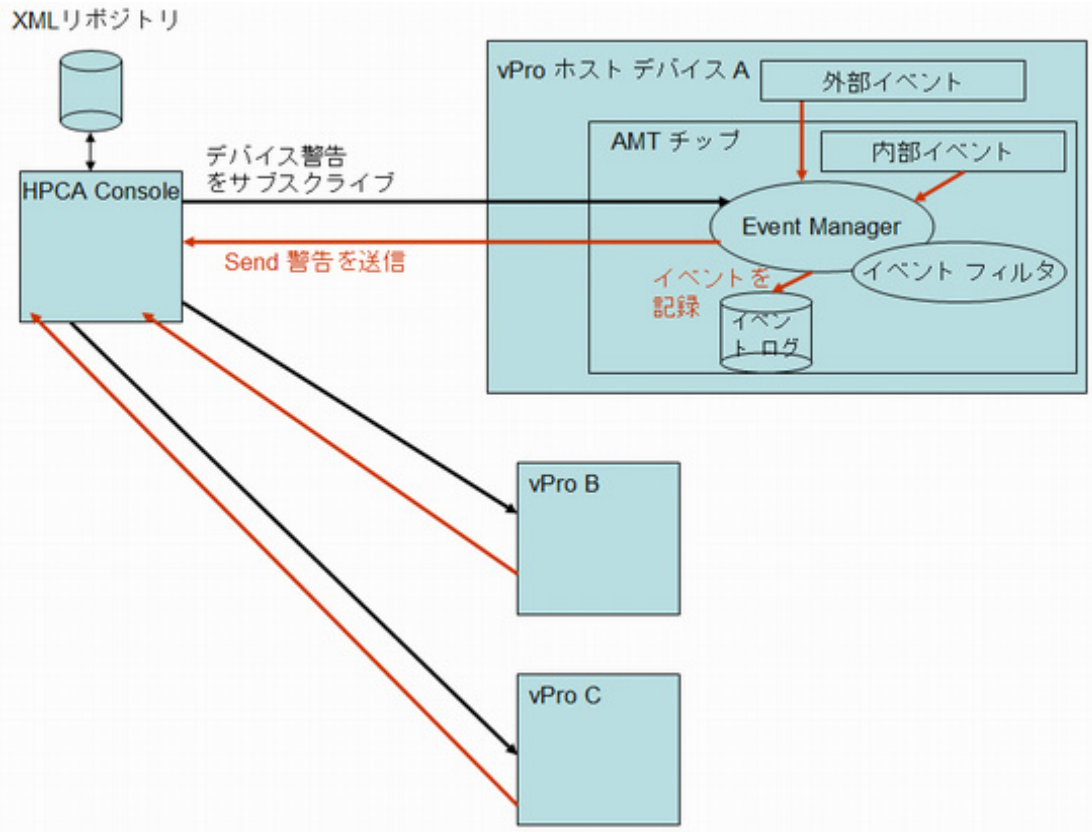
IDE-R (Integrated Drive Electronics Redirect) は、vPro デバイスでのみ使用できます。

電源管理操作によって、問題のある OOB デバイスを健全な状態に復元できます。

イベント管理

次の図は、vPro システムのイベント管理に関する動きを示したものです。

図 4 イベント管理の概要



Intel vPro には、問題を迅速に診断し、エンドユーザーの休止時間を減らせる警告およびイベントログ機能が用意されています。イベントは、システム管理 (SM) バスおよびハードウェアセンサーなどの外部ソースから生成されます。内部の vPro 自己生成イベントもあります。これらの内部イベントのソースは複数あります。システム防御フィルタ、エージェント存在障害、ファームウェア更新、およびその他の複数のシナリオによって生成されるイベントが含まれます。したがって、イベントはファン障害などの物理的オカレンス、またはウイルス攻撃などのトラフィックパターンの変更によるフィルタ検出オカレンスとなります。システム上でイベントが発生すると、vPro チップ上にある Event Manager によってイベントが立ち上げられ、イベントフィルタを参照してアクションが決定されます。イベントフィルタによって、各受信プラットフォームイベントに適用する条件セットが定義されます。受信イベントが条件に一致すると、イベントフィルタによってアクションが指定されます。これらのアクションには、HPCA コンソールへの警告の送信、vPro ログへのイベントのログ記録、またはその両方が含まれます。

vPro デバイスに予約をして、そのデバイスによって生成されたイベント警告を HPCA コンソールに送信する必要があります。予約すると、イベントフィルタ内でのイベント警告の送信先が指定されます。HPCA コンソールにどのデバイス警告を表示するかを決定するイベント警告を予約またはキャンセルできます。

Intel vPro デバイスのファームウェア チップにはデフォルトのイベント フィルター式が組み込まれています。HPCA コンソールでは、特定の vPro デバイスに対してイベント ログのイベントを表示し、記録された各イベントのタイプ、重大度、日付、説明を特定することもできます。

この機能を使用してイベント警告およびログ記録を制御できます。コンソールに送信された警告とイベント ログに書き込まれたイベントを使用して、特定のデバイスに修復または保護のアクションが必要かどうかを判断できます。

保護

ネットワーク上の vPro デバイスを悪意のあるソフトウェア攻撃やワームのまん延から保護できます。Intel vPro では、パケットのフィルタおよびネットワークのデバイス上で実行中の重要な OOBM エージェントの存在の監視によってこの機能が提供されます。送信トラフィックを継続的に観察してワームのまん延を検出し阻止するメカニズムを提供することでワームに感染しているデバイスを隔離することもできます。

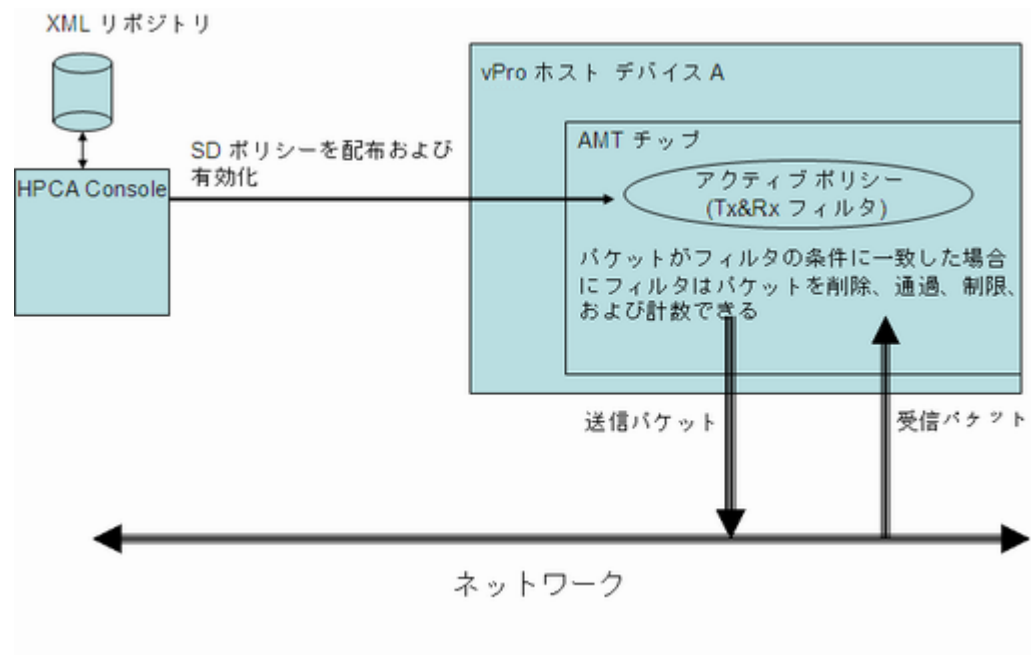
これらのトピックについては、次の各セクションで説明します。

- システム防御
- エージェント存在
- ネットワーク アウトブレイク封じ込めヒューリスティック

システム防御

次の図は、vPro デバイスによって送受信されるパケットを監視するポリシーおよびフィルタを使用したシステム防御の方法の概要を示しています。

図 5 システム防御の概要



ポリシー

システム防御 vPro 機能を使用すると、HPCA コンソールでネットワークのセキュリティ ポリシーの定義と強制を行うことができます。システム防御ポリシーには、送受信ネットワーク パケットに適用されるフィルター式とともに、パケットがフィルタ内の条件に一致した (または一致

しなかった) ときのアクションが含まれます。システム防御を使用すると、ポリシーに関連付けられたフィルタに基づき **Ethernet** および **IP** プロトコル フローの選択的なネットワーク分離ができます。これらのフィルタによって、管理コンソールは特定の **IP** ベースのネットワーク フローの通過、制限、またはブロックが可能になり、トラフィック カウントやこれらのフローのオカレンスを記録することができます。

HPCA コンソールでは、これらのフィルタとポリシーはその **XML** リポジトリに格納されます。コンソールは、システム防御ポリシーを複数の **vPro** デバイ스에 配布でき、ポリシーはデバイスのファームウェアに配置されます。

ポリシーを **vPro** デバイ스에 配布すると、**HPCA** コンソールを使用してそのデバイスのポリシーを有効にして、デフォルト システム防御ポリシーにできます。ウォッチドッグのアクションによって有効化できるエージェント存在ポリシーとしてポリシーを設定することもできます。これについては、[エージェント存在](#) ページ 172で詳細に説明します。高優先度で有効化されたポリシーが、デバイスのアクティブなポリシーとなります。ポリシーがアクティブ化されると、**vPro** デバイスによって各送受信パケットが検査され、ポリシーに関連付けられたフィルタによって指定された必要なアクションが実行されます。**vPro** デバイ스에、複数の (すなわち有線および無線) ネットワーク インターフェイス カード (NIC) がある場合、システム防御ポリシーを有効化し、それぞれの **NIC** にエージェント存在ポリシーを設定できます。

フィルタ

フィルタに関連付けられた条件が一致すると、フィルタでは次のアクションを実行できます。

- パケットを通過させる
- パケットを廃棄する
- パケットを制限する
- 統計データを収集するパケットをカウントする

パケット関連アクションの実行のほかに、フィルタではイベントを発生させることもできます。

フィルタには 2 つのモードがあります。この 2 つの方法は次のとおりです。

- **送信:** このモードのフィルタは **vPro** デバイスからネットワークに送信されるパケットに適用されます。このフィルタを使用すると、感染が疑われるデバイスからのすべてのトラフィックをブロックし、ネットワーク上の他のデバイスに感染しないようにできます。送信モードのデフォルト フィルタによって、その他のポリシー送信フィルタと一致しないすべての送信パケットが取得されます。このモードのフィルタは、通過、制限、統計、または遮断タイプにできます。
- **受信:** このモードのフィルタは、ネットワークから **vPro** デバイスが受信するパケットに適用されます。このフィルタを使用して、起動後デバイスが受信したすべてのパケットをウイルス対策エージェントなどの **OOBM** エージェントが起動するまでブロックできます。受信モードのデフォルト フィルタによって、その他のポリシー受信フィルタと一致しない受信パケットがすべて取得されます。このモードのフィルタは通過または遮断タイプです。

フィルタのタイプは複数あります。この 2 つの方法は次のとおりです。

- **デフォルト Else:** これは、受信および送信方向モードのデフォルトの **Else** フィルタです。任意のポリシー フィルタの条件と一致しないすべてのパケットの取得に使用されます。**Else** フィルタに一致すると (つまり、パケットがその他のフィルタの条件に一致しないと)、フィルタアクションを生成できます。
- **ドロップ:** これは受信および送信方向モードの両方の遮断フィルタです。フィルタ条件に一致するすべてのパケットが遮断されます。
- **パス:** これは受信および送信方向モードの両方のパス フィルタです。フィルタ条件に一致するすべてのパケットを通過させます。

- 統計ドロップ/統計パス:** これは受信および送信方向モードの両方の統計フィルタです。フィルタの条件に一致するパケット数がカウントされます。統計データの収集に使用されます。統計通過フィルタまたは統計遮断フィルタであるかに応じて、パケットを通過させるか遮断することができます。
- レート制限:** これは受信および送信方向モードの両方のレート制限フィルタです。フィルタの条件に一致する特定タイプのパケットが 1 秒あたりに送受信される数を制限します。このフィルタにはしきい値があり、しきい値に達すると追加トラフィックは切断されます。

フィルタ タイプのほかに、送信フィルタでなりすまし防止を有効化できます。このプロパティを有効化すると、すべての送信パケットがチェックされ、送信元 IP とネットワーク インターフェイス IP アドレスが比較されます。IP アドレスが一致しない場合、パケットは遮断されます。このフィルタが有効な場合、割り当てられた IP アドレスとは異なる送信元 IP アドレスを含む IP パケットを送信してホストが身元を偽ることを防止します。

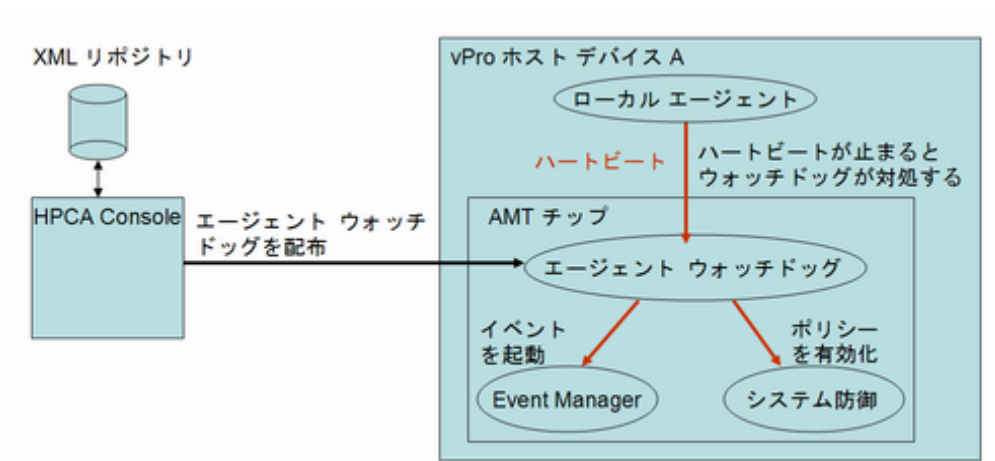
Intel vPro では、受信 (Rx) モードの 32 フィルタ、送信 (Tx) モードの 32 フィルタがサポートされます。32 の Tx および Rx モードのフィルタの各 1 つが Else (不一致) フィルタとして使用されます。なりすまし防止が有効化されている場合は、Tx モードのフィルタのいずれかが使用されます。これにより vPro デバイスに使用できるフィルタが受信用に 31、および送信用に 30 に減ります。

▶ この制限に達すると、そのデバイス上の既存のフィルタの一部を削除するまで、フィルタを含むポリシーを vPro デバイス に配布することはできなくなります。

エージェント存在

次の図は、vPro ホスト デバイス上の OOBM エージェントの存在を監視するときに関与するコンポーネントを示しています。

図 6 エージェント存在の概要



エージェント存在機能により、HPCA コンソールは、vPro デバイスのホスト CPU で実行中の OOBM エージェントの状態を監視するウォッチドッグを作成できます。通常、OOBM エージェントはウイルス対策またはファイアウォール保護関連のセキュリティアプリケーションの監視によって vPro デバイスを安全なものにするソフトウェアです。起動すると、OOBM エージェントによってウォッチドッグにハートビートが定期的送信されます。ハートビートが停止すると、ウォッチドッグはデバイスを保護するアクションを実行します。

OOBM エージェント

説明したように、OOBM エージェントはデバイスで実行中の重要なアプリケーションの状態を監視することによって vPro デバイスを安全なものにします。OOBM エージェントが監視するアプリケーションのリストはユーザー定義されます。監視対象のアプリケーションが実行を停止すると、OOBM エージェントはウォッチドッグへのハートビートの送信を停止します。ウォッチドッグによってエージェント存在ポリシーが有効化され、アクティブなポリシーになると、vPro デバイスのコンソールにシステム メッセージが表示されます。デフォルト メッセージが提供されますが、システム メッセージはユーザー定義でもあります。アプリケーション リストとシステム メッセージは vPro デバイスの 3PDS に格納されます。

OOBM エージェントがインストールされると (そして、アプリケーションのソフトウェア リストが作成されデバイスに配布されると)、NT サービスとして自動的に起動されます。起動されると、OOBM エージェントは次を実行します。

- 1 ウォッチドッグに登録します。
- 2 vPro チップからハートビート間隔を取得し、ウォッチドッグにハートビートの送信を開始します。
- 3 3PDS を読み込み、監視するアプリケーションのリストを取得して、アプリケーションの監視を開始します。アプリケーション リストの監視に同じハートビート間隔が使用されます。
- 4 アプリケーション リスト上のアプリケーションが実行を停止すると、ハートビートの送信を停止します。
- 5 ウォッチドッグをシャット ダウンし、3PDS から読み込まれるユーザー定義のシステム メッセージを表示します。

ウォッチドッグ

ウォッチドッグが実行できるアクションは、次のとおりです。

- エージェント存在ポリシーが設定されている場合は、それを有効化します。デフォルトのシステム防御ポリシーより優先度が高い場合は、エージェント存在ポリシーがアクティブなポリシーとなり、このポリシーに関連付けられたフィルタがアクティブ化され、ネットワークが保護されます。
- イベントを発行します。Event Manager が イベント フィルタで検索するものに応じて、イベントは vPro チップ上のイベント ログに書き込まれ、または HPCA コンソールに予約されている場合はイベント 警告が HPCA コンソールに送信されます。

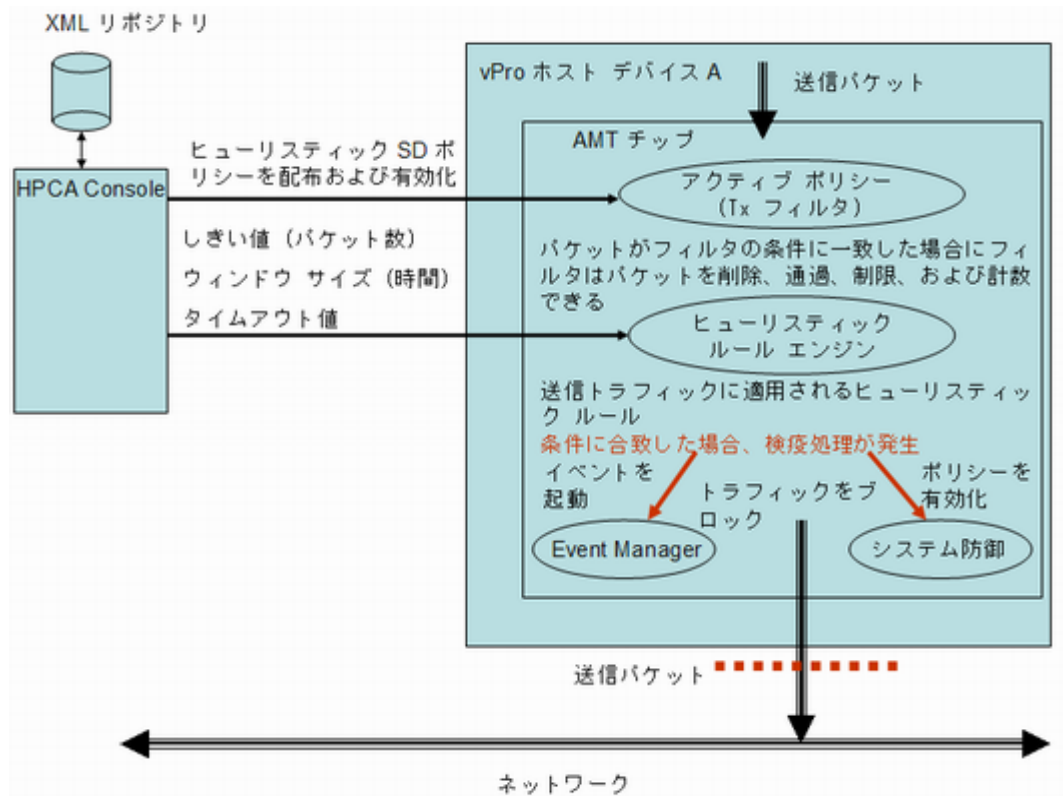
HPCA コンソールを使用して、次のことができます。

- ウォッチドッグを作成する。
- OOBM エージェントが初期化されたときにそれを検知し、このエージェントのウォッチドッグに「ハートビート」信号を定期的に送信するタイマーを指定する。
- ウォッチドッグにアクションを起こさせる OOBM エージェントの遷移状態を指定する。有効な状態は、次のとおりです。
 - 未起動
 - 停止
 - 実行中
 - 期限切れ
 - 中断
- 遷移条件 (エージェント存在ポリシーの有効化またはイベント ログ作成の有効化) に一致しない場合のウォッチドッグのアクションを設定する
- 複数の vPro デバイスに対してウォッチドッグの配布および回収を行う。
- OOBM エージェントによって監視されるアプリケーション リストを作成する。
- エージェント存在ポリシーがアクティブ化されると表示されるメッセージを作成する。

ネットワーク アウトブレイク封じ込めヒューリスティック

次の図は、ワーム封じ込めシステムのアーキテクチャの概要を示しています。

図 7 ワーム封じ込めアーキテクチャ



ワーム封じ込めヒューリスティック メカニズムにより、ネットワーク上にファイアウォールや侵入検知システムが配置されている場合でも、ネットワークに付加価値がもたらされます。ファイアウォールと侵入検知システムは既知のワームに対してのみ効果的に使用できますが、ゼロデイワームの発生に対しては効果的ではありません。

vPro ワーム封じ込めシステムは、ヒューリスティック ルールをホスト vPro デバイスからの送信トラフィックに適用することで機能します。Heuristic Rules Engine が異常を検知すると、ワーム封じ込めシステムによってネットワークはホストから隔離されます。Active Policy フィルタはホスト トラフィックの IP および TCP/UDP プロトコル ヘッダー フィールドで動作します。このフィルタリングの結果、vPro チップはパケットの遮断などの特定のアクションを実行します。

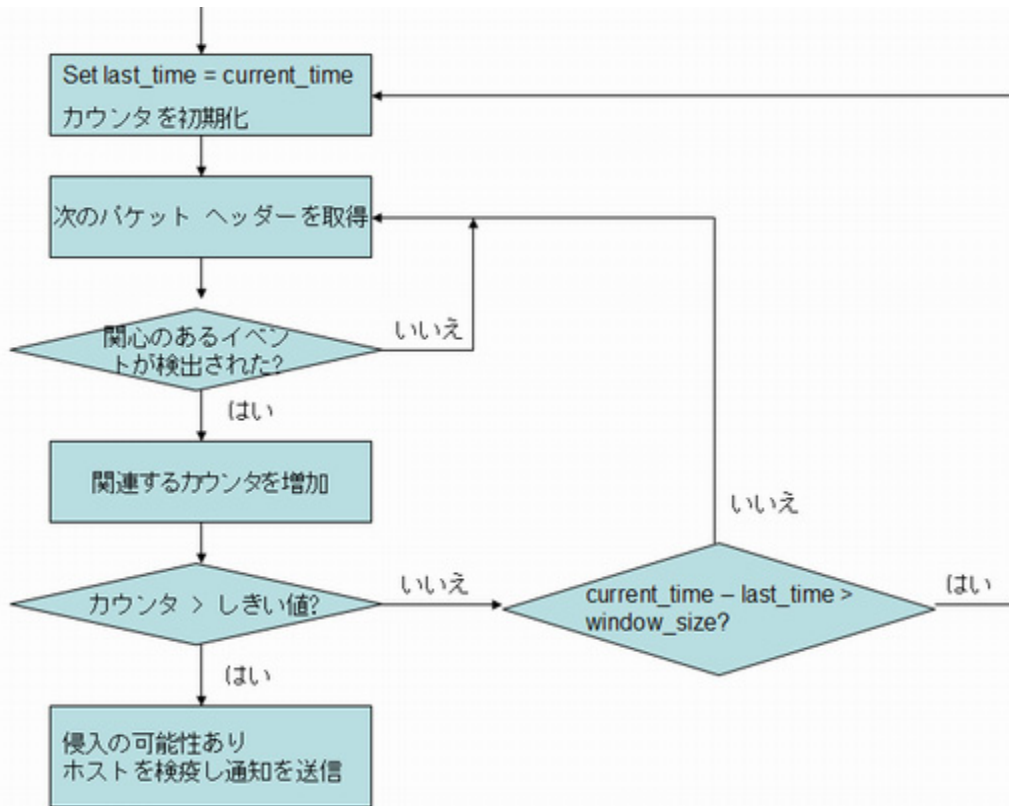
Heuristic Rules Engine によってトラフィックが分析されます。Heuristic Rules Engine によって異常トラフィックの証拠が検知されると、次のアクションのいずれかを実行します。

- イベント警告を発生させる。
- イベント警告を発生させ、原因ポートからのすべての送信パケットをブロックする。
- イベント警告を発生させ、すべてのポートからのすべての送信パケットをブロックする。
- イベントを発生させ、vPro システム防御ポリシーを有効にする。

ワーム封じ込めシステムでは、ヒューリスティック ルールに依存してワームによるスキャン アクティビティを示すトラフィック異常が検知されます。ヒューリスティック ルールはすべての自己増殖型ワームの基本特性に基づいています。つまり、ワームがネットワークに広がるには新規ホストにコンタクトする必要があります。その結果、すべてのヒューリスティック ルールでは新規ホストとのコンタクトを示唆するイベントが特定され、そのようなイベントに異常パターンがないかどうか監視されます。

次の図は、すべてのヒューリスティックで採用される基本メカニズムを示しています。

図 8 ヒューリスティックの基本操作



詳細については、ヒューリスティック ベースのワーム封じ込めシステムに関する Intel 調査を参照してください。

ウィンドウ サイズとしきい値

すべてのヒューリスティックによってパケット ヘッダーが調査され、指定時間内の「関連イベント」数がカウントされます。その結果、すべてのヒューリスティックによって、ウィンドウ サイズとしきい値という 2 つの設定可能パラメータが明らかにされます。時間枠サイズ (時間数) は、ヒューリスティックがそのカウンタをリセットする期間です。しきい値 (パケット数) は、限界値を表します。カウンタがこの値を超過する場合、異常イベントであることを示します。

HPCA コンソールでは、これらの 2 つのパラメータを設定できます。これらのパラメータを指定する場合は、別のヒューリスティック値が必要な 2 つのワーム タイプを考慮する必要があります。それは、迅速に広がるワームと感染が遅いワームです。迅速に広がるワームと感染が遅いワームについて、正常にワーム感染を検出するには、異なるウィンドウ サイズとしきい値を使用する必要があります。組み合わせられたヒューリスティック (異なるウィンドウ サイズと適切なしきい値) を使用すると、より広範囲のワームに対してより効果があります。ウィンドウ サイズが小さいヒューリスティックは迅速に広がるワームにより効果的で、ウィンドウ サイズが大きめのヒューリスティックは感染が遅いワームに効果的です。

感染が速いワームと遅いワームの設定可能な時間枠のサイズ範囲は、次のとおりです。

- 高速: 10 ミリ秒～1 秒 (1000 ミリ秒)
- 低速: 1 秒 (1000 ミリ秒)～50 秒 (50000 ミリ秒)

両ヒューリスティックの設定可能なしきい値の範囲は 8～64 パケット カウントです。

次のウィンドウ サイズとしきい値の組み合わせを設定することをお勧めします。

- 高速: 10 ミリ秒に 8 パケット
- 低速: 50 秒に 64 パケット

封じ込めアクションとタイムアウト値

HPCA コンソールでは、しきい値を超えたときにシステムで実行する必要がある自主アクションを指定することもできます。ページ 174 で示すように、イベントのみを発生させるか、またはイベントとブロックされた送信ホスト トラフィックまたは有効化されたヒューリスティック システム防御ポリシーを組み合わせたイベントを発生させるかを選択できます。アクション実行後は、**Heuristics Rules Engine** は無効化されます。

HPCA コンソールによって vPro デバイスに封じ込めアクションを適用する時間を指定できます。0 以外のタイムアウト値 (20 秒以上) を指定すると、**Heuristics Rules Engine** によってパケットのスキャンが停止され、その時間に指定したアクションが適用されます。指定した時間が経過すると、自動的にアクションが削除され、チップによってパケットのスキャンが再度開始されます。タイムアウト値を 0 に指定すると、**Heuristics Rules Engine** によってパケットのスキャンが停止され、アクションが永久に適用されます。封じ込めアクションを削除し、再度パケットのスキャンを開始させるには、手動で HPCA コンソール経由で行われるようにする必要があります。

B vPro デバイスの遅延リモート設定

デバイスをネットワークに接続後、vPro デバイスをネットワーク インターフェイスが開いているネットワーク アクセスの制限時間間隔内にプロビジョニングできなかったときに、遅延設定が実行されます。

このセクションは、次のトピックで構成されています。

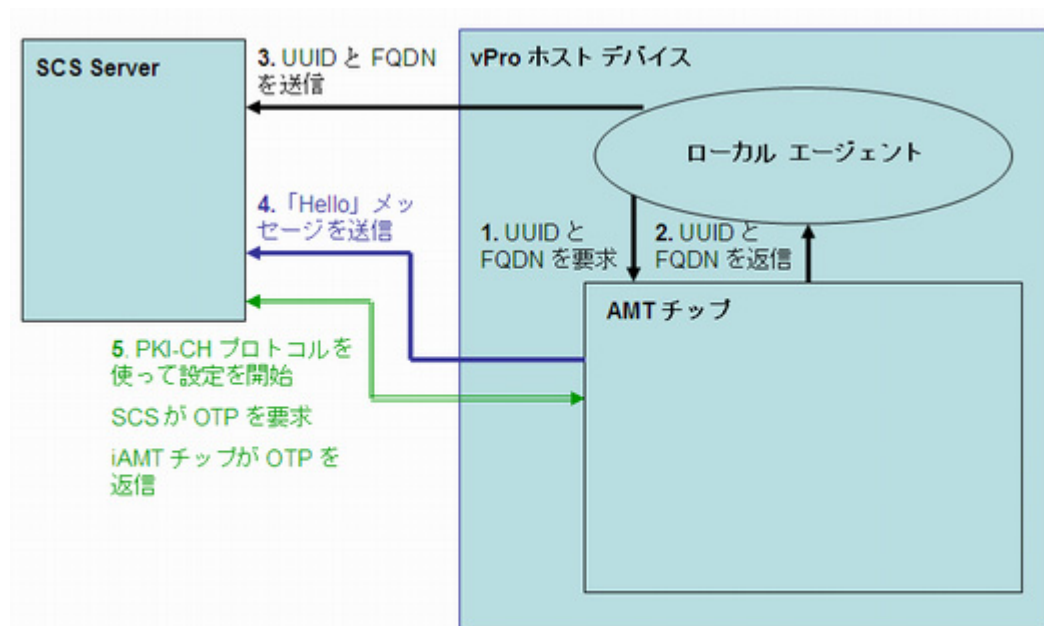
- セットアップ モードへの移行
- リモート設定 プロビジョニング プロセス
- HPCA コンソールからの遅延リモート設定

セットアップ モードへの移行

次の図は、リモート設定に OOBM エージェントを使用している場合の、vPro デバイスのセットアップ モードへの移行に関連する手順を示しています。デバイスがネットワークへの接続後すぐにプロビジョニングされていないため、これは遅延設定と呼ばれます。これに代わる (即時の) 設定については、25 ページのvPro デバイスのベア メタル リモート設定を参照してください。

vPro デバイスがセットアップ モードに移行した後で、プロビジョニングの準備ができたことを示す「Hello」メッセージが SCS Server に送信されます。

図 9 遅延設定でのセットアップモードへの移行



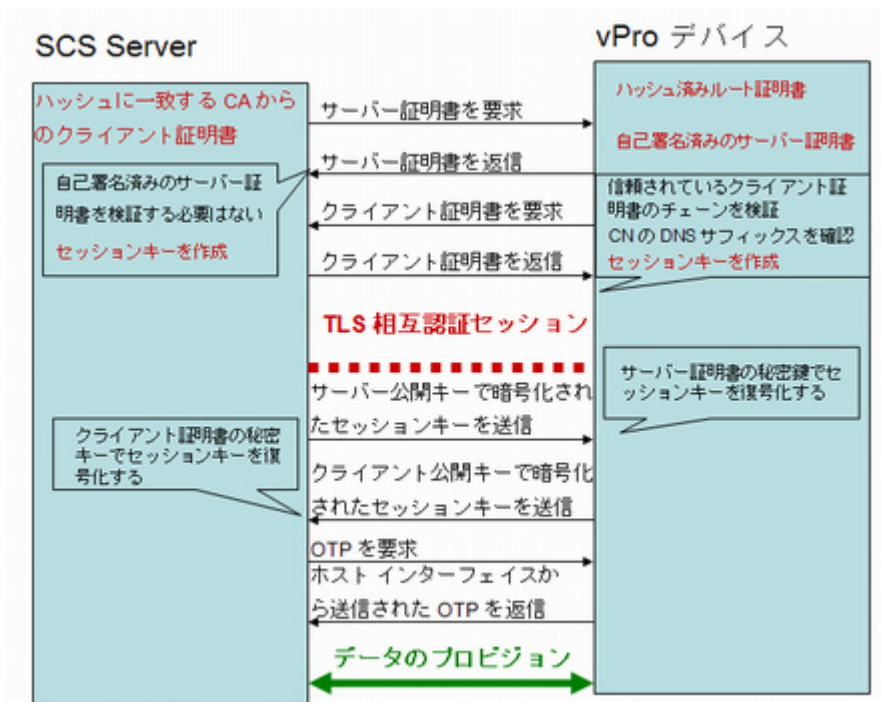
OOBM エージェントは、vPro ホスト デバイスにインストールされている必要があります。OOBM エージェントでは vPro デバイスが検出され、次のことが行われます。

- 1 OOBM エージェントが、vPro デバイスに **UUID** および **FQDN** を要求します。
- 2 vPro デバイスはその値を OOBM エージェントに返します。
- 3 OOBM エージェントがその値を **SCS Server** に送信します。
- 4 vPro デバイスが **SCS Server** に「Hello」メッセージの送信を開始します。
- 5 **SCS Server** が **PKI-CH** プロトコルを使用してプロビジョニング プロセスを始めます。**SCS Server** と vPro デバイスの間で **OTP** が交換されます。

リモート設定 プロビジョニング プロセス

リモート設定プロビジョニング プロセス中は、**TLS** 相互認証が使用されてセキュアなチャネルが作成されます。次の図はプロビジョニング プロセスの流れを示しています。

図 10 リモート設定プロビジョニング プロセス



プロビジョニング プロセスは次の手順で実行されます。

- 1 vPro デバイスが設定プロセスを開始することを OOBM エージェントが要求します。デバイスは、限られた時間 (Intel マシンの場合は 24 時間、HP デスクトップの場合は 255 時間) だけネットワーク インターフェイスを開き、「Hello」メッセージの送信を始めます。インターフェイスは、OOBM が初めて有効になったときに、指定された時間だけ開きます。セットアップと設定が完了する前に指定の時間が経過した場合は、それ以降、OOBM エージェントが設定を開始するための呼び出しを行なうと、6 時間に限ってインターフェイスが開きます。
- 2 **SCS Server** が次のことを行います。
 - ルート証明書ハッシュを「Hello」メッセージから抽出し、どのクライアント証明書を vPro デバイスの検証のために送信するかを認識します。

- 受信したハッシュのものと一致する、信頼できるルート証明書を組み込んだ証明書チェーンを送信します。
- 3 vPro デバイスは次のことを行います。
 - SCS クライアント証明書を検証します。OID または OU が正しいかどうかと、ルート証明書ハッシュの 1 つと一致する CA から提供された証明書であるかどうかをチェックします。
 - ドメイン サフィックスが SCS 証明書の DNS サフィックスと一致することを確認します。
 - 4 SCS Server と vPro デバイスが、完全な相互認証セッション キー交換を実行します。
 - vPro デバイスは自己署名証明書を使用し、公開キーを送信します。
 - SCS は TLS セッション キーを作成し、vPro デバイス公開キーで暗号化して vPro デバイスに送信します。
 - vPro デバイスは自身の秘密キーを使ってセッション キーを復号化します。vPro デバイスは別のセッション キーを作成して、SCS Server が検証用に vPro デバイスに送信したクライアント公開キーでこのセッション キーを暗号化します。セットアップと設定の TLS セッション中は、トラフィックの対称暗号化にこのセッション キー ペアが使用されます。
 - 5 SCS Server と vPro デバイスの間でワンタイム パスワード (OTP) 検証が行われます。SCS Server は vPro デバイスから OTP を要求します。デバイスは OTP を安全に送信し、SCS Server はそれが正しいかどうかを調べます。
 - 6 デバイスがプロビジョニングされるまで、セットアップと設定プロセスが続きます。vPro デバイスのネットワーク インターフェイスは最初の「Hello」メッセージの送信後、限られた時間しか開かないため、SCS Server はこの時間を最長 24 時間まで延長することを vPro デバイスに指定して設定プロセスを完了させることができます。

HPCA コンソールからの遅延リモート設定

HPCA コンソールから、最初の Setup and Configuration Service (SCS) プロビジョニング プロセス中にプロビジョニングされなかった vPro デバイスをプロビジョニングできます。

HPCA コンソールから実行されるタイプのプロビジョニングは、遅延リモート設定プロビジョニングと呼ばれます。セットアップを有効にするデバイスごとに PID と PPS のペアを手動でインストールする必要がなく、SCS Server のアドレスやドメイン名などに関する情報を入力する必要がないため、これはリモート設定であるとみなされます。このプロビジョニングは自動的に管理コンソールからリモートに実行されます。デバイスがネットワークに初めて接続されたときにそのデバイスに許可された時間内にプロビジョニングされないため、これは遅延設定とみなされます。

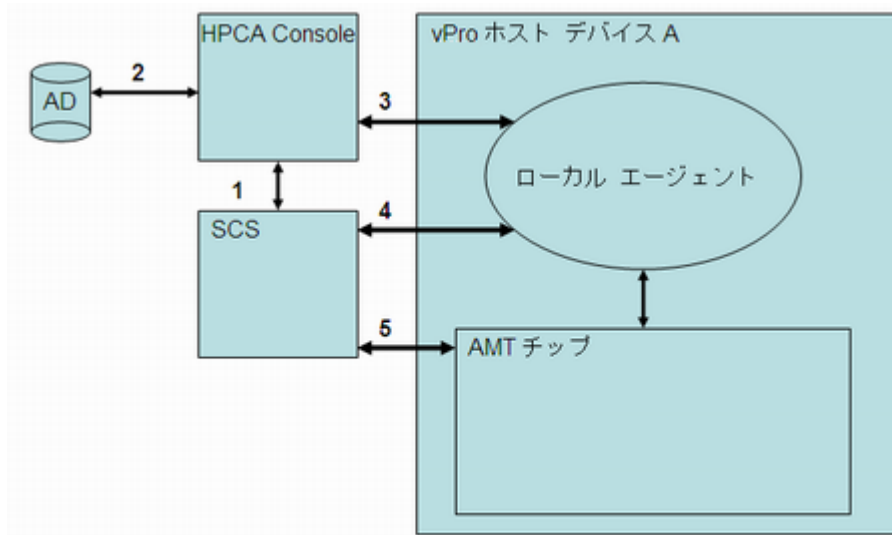
リモート設定を使用するには、24 ページのリモート設定を使用した vPro デバイスの設定で説明されているすべての要件を満たす必要があります。



vPro デバイスがプロビジョニングされていないかプロビジョニング中の状態である場合に限り、リモート設定を使用して vPro デバイスをプロビジョニングできます。すでにプロビジョニングされている vPro デバイスは、リモート設定を使用して再びプロビジョニングすることはできません。vPro デバイスの再プロビジョニングは手動で行ってください。

vPro デバイスのプロビジョニングに必要な情報を取得するため、HPCA コンソールでは、vPro デバイスで動作している OOBM エージェント、SCS Server、および Active Directory と通信します。

図 11 HPCA コンソールからの遅延リモート設定



次のような通信が交わされます。

- 1 HPCA コンソールは SCS と通信し、すでにプロビジョニング済みのデバイスおよび現在プロビジョニング中のデバイスのリストを取得します。
- 2 HPCA コンソールは Active Directory (AD) と通信し、その特定ドメインのデバイスのリストを取得します。管理コンソールは、すべてのデバイスおよびそれぞれのプロビジョニング状態をリストします。
- 3 HPCA コンソールは、デフォルトのポートで OOBM エージェントとの通信を試みます。エージェントがインストールされている場合は、プロビジョニングされていない状態のデバイスが HPCA コンソールに表示されます。HPCA コンソールは、OOBM エージェントとの通信が確立されると、遅延設定プロセスの開始を OOBM エージェントに要求します。
- 4 デバイスがプロビジョニングされていないかプロビジョニング中の状態である場合、OOBM エージェントは SCS サーバーと接続し、デバイスの FQDN、UUID、プロファイル ID を保存しようとします。このとき hello パケットが生成されます。
- 5 SCS サーバーが PKI-CH プロトコルを使用して vPro デバイスをプロビジョニングします。

C 信頼された証明書

信頼された証明書

SSL (Secure Sockets Layer) 接続は、公開キー インフラストラクチャ (PKI) を使用して保護されます。PKI では、非対称キー ペア (公開と秘密) を使用して通信を保護します。このキーのペアを使用して、クライアントとサーバーの相互通信時に交換されるデータの暗号化と復号化を行います。公開キーは共有されており、データの暗号化に使用されます。秘密キーは、証明書の所有者により非公開で所持され、証明書の公開キーで暗号化されたデータを復号化するために使用します。

サーバー認証で PKI を使用する場合、クライアントはサーバー証明書の公開キーを使用してメッセージを暗号化し、サーバーは秘密キーを使用してメッセージを復号化します。逆に、クライアント認証では、サーバーはクライアント証明書の公開キーを使用してメッセージを暗号化し、クライアントは秘密キーを使用してメッセージを復号化します。

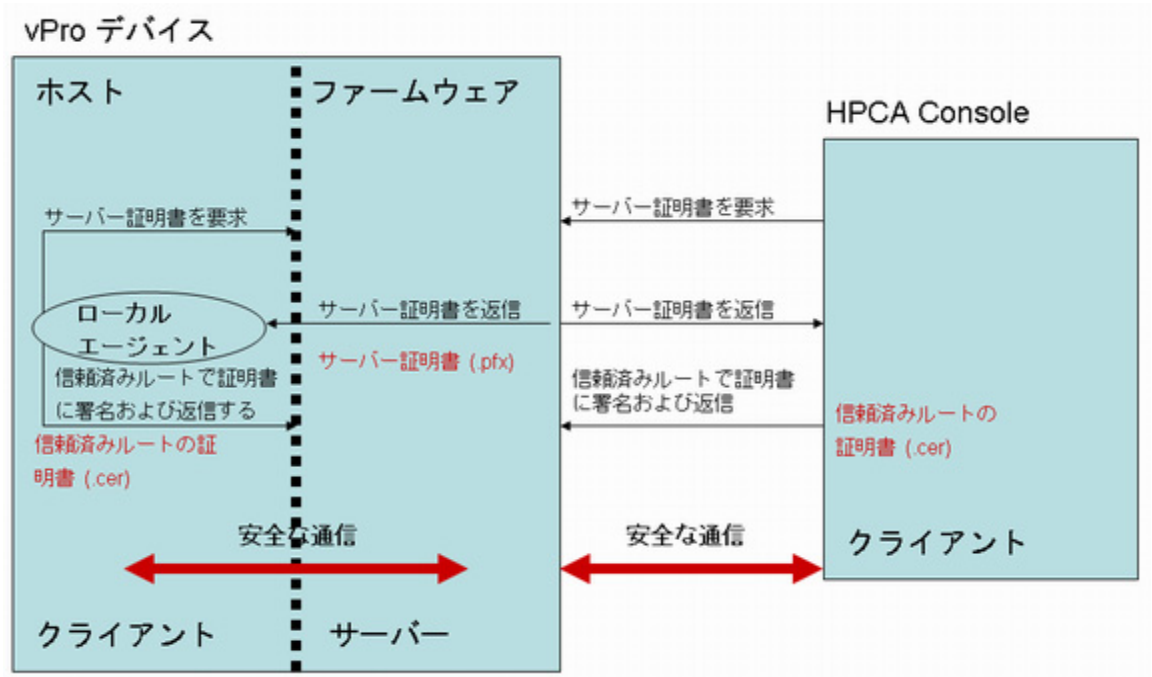
TLS (Transport Layer Security) プロトコルには、TLS サーバー認証 (一方向認証) および TLS 相互認証 (双方向認証) の 2 種類の認証方法があります。TLS プロトコルでは、vPro デバイスのファームウェアが SSL サーバーとなります。HPCA コンソールおよび、ホスト vPro デバイスで稼動している OOBM エージェントは、クライアントとして動作します。

TLS サーバー認証

TLS サーバー認証で TLS セッションを確立するとき、クライアントは vPro デバイスのファームウェアから受信した SSL 証明書の有効性の検証を試みます。この検証を実行するには、クライアントは証明書に署名した Certification Authority (CA) の公開キーを所有している必要があります。公開キーは、サーバー証明書を作成した CA と同じ CA が作成した信頼されたルート証明書内に存在します。信頼されたルート証明書は、ドメインの Active Directory に接続しているすべての vPro システム上にすでに存在します。クライアントは、サーバーの身元を証明する信頼されたルート証明書付きの証明書に署名し、サーバーに送り返します。これにより、クライアントがアプリケーション データをファームウェアに送信するときに、クライアントとして動作するコンポーネントと vPro デバイスのファームウェア間の通信が保護されます。

次の図では、ホスト デバイス上で実行している OOBM エージェントと HPCA コンソールは、両方とも vPro ファームウェアのクライアントです。OOBM エージェントの機能についての詳細は、この章で後述するほか、このガイドの各所で説明されています。

図 12 TLS サーバー認証



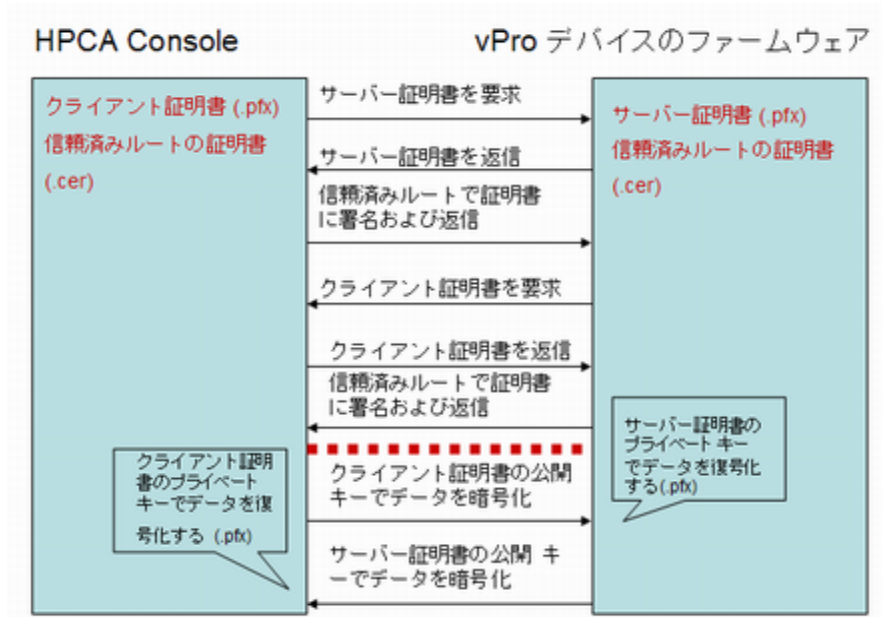
TLS 相互認証

クライアントとサーバー間で受け渡される証明書が 1 つのみの TLS サーバー認証に加え、TLS 相互認証は 2 つの証明書を受け渡して通信の両端の認証を行うため、より強力なセキュリティが提供されます。相互認証では、クライアントはサーバーによる署名が必要な証明書を送信し、同様にサーバーはクライアントにより署名される証明書を送信します。前述したように、公開および秘密の証明書キーを使用して、データを暗号化および復号化します。

このモデルでも、HPCA コンソールおよび OOBM エージェントは SSL クライアントとして動作します。クライアントは、自身の SSL クライアント証明書を vPro デバイスに送信してクライアント認証を受ける必要があります。また、vPro デバイスは、検証(クライアント証明書の署名)を行つために、ファームウェアにインポートされた信頼されたルート証明書(公開キー)を所有している必要があります。

HPCA コンソールがクライアントである場合、信頼されるルート証明書は HPCA コンソールマシンの信頼キー ストアにもインポートされている必要があります。これにより HPCA コンソールは、サーバーを認証するために vPro デバイスが送信するサーバー証明書への署名が可能になります。HPCA コンソールにインストールされているクライアント証明書には、完全な証明書チェーンおよび証明書の秘密キーが入っている必要があります。この機能によりクライアントとサーバー両方の相互認証が可能になり、TLS セッションのセキュリティ レベルが強化されます。次の図では、HPCA コンソールが vPro ファームウェアのクライアントとして動作しています。

図 13 HPCA コンソールと vPro デバイス ファームウェア間の TLS 相互認証



vPro クライアント証明書の指定時にはいくつかの要件があります。タスクには次が含まれます。

- 証明書には、1.3.6.1.5.5.7.3.2 OID が入っている必要があります。これは、TLS 証明書であることを示すものです。
- リーフ証明書の拡張キー使用法 OID リスト フィールドには、2.16.840.1.113741.1.2.1 OID が入っている必要があります。OID は、HPCA コンソールを認証するために vPro デバイスにより使用されます。

サーバーおよびクライアント証明書テンプレートの作成手順で、これらの値を使用します。相互認証機能を使用するには、vPro デバイスは SSL クライアント証明書に署名しているルート証明書をデバイスの信頼リスト内に所有する必要があります。ルート証明書は、vPro デバイスのセットアップおよび設定プロセスで vPro デバイスに提供されます。詳細は、22 ページ **プロファイルの作成と設定** で説明しています。

